



平成27年度

「学校応援団」 「放課後子供教室」 実践事例集

< 学校応援団推進事業 >
< 放課後子供教室推進事業 >



埼玉県教育委員会

平成28年3月

はじめに

近年、子供たちを取り巻く環境の急激な変化や、いじめや不登校等、学校が様々な課題を抱えている中、学校・家庭・地域が連携・協力し、一体となって子供たちの育成を図っていくことが大変重要になっています。平成18年の教育基本法の改正以来、「学校支援地域本部事業」や「放課後子ども総合プラン」の推進など、地域全体で子供を見守り育てる施策が実施され、全国各地で特色ある取組が展開されています。

本県においても、第2期埼玉県教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」の中で、「学校応援団」と「放課後子供教室」等を主要な施策と位置付け、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進しています。

「学校応援団」は、保護者・地域住民が学校の教育活動を支援するものであり、「放課後子供教室」は、子供たちに放課後・週末等における安全・安心な居場所を提供するものです。また、地域や社会人の参画を得て実施する「土曜日の教育支援」や「中学生学力アップ教室」などの事業も、本県の将来を見据えた若い世代の支援・人材育成に係る重要な取組です。

各市町村や学校の熱意ある取組、また、保護者や地域の方々の御理解、御協力を得て、全ての小・中学校に「学校応援団」が設置されるとともに、「放課後子供教室」等の対象学校数が増加するなど、着実に本事業の充実が図られています。各事業に関わる子供たちと保護者や地域の方々との交流が深まる中で、地域で子供たちを育てようとする気運が醸成されており、関係の皆様方には、改めて感謝申し上げます。

また、平成26年度に引き続き「地域人材を活用した特色ある『学校応援団』活動の推進」の研究として、草加市、小川町、美里町、小鹿野町、越谷市の5市町教育委員会に研究実践に取り組んでいただき、地域の特色を生かした「学校応援団」活動の充実に向けた貴重な研究成果を報告いただきました。

本事例集では、「学校応援団」と「放課後子供教室」等の事業を推進する上で参考となる代表的な事例を紹介するとともに、研究指定校における研究内容及び成果等についても掲載しています。

各市町村教育委員会及び各小・中学校、関係団体におかれましては、本事例集を参考にいただき、「学校応援団」や「放課後子供教室」等の活動を通して、学校・家庭・地域が一体となった子供の育成を一層推進していただきますようお願い申し上げます。

平成28年3月

埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課長 藤田 栄二

目 次

第1 「学校応援団」とは

学校応援団の概要について	2
--------------------	---

第2 「学校応援団」のテーマ別実践事例

1 組織体制の整備

・ 神川町立青柳小学校	8
・ 横瀬町立横瀬小学校	10
・ 行田市立中央小学校	12

2 活動内容の工夫

・ 鴻巣市立鴻巣東小学校	14
・ 伊奈町立小針北小学校	16
・ 富士見市立勝瀬小学校	18
・ ふじみ野市立上野台小学校	20

3 地域に根ざした活動

・ 飯能市立飯能第一小学校	22
・ 鶴ヶ島市立藤小学校	24
・ 毛呂山町立毛呂山小学校	26
・ 久喜市立菖蒲東小学校	28
・ 三郷市立八木郷小学校	30
・ 蓮田市立黒浜小学校	32

4 学校・地域の団体等との連携

・ 戸田市立戸田第二小学校	34
・ 和光市立本町小学校	36
・ 新座市立西堀小学校	38
・ 北本市立西小学校	40
・ 坂戸市立片柳小学校	42

5 中学校における取組

・ 川口市立小谷場中学校	44
・ 桶川市立桶川西中学校	46
・ 東松山市立北中学校	48
・ 狭山市立柏原中学校	50
・ 三芳町立三芳東中学校	52
・ 深谷市立花園中学校	54
・ 宮代町立百間中学校	56

第3 「学校応援団」参考資料

平成27年度第2回学校応援団の組織づくりの推進に係る調査結果概要.... 60

第4 「放課後子供教室推進事業」とは

「放課後子供教室推進事業」について..... 66

第5 「放課後子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)

(放課後子供教室)

1	熊谷市.....	76
2	川口市.....	77
3	行田市.....	78
4	秩父市.....	79
5	所沢市.....	80
6	東松山市.....	81
7	春日部市.....	82
8	狭山市.....	83
9	羽生市.....	84
10	鴻巣市.....	85
11	草加市.....	86
12	蕨市.....	87
13	戸田市.....	88
14	入間市.....	89
15	志木市.....	90
16	和光市.....	91
17	新座市.....	92
18	桶川市.....	93
19	久喜市.....	94
20	北本市.....	95
21	八潮市.....	96
22	富士見市.....	97
23	三郷市.....	98
24	蓮田市.....	99
25	坂戸市.....	100
26	幸手市.....	101
27	鶴ヶ島市.....	102
28	日高市.....	103
29	ふじみ野市.....	104
30	毛呂山町.....	105
31	嵐山町.....	106
32	川島町.....	107
33	吉見町.....	108

34	ときがわ町	109
35	横瀬町	110
36	小鹿野町	111
37	上里町	112
38	杉戸町	113

(土曜日の教育支援)

1	熊谷市	114
2	所沢市	115
3	東松山市	116
4	深谷市	117
5	蕨市	118
6	朝霞市	119
7	志木市	120
8	新座市	121
9	北本市	122
10	三郷市	123
11	坂戸市	124
12	ふじみ野市	125
13	ときがわ町	126

(中学生学力アップ教室)

1	北本市	127
2	上里町	128

第6 「放課後子供教室推進事業」の成果と課題

「放課後子供教室推進事業」の成果と課題	130
---------------------	-----

第7 地域人材を活用した特色ある「学校応援団」活動の推進のための研究委嘱について

地域人材を活用した特色ある「学校応援団」活動の推進のための研究委嘱について	134
---------------------------------------	-----

第8 地域人材を活用した特色ある「学校応援団」活動の推進のための研究 実践事例

1	草加市	138
2	小川町	140
3	美里町	142
4	小鹿野町	144
5	越谷市	146

※本事例集では、平成27年度における埼玉県内の市町村（政令指定都市を除く）の事例等を掲載している。

第1 「学校応援団」とは



学校応援団の概要について

1 趣旨及び背景

(1) 趣 旨

学校・家庭・地域が一体となって子供の育成に取り組む。

- 学校の活性化を図る。
- 家庭や地域の教育力の向上を目指す。

(2) 背 景

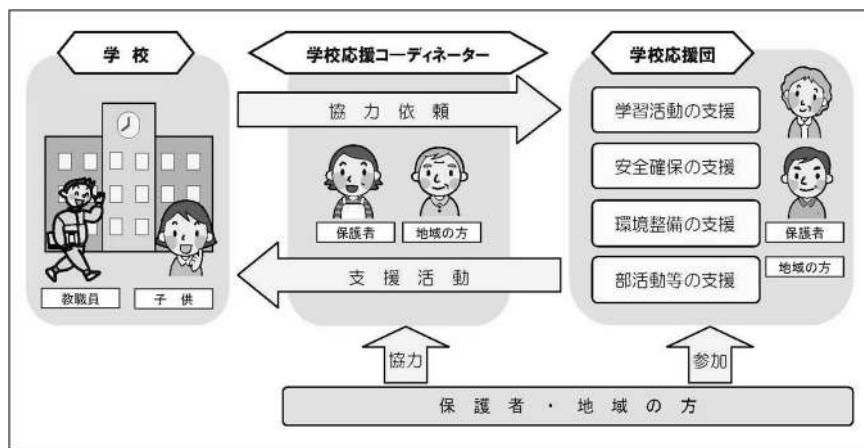
少子化、核家族化、都市化、情報化など、社会の急激な変化に伴い、子供たちを取り巻く環境に様々な課題が生じている。

- 学校 …… 学力低下の懸念、規範意識の低下、体力の低下、社会の変化への対応の必要、学校教育の役割の増大
- 家庭 …… 家庭の教育力の低下、保護者の価値観の多様化
- 地域 …… 地域の教育力の低下、異年齢や異世代の人との交流の減少

2 内 容

(1) 「学校応援団」とは

- 保護者や地域住民が、ボランティアとして学校の教育活動を支援する組織。
- 学校とボランティアとの橋渡し役として、「学校応援コーディネーター」が置かれている。



【現 状】

(平成28年2月1日現在)

組織状況	小 学 校	中 学 校
全学校数	708校	359校
学校応援団設置校	708校	359校
組織率	100%	100%

(2) 「学校応援コーディネーター」とは

- 学校と「学校応援団」との間に立って調整を行うボランティア。
県では、「学校応援団」の組織的・継続的な活動を目指すため、「学校応援コーディネーター」の配置を推奨している。
- 「学校応援コーディネーター」の担い手
(例) ・ P T A 役員、元 P T A 役員、同窓生
・ 町内会長、区長、自治会長
・ 学校支援グループの代表
- 「学校応援コーディネーター」の役割
(例) ・ 学校の依頼を受けて、ボランティアと連絡・調整
・ 地域の情報を学校に提供
・ 「学校応援団」の登録者名簿の管理

【現 状】

(平成28年2月1日現在)

	小 学 校	中 学 校
配置されている学校数	708校	359校
配置されている人数	1,761人	720人

(3) 「学校応援団」の主な活動内容

- 学習活動への支援
保護者や地域住民が「学習支援ボランティア」として、児童生徒の学習活動を支援
(例) ・ ミシン、書写等の実技支援
・ 放課後、長期休業中等の補習支援
・ 体験活動（「みどりの学校ファーム」を含む）への支援 等
- 安心・安全確保への支援
校区内で防犯パトロールを行うなど、児童生徒の登下校時などの安全確保を支援
(例) ・ 登下校時における通学路の見守り
・ 朝の挨拶運動、校内外の巡回
・ 防災訓練への協力 等
- 学校環境整備への支援
学校内での花壇の整備を行うなど、教育活動の環境整備を支援
(例) ・ 花壇の整備、除草
・ 学校の施設設備の修繕
・ 学校図書館の図書整理 等
- 部活動・クラブ活動への支援
ボランティアの経験を活かした部活動指導や大会への引率支援
(例) ・ 外部コーチとしての実技指導
・ 大会への引率支援 等

【現 状】

(平成28年2月1日現在)

活動内容	小 学 校	中 学 校
学習活動への支援	696校	201校
安心・安全確保への支援	703校	303校
学校の環境整備への支援	673校	318校
部活動・クラブ活動への支援	183校	181校

※複数の活動を行う学校あり



【のこぎり作業の支援】



【校外学習の付き添い】



【花壇の整備】

【成 果】

- 学校の教育活動の活性化
 - ・学習活動への支援により、子供の学習に対する興味や関心が高まった。
 - ・子供が地域住民と元気に挨拶をしたり、お礼を言ったりすることができるようになった。
 - ・「みどりの学校ファーム」の農業体験活動における除草や技術指導、地域伝統芸能の技術指導などにより、学校における体験活動の内容が充実するようになった。
- 家庭や地域の教育力の向上
 - ・保護者がどの子に対しても、わが子と同じ思いで接するようになり、地域の一体感が広がりつつある。
 - ・自分の得意なことを「学校応援団」での活動に生かすことが、保護者や地域住民の喜びや生きがいになっており、継続的な支援につながっている。
 - ・学校応援団のコーディネーターやボランティアが「放課後子供教室」の教育活動サポーター等としても活動するなど、活動間の連携を通して、地域の人々の結びつきが生まれ、地域の教育力が向上している。

【課 題】

- ・「学校応援団」の活動内容の充実
- ・ボランティア及び学校応援コーディネーターの確保

3 「学校応援団」の組織率の推移

(平成28年2月1日現在)

	小学校		中学校	
	応援団が組織されている学校数	組織率(※)	応援団が組織されている学校数	組織率(※)
平成17年度	7校	1%		
平成18年度	208校	29%		
平成19年度	270校	38%		
平成20年度	456校	64%	122校	33%
平成21年度	637校	89%	192校	52%
平成22年度	713校	99%	276校	75%
平成23年度	713校	100%	351校	97%
平成24年度	710校	100%	363校	100%
平成25年度	709校	100%	362校	100%
平成26年度	708校	100%	361校	100%
平成27年度	708校	100%	359校	100%

※「組織率」＝「応援団が組織されている学校数」／「全学校数」

4 推進方策

(1) 学校・家庭・地域の連携協力推進事業の活用

- 本県の「学校応援団」の推進につながることから、国の補助事業を活用し、「学校応援団」を拡充することを目指す。

(2) その他の方策

- 市町村・PTA・民間団体の代表者からなる推進委員会を核とし、県と市町村との推進体制（担当者会議）を整備して、全県への普及・啓発を推進する。
- 地区別実践発表会や、ホームページ、実践事例集による普及・啓発を推進する。

(3) 主な取組〈平成27年度〉

- 財政的な支援（例：防犯隊用ベスト、広報チラシ印刷、保険料等）
 - ・学校・家庭・地域の連携協力推進事業 25市町村で活用（政令市・中核市除く）
- 全県への普及・啓発
 - ・県の「学校・家庭・地域連携推進委員会」 2回開催
 - ・教育事務所での「学校・家庭・地域連携担当者会議」 2回開催×4地区
 - ・各地区での「学校・家庭・地域連携実践発表会」 6か所で実施

第2 「学校応援団」の テーマ別実践事例



1 組織体制の整備

神川町立青柳小学校の実践

～ 地域の学校を地域で育てる学校応援団 ～

1 実践のねらい

本校のめざす学校像、『夢や希望を持ち、一人一人が輝いている学校』を実現するためには、教育活動への地域の支援が不可欠である。そのため、従来からある地域の組織やボランティア活動を、①安全安心活動の応援②学校環境整備等の応援③学習活動の応援、にまとめ「青柳小学校・学校応援団」として地域の教育力を生かした効果的な学校支援が出来る体制の下、地域と一体となった教育活動を実践する。

2 事業計画

安心・安全支援、環境整備支援、学習支援を中心に、以前から様々な形で御協力をいただいていたPTA、地区ボランティア、公民館活動の各団体、さらに青柳地区更生保護女性会、敬老会（老人会）などの団体を学校応援団として組織する。また、地域の全戸に募集のプリントを配布し、個人の登録を呼びかけている。

- ・学校応援団コーディネーターの委嘱、各種取組の支援要請
- ・学校応援団活動年間計画の作成
- ・安心・安全支援、環境整備支援、学習支援の活動計画
- ・1年間の評価と活動計画の改善

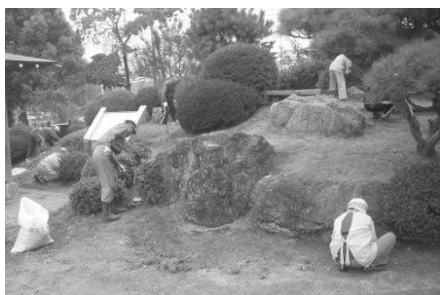
3 事業内容

(1) 安心・安全支援



下校時の指導、昇降口での挨拶運動等、児童の安全確保に支援をいただいている。

(2) 環境整備支援



校庭の除草作業、樹木の剪定、花壇の植栽等、学校の環境整備に支援をいただいている。

(3) 学習支援



家庭科のつみこづくり、町探検の引率、読み聞かせ等、多数の指導をいただいている。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 「学校は地域・家庭に支えられている」という児童の意識が高まった。

児童は、学校応援団に支援を頂くことで地域の方々との交流が増え、絆が強まった。また、地域で活動することの大切さへの意識も深まった。

イ 地域の方の学校への理解が深まった。

「今まで入ることの少なかった小学校へ来てみると、小学生がよく挨拶をしてくれて、子供のイメージが変わった。」等の感想をいただいている。小学生の現状を知ってもらう機会にもなっている。

ウ 教職員が児童と関わる時間の確保ができるようになった。

今まで、教職員だけで活動してきたことが応援団の方の協力をいただくことで、専門的な指導を受けることができ、教職員も余裕を持って児童の個別指導等に取り組むことができた。児童にとっても、普段接しない人から指導を受けることによって、違った刺激を受け、学習意欲の向上にも役立っている。

(2) 課題

ア 学習支援を拡充するために、コーディネーターとの連携と研修を推進する。

イ コーディネーターや登録者の活動場所の確保、活動内容の改善をすすめる。

ウ 学校応援団登録者のリストを精選し、量的拡充と質的向上を図る。

エ P T A活動と学校応援団活動の連携とすみ分けを明確にする。

1 組織体制の整備

横瀬町立横瀬小学校の実践 ～ 地域の特性を生かした学校応援団の取組 ～

1 実践のねらい

横瀬町は学校の統廃合により、現在小・中学校が各1校という、県内でも数少ない特性をもった自治体である。そのため、地域住民の学校教育への期待・関心は高い。

従来、地域の多くの方々に学校教育全般に対してご協力いただいております。既存の組織を生かして町全域で一つの学校応援団を組織し活動している。小学校における多くの体験活動が学校応援団により支えられており、登録制により100名を超えるボランティアの方々が、学校教育・環境美化・安全安心の3分野における支援活動に取り組んでいる。

2 事業計画

- 3月 ・支援ボランティア募集
- 4月 ・学校応援団安心安全ボランティア紹介式
・各学校での取組開始
- 6月 ・第1回実行委員会開催（組織づくり、事業計画立案）
- 7月 ・第1回学校応援コーディネーター連絡協議会開催（活動内容について協議）
- 9月 ・第2回学校応援コーディネーター連絡協議会開催
（1学期活動報告、学校応援団ボランティア研修会の開催に向けて協議）
・第2回実行委員会開催（学校応援団ボランティア研修会について協議）
- 11月 ・学校応援団ボランティア研修会の開催
- 1月 ・第3回学校応援コーディネーター連絡協議会開催
（1、2学期活動報告、刊行物原稿検討）
・第3回実行委員会開催（今年度の成果・課題、次年度に向けて協議）
- 3月 ・刊行物「横瀬町学校応援団の取組」発行、回覧

3 事業内容

(1) 組織づくり・コーディネーター

○横瀬町実行委員会【構成人員9名】

各学校長、各PTA会長、文化協会長、子ども会連絡協議会長、事務局（教育委員会職員）

○学校応援コーディネーター連絡協議会【構成人員10名】

前PTA会員、横瀬町公民館職員、民生・児童委員事務局（各学校教頭・主幹教諭・教務主任、教育委員会職員）

(2) 支援内容（学習支援・安心安全・環境整備・部活動）

○学校教育支援【登録者53名】

[教科等での教育支援]

- ・しいたけ栽培、読み聞かせ、昔遊び、農業体験、福祉体験、ミシン操作、調理実習などの学習への支援



福祉体験（手話）

1 組織体制の整備

[特別活動での支援]

- ・菊づくり、将棋クラブなどの活動への支援

○環境美化支援【登録者33名】

[環境美化活動]

- ・校庭の除草作業、花の苗植え、図書の整理など

○安心安全支援【登録者24名】

[安心・安全への支援]

- ・登下校の見守り、防犯看板の整備など

(3) 企業、NPO等との連携

[学校応援団ボランティア研修会の開催]

日時 平成27年11月10日(火)

会場 横瀬町立横瀬小学校

対象 支援ボランティア、小中学校PTA、町民

講師 NPO法人スクールアドバイスネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

- ・「地域との連携で学校支援の充実を」との演題で、地域教育の必要性や方法、実践例などを講演していただいた。



安心安全ボランティア紹介式



学校応援団ボランティア研修会

4 成果と課題

(1) 成果

- ・登録制により支援ボランティアを募り、地域住民への協力を図りながら活動内容を充実させることができた。
- ・経験豊かな講師による研修会をとおして、学校応援団の活性化と支援ボランティア間の親睦を図ることができた。
- ・支援ボランティアとしてご協力いただいている方たちの意欲や関心を高めることができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

- ・「毎日の見守りは大変だけど、子供たちが気持ちのよいあいさつをしてくれるので、楽しく続けることができています。」
- ・「学習のお手伝いをしながら、こちらも楽しく参加させていただきました。その後子供たちからお礼の手紙をいただき、嬉しくて温かい気持ちとなりました。また、お手伝いさせていただきたいと感じました。」

(3) 課題

- ・支援ボランティアの登録方法の改善と応援団の諸活動の普及に努め、「地域の子供たちは地域で育てる」学校応援団として、一層活性化を図ることが必要である。

1 組織体制の整備

行田市立中央小学校の実践

～ 家庭・地域との連携による学校運営の充実と発展 ～

1 実践のねらい

家庭を含む地域全体で中央小の教育活動を支援する体制づくりを推進することにより、教職員の子供と向き合う時間の増加や地域住民等の学習成果の活用機会の拡充及び家庭・地域の教育力の活性化を図ることがねらいである。特に本校では、従来から組織されている登下校の地域の安全支援（見守りボランティア）、地域を生かした体験学習等の教育支援、学校内の樹木関係の環境整備について学校応援団として家庭・地域に呼びかけ、改めて組織化を進めている。学校応援団の地道で継続的な活動を通して、児童の安心・安全や授業の充実、学習環境の整備等を行い、学校運営の一助として実践した。

2 事業計画

- (1) 学校応援団本部会議・・・年3回開催し、本年度の方向性、次年度の計画立案
コーディネーターの選定、委嘱等
- (2) 学校応援団全体会議・・・登録者、見守りボランティアを集め、活動内容の確認
- (3) 学校応援団の活動開始
- (4) 次年度の学校応援団員の募集



3 事業内容

- (1) 学校応援団の組織と活動内容
 - ①教育支援、環境整備、安全支援の3部で組織化され、各部ごとに各2名のコーディネーター（地域の代表者、PTAの代表者等）で構成される。
 - ②コーディネーターの仕事
 - ・学校と連携を図り、地域や家庭とのパイプ役として活動する。
 - ・年間4回程度（本部会議3回、全体会議1回）の会議に参加し、学校の要望等に意見を述べる。
 - ・各部に所属し、ボランティアの希望者と学校とのパイプ役となる。
 - ・学校からの連絡等に対応し、相談役や指導者の選定をする。
 - ・地域や保護者及びボランティアの要望を聞き、学校との連携を図る。
- (2) 教育支援・・・学校の教育課程に対応して、指導者として担任と連携して授業の支援をする。（ミシン、調理、戦争体験、図書ボランティア等）
 - ①1年生活科・・・昔の遊び（おじいちゃん、おばあちゃんを呼び体育館でいっしょに遊ぶ）
 - ②2年生活科・・・サツマイモの育て方（生活科なかよしフェスティバルで保護者に茶巾絞りにして試食する）
 - ③3年総合的な学習の時間・・・フライづくり（保護者と協力してフライをつくり試食する）
 - ④6年総合的な学習の時間・・・茶道教室・雅楽教室（専門家とふれ合い、実体験を

ととして伝統文化を味わう)

- ⑤全体・・・読み聞かせ（本の楽しさを知り、読書活動の充実を図る）
クラブ（茶道体験・・・地域の方から）
- (3) 環境整備・・・特技を生かして、校内の環境整備を実施する。(PTA奉仕作業、枝の剪定、草取り等)
 - ①親子除草・・・8月土曜の早朝に校庭の除草をして環境美化に努める。
 - ②落ち葉掃き・・・校庭開放の活動の際に落ち葉を掃き袋に入れる。
- (4) 安全支援・・・登下校時の安全指導を実施する。
 - ①お迎え当番・・・1年生の保護者が交代して、下校の安全に努める。(4月)
 - ②登下校の見守り・・・子供たちの登下校の安全を図る。(年間)

4 成果と課題

(1) 成果

- 学校応援団については、本部会議を年3回開催することで、成果や課題について管理職やコーディネーターが意見交換できるので、改善を図りやすい。
- コーディネーターの方々が協力的であり、自主的かつ学校の呼びかけに応じて、応援団の方に声をかけながら活動できている。
- 教育支援についてはコーディネーターを通じて、応援団員の方に呼びかけ、5年生家庭科ミシン学習での支援や2年の生活科のサツマイモの茶巾絞りづくりの支援をいただいた。
- 学校環境については、応援団の方に自主的に夏季休業中を中心に樹木の剪定等行っていた。
- 安全支援については、登下校時の見守りボランティアの方々のおかげで子供たちの交通事故が防げている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- 2年生の茶巾作りでは、子供たちが美味しそうに食べる様子も見られて、やりがいを感じた。
- 登下校時に見守りをしているが、子供たちには、もっと元気よくあいさつして欲しい。
- 教育支援については、もっと地域の方々の応援ができる内容を学校から呼びかけて欲しい。

(3) 課題

- ▲見守りボランティア等の安全支援部の登録者数は、充実しているので、教育支援部と環境整備部の登録者の充実や協力体制の工夫・改善を図る。
- ▲コーディネーター主体の応援団活動の活性化と活動の見直しを図る。
- ▲サマースクールで地域の方や中・高校生に教育支援を要請する。



2 活動内容の工夫

鴻巣市立鴻巣東小学校の実践

～ 学校応援団と協働した、児童の安心・安全を重視した取組 ～

1 実践のねらい

学校教育目標の「心豊かなたくましい子」には、交通安全意識の高揚と指導の徹底、毎日の交通安全指導が位置づけられ、登下校において学校・保護者・地域が協力して取り組み、健康で安全な生活を営める自己管理能力の育成を目指している。

また、「自分から学び考える子」には、読書活動の推進、体験的な学習の推進において、読み聞かせや学習支援で学校応援団の協力が位置付けられ、主体的に取り組む態度の育成を目指している。

さらに、「明るく思いやりのある子」には、体験活動の推進や、学校応援団との交流を通して、関わり合う力を育むとあり、望ましい人間関係を築き、学校や地域の伝統・文化を大切にする態度の育成を目指している。

本校の学校応援団は、コーディネーターを中心として学校応援団連絡会議を通して、学校・保護者・地域が情報を共有し、子供たちのより良い育成のため、活動している。

2 事業計画

今年度も学校応援団運営規程に則り、子供たちの安心・安全な活動を計画し、取り組んだ。

月 日	活 動 内 容
5月 9日	5年飯盒炊飯（竈作成、薪準備、火熾し、飯盒によるご飯炊き）
6月 8日	1年生活科校外学習（学区探検①）児童引率、安全指導補助
6月19日	6年社会科体験学習（茶の湯・中央公民館）講師紹介、安全指導等
6月30日	2年生活科体験活動（ザリガニつり）準備、安全指導等
10月 2日	2年生活科体験活動（町たんけん）準備、安全指導等
10月 5日	3年社会科校外学習（スーパーマーケット見学）児童引率、安全指導補助等
10月21日	3年図工科（のこぎり使用）安全指導等
11月 5日	1・2年生生活科校外学習（電車でGO）児童引率、安全指導補助
2月 6日	土曜授業（道徳の時間）ゲストティーチャー
2月15日	低学年お迎え当番相談会
2月16日	3年総合的な学習の時間体験活動（すいとん作り）安全指導等
2月29日	新年度通学班編成、顔合わせ
3月 8日	学校応援団連絡会議 今年度活動の振り返り、来年度の計画提示

3 事業内容

(1) 児童の登下校、校外学習の安全指導

保護者と協働した低学年児童の下校の見守り



校外学習等児童の安全確保



2 活動内容の工夫

(2) 体験学習への活動協力と安全指導

5年林間前の飯盒炊飯練習



3年図工科鋸指導補助



2年生活科体験活動(ザリガニつり)



6年社会科茶の湯



低学年電車でGO(安全指導)



3年総合・昔の暮らし(焼き芋体験)



菊の栽培・芽挿し



読み聞かせ



環境整備(植栽杭・箒立て等)



4 成果と課題

(1) 成果

今年度もコーディネーターと連絡を密にすることで、課題を解決しながら、大きな成果を挙げてきている。特に、子供の安全・安心な登下校においては、PTAと安全ボランティアが協働し見守ることで、交通事故や声かけ事件は発生していない。また、校外学習で度々お世話になることで、1年生の頃から子供も協力者もお互いの顔や名前を知り、安心して活動できている。学校を挙げての「ありがとう集会」で感謝の気持ちを伝えているが、活動後は、自ら進んで協力者に手作りの手紙を書く子供も多い。



(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

平成18年度より活動を始めた本校の学校応援団の活動は、当初の協力者が退会するなどメンバーが入れ替わってきたが、登下校の見守りや菊の栽培などで、新たな協力者を得ることができた。地域の子供の安全のために、今後とも協力していきたいと思う。

(3) 課題

学校応援団の顔ぶれが変わってきているので、目的や活動内容の引継ぎを確実にやっていく必要がある。また、より安全・安心な取組となるよう計画の修正を図っていく。

2 活動内容の工夫

伊奈町立小針北小学校の実践

～ 「できるときに」「できることを」を合言葉に ～

1 実践のねらい

学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる「開かれた学校づくり」を推進し、学校教育目標「規律正しく 心をこめて 人につくす」の具現化を図る。

- (1) 保護者・地域の力を活用して学校の活性化を図る。
- (2) 学校・家庭・地域の教育力の向上をめざす。

2 事業計画

本校では町内区長1名、地域防犯ボランティア会長1名、元PTA関係者1名、現PTA副会長1名の、合計4名にコーディネーターを依頼している。学校応援団コーディネーターは任期を1年として、学校応援団と学校との調整役をお願いしている。

学校応援団支援ボランティア募集・登録は、保護者・地域の方を中心として年間を通して行っている。安心・安全、学習活動、環境整備の3つのボランティア組織を構成し、活動内容を決定している。

	支援名	実施日	活動内容
安心・安全	学校・地域安全見守り隊	随時 できるとき 定期的 随時	・子供の登下校時のパトロール ・買い物や散歩等で子供の安全を見守る。 ・夜間の防犯パトロール ・校外学習時の随行
学習活動	学習アップ隊	随時 定期的	・ゲストティーチャーとして学習支援を行う。 ・クラブ活動の伝統文化（和太鼓・囲碁・着付け）の指導を行う。
	図書わくわく隊	月・木曜日 月・木曜日 月1回	・図書室の整理や整頓・掲示物の作成 ・本の貸し出しの手伝い ・読み聞かせ
環境整備	ピカピカおそうじ隊	定期的	・校内やトイレの清掃を児童と一緒にやる。
	おやじの会	1学期 2学期 3学期	・側溝清掃 ・奉仕作業、運動会サポート、流しそうめん ・ドッジビー大会・餅つき大会開催

3 事業内容

(1) 安心・安全支援活動

「学校・地域安全見守り隊」

小針内宿地域防犯ボランティアの方たちが、毎日、登下校の時間に立哨指導をしたり、定期的にパトロールをしたりして、防犯・交通事故防止に努めている。

また、校外学習における子供の引率、交通安全指導も行っている。



交通事故防止（見守り隊）

2 活動内容の工夫

(2) 学習支援活動

ア「学習アップ隊」

5・6年生の家庭科では、5年生の調理実習や手縫いの学習、5・6年生のミシンを使った学習に協力していただき、個に応じた支援を行った。クラブ活動では、地域の方が、和太鼓や囲碁・将棋・着付等伝統文化体験の支援を行った。6年生の総合的な学習の時間では、国際理解を深めるため、ガーナより一時帰国をしている方が外国の生活について紹介した。



学習支援（学習アップ隊）

イ「図書わくわく隊」

月曜日と木曜日を中心に掲示物の作成や本の整理整頓・新着本のシール貼り等、使いやすい図書スペースの環境整備に努めている。また、業間休みに本の読み聞かせを行い、子供たちの本への関心を高めている。



環境整備（図書わくわく隊）

(3) 環境整備支援活動

ア「ピカピカおそうじ隊」

P T Aの環境整備部を中心に、学期に2回校内美化を行っている。子供と一緒にトイレ等の清掃を行いながら、掃除の仕方やコツを教えている。



側溝掃除（おやじの会）

イ「おやじの会」

側溝掃除や奉仕作業等環境整備を行ったり、流しそ
うめん、運動会のサポート、ドッジビー大会、餅つき大会等、子供たちが楽しめるようなイベントを企画したりしている。

4 成果と課題

(1) 成果

学校内の環境整備、登下校や学習時の安全サポートにより、安心・安全な教育活動への支援体制が構築されている。

学習支援活動により、本好きの子供や意欲的に学習に取り組む子供が増えてきている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

「図書と家庭科に参加し、喜んで読み聞かせにやってくる姿、慣れない針と糸、ミシンと格闘する様子など、普段知ることのできない学校での生き生きとした子供たちを見ることができ楽しく参加しています。」「自分たちの生活もうるおっています。」

(3) 課題

いつ、どんな内容で、どのように支援していただくのかを明確にし、年間の計画を見直し、さらに活動を充実させていく。

学校応援団コーディネーターの方とも連絡を取り合いながら、潜在的な支援者にも働きかけ、支援者を増やしていく。その一方で、登録されたものの活動の機会がない方の参画を考えていく。

2 活動内容の工夫

富士見市立勝瀬小学校の実践

～ やれる人が、やれることを、やれる時に、やれるだけ ～

1 実践のねらい

学校の教育活動や安心・安全で彩（いろどり）のある環境を充実させるために、「やれる人が、やれることを、やれる時に、やれるだけ」を合言葉に、図書ボランティア、安全防犯ボランティア、環境美化ボランティアを募り、組織的に活動する。

2 事業計画

月	活動内容		
	読書ボランティア	安全防犯ボランティア	環境美化ボランティア
4月	・ボランティア募集 ・全体会議	・ボランティア募集 ・全体会議	・ボランティア募集 ・全体会議
5月	・読み聞かせ（毎週月曜）	・かつせらんど時の下校 安全見守り	・花壇の花の植え付け1回
6月	・本の修復作業2回		・ビオトープの除草
7月			・中庭の除草
8月			・環境整備 ※地域や学校施設利用団体、学校職員との協力による環境整備
9月	・読み聞かせ（毎週月曜）	・かつせらんど時の下校 安全見守り	・花壇の花の植え付け2回
10月	・本の修復作業2回		・中庭の除草と整理
11月			・落ち葉の清掃
12月			
1月			
2月			
3月	・全体会議	・全体会議	・全体会議

3 事業内容

(1) 図書ボランティア

- ①毎週月曜日、子供たちへの本の読み聞かせ、紙芝居の実施
- ②破損した本の修復作業
- ③図書室の環境整備

(2) 安全防犯ボランティア

- ①地域子ども教室「かつせらんど」時の下校時の安全見守り
- ②必要に応じた「ながらパトロール」



(3) 環境美化ボランティア

- ①学校花壇、中庭、ビオトープの整備
- ②みどりの学校ファームの整備



4 成果と課題

(1) 成果

①図書ボランティア

- ・図書室へ通う子供の数と図書貸し出し数が多くなった。
- ・破損した図書の修復を読書推進支援員と協力して、計画通り実施することができた。
- ・学級読み聞かせボランティアと協力して読み聞かせのサポートを行うことができた。

②安全防犯ボランティア

- ・地域子ども教室「かつせらんど」における下校時の安全パトロールにより、下校時の事故発生数は0件であった。

③環境美化ボランティア

- ・季節の変わり目に花の植え付けを3度実施することができた。
- ・彩（いろどり）のある中庭の整備が本年度の重点課題であったが、中庭の整備活動を重点的に行ったことで整理整頓ができ、明るく清潔な環境づくりができた。



(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

「校舎が古いので、花の植え付けや環境整備をすることで、季節が感じられるし、明るい雰囲気になるのでやりがいがあります。環境整備に参加することで知り合いも増え、学校の様子も分かるのがいいです。」

「どんな本を読むと子供たちが喜んでくれるのか、子供の反応を想像しながら本を選んでいる時が楽しいです。予想通りの反応があるとうれしいです。私の生活の喜びの一つとなっています。」

「子供の安全見守りをやることで子供たちとふれあうことができ、とても楽しいです。

『先生』なんて呼ばれることもあります。より一層の安全確保のため、ボランティアの人数がもっと増えてほしいです。」

(3) 課題

- ①ボランティアが一部の保護者に固定してしまい、新たなボランティアの確保が大きな課題である。
- ②校舎の老朽化が進む中、彩（いろどり）のある環境整備が大きな課題である。活動のアイデアはあるが予算的な措置が難しく活動に限界がある。
- ③敷地が広く、除草や落ち葉拾いに労力をとられ、創造的な活動の余地がない。除草作業の軽減化を図るための工夫が課題である。

2 活動内容の工夫

ふじみ野市立上野台小学校の実践

『光り輝く子供たちのために、できる人ができる時にできることを』

～ 相互性を高める学校・家庭・地域連携

30年後の地域を担う子供たちを育てるために ～

1 実践のねらい

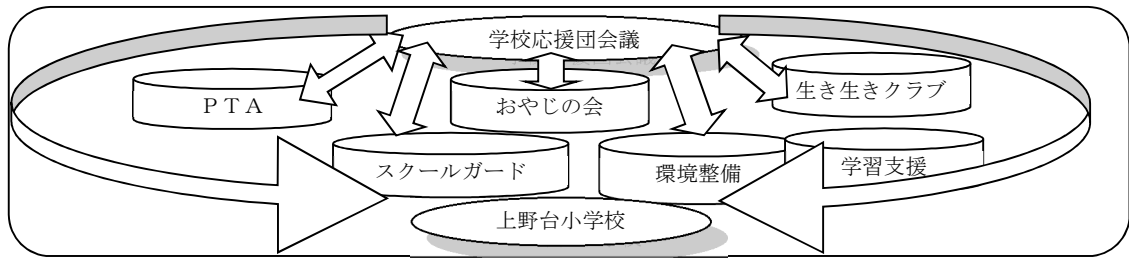
本校の学校応援団は、本校の子供たちが健やかに成長するために、地域・保護者の方に協力をいただき、より一層学校教育を充実させていこうと組織したものである。単に学校応援団が活動するのではなく、子供・学校を核として保護者・地域の方との相互性を高めることができれば、30年後を、地域の一人として生きる大人を育てることにつながると考える。この考えを基に、授業を中心とした教育活動は教師が担い、地域社会の文化を伝えたり、地域の子供たちとしてその安全を見守ったり、学習環境を整えたり潤いのあるものにすることについて、地域の学校である本校の子供たちのために、できる人ができる時にできることをすることが学校応援団活動の基本である。地域・保護者との交流経験を通して、豊かな心を育んだ『子供たちを未来に届ける』ことを目指す。

2 事業計画

月	活動内容	活動部
5月	・学校応援団会議 ・ふれあい除草	全関係者 全関係者
6月	・運動会補助 ・リコーダー練習補助	P T A、おやじの会 音楽楽器支援部
9月	・学校応援団会議 ・ふれあい除草 ・P T A主催ひかり祭 ・ミシン補助、楽器練習補助	各リーダー 全関係者 P T A、おやじの会 家庭科、音楽楽器支援部
10月	・ミシン補助、楽器練習補助	家庭科、音楽楽器支援部
1月	・市内校外学習安全見守り ・ふれあい落ち葉拾い	校外学習部 全関係者
12月	・3年昔の生活体験	いきいきクラブ
1月	・学校応援団会議 ・1年昔の遊び体験 ・和楽器（箏）演奏体験	各リーダー いきいきクラブ 音楽楽器支援部
2月	・学校応援団会議	各リーダー
3月	・卒業祝い餅	おやじの会
通年	・登校見守り、下校見守り ・環境整備（校門周辺）、花壇制作 ・読み聞かせ ・中国語等支援 ・メダカ飼育 ・福島ひまわりプロジェクト	スクールガードリーダー、いきいきクラブ 環境支援部、花壇支援部 P T A 学習支援部 環境支援部 いきいきクラブ、花壇支援部等

3 事業内容

(1) 組織づくり



学校応援団を立ち上げる前も、上野台小のために活動してくださる方々はたくさんいた。しかし、各々の活動は学校とその単体とのつながりであり、他の団体には見えづらいものであった。そこで、数年前、本校のために活動してくださる団体全てを学校応援団として組織化、年4回の会議で相互理解を図っている。

(2) 福島ひまわりプロジェクト

東日本大震災で大きな被害を受けた福島からひまわりの種をいただき、そのひまわりを児童、保護者、花壇担当や、いきいきクラブをはじめとする地域の方等と一緒に育てる活動。できた種は、児童が採取し袋詰めして福島や地域の方々にプレゼントしている。



(3) おやじの会の活動

十数年前立ち上がったおやじの会。おやじの力で子供たちにできることはと、現在も50数名で活動いただいている。主な活動は、運動会時のテント張り及び片付け、校内警備、ひかり祭でのジャンボチャーハン作りと無料配布、卒業生への祝い餅などである。



4 成果と課題

(1) 成果

本校児童のために活動してくださる方々を、学校応援団として大きく括り、年4回の会議でどんな方がどんな思いでどのような活動を行っているのか相互理解を重ねることにより、横のつながりができ活動の充実を図ることができた。福島ひまわりプロジェクトやふれあい除草・落ち葉拾いなど、児童と地域の方が一緒に行う活動を重ねることで、児童と地域の方との一体感が深まった。おやじの会の活動は、児童の中に定着している。また、相互性を高めるための感謝の集いを通し、感謝の気持ち、地域への誇り、いつか地域に恩返しをという児童が増えてきた。



(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・地域のいろいろな方々が、子供たちのために様々な活動をしているのだと感じた。
- ・子供からお年寄りまで、様々な方々が同じ活動と一緒にいることで、一体感が生まれた。これからも続けていきたい。
- ・子供たちから、「いつもありがとうございます。」「この花はきれいですね。」などと言われると、うれしく充実した気持ちになった。

(3) 課題

児童数が増加する中で、地元以外の保護者が多くなっていく。地域と共にある本校の良さを知り、一緒に活動していただく方を少しでも増やしていくことが課題である。

3 地域に根ざした活動

飯能市立飯能第一小学校の実践

～ 家庭・地域の連携による教育支援活動 ～


1 実践のねらい

本校は、明治6年に創立された歴史ある学校であり、平成27年度現在、市内で最も児童数の多い学校である。保護者も本校の卒業生であることが珍しくなく、地域行事も盛んであり、学校の行事等に協力的な保護者も多い。

本校の学校応援団は、以下のねらいに則って活動を推進している。

- ・地域や保護者の力の組織化を図り、教育活動を充実させる。
- ・子供達に多様な体験活動の機会を与え、規範意識やコミュニケーション能力を向上させる。
- ・地域住民が教育活動に携わることをとおして、地域の絆づくりにつなげ、地域の教育力を向上させる。

2 事業計画

学期等	学習支援活動	環境整備	安心・安全
1 学 期	・コーディネーター会議		・第1回安全ボランティア打合せ（1学期） ・登下校時の安全見守り、立哨指導（課業日）
	・ミシン作業補助 ・田植え体験支援及び補助 ・読み聞かせボランティア	・図書蔵書整理作業補助 ・園芸ボランティア活動	
夏 季 休 業 日	・高校生による学習補助 ・プール監視補助	・校庭整備作業 ・園芸ボランティア活動	
2 学 期	・ミシン作業補助 ・稲刈り体験支援及び補助 ・森林学習支援及び補助 ・飯ごう炊飯補助 ・一ウォークラリー補助 ・生活科地域巡り補助 ・高校生による陸上競技指導補助	・園芸ボランティア活動 ・図書蔵書整理作業補助	
	3 学 期	・生活科昔遊び体験補助 ・高校生と地域の方によるお琴指導補助	
		・コーディネーター会議	

3 事業内容

(1) 学習活動への支援

- 夏季休業日に2～6年生を対象に行われている「学習タイム」に、飯能高等学校の生徒がボランティアとして参加した。(学習支援ボランティア)
- 2学期に6年生の総合的な学習の時間に、地域の方を指導者に迎え、近くの里山で下草刈りや落ち葉掃きを行った。(森林学習支援及び補助)



高校生による学習支援ボランティア

(2) 環境整備への支援

- 子供たちがより使いやすく、学びやすい環境になるようボランティアの方々に御協力いただき、学校図書館の蔵書点検整理作業を行った。(読み聞かせボランティア等)
- 小学校の緑化活動に協力して、種の購入から播種、育苗、移植、定植、管理などを行った。(園芸ボランティア)



森林学習支援及び補助

(3) 安心・安全な学校づくりへの支援

- 5月と2月に見守りの地区代表の方に出席いただき情報交換・打ち合わせ等を行った。また、パトロールキャップやベストを着用し、子供たちの登下校の見守り活動を行っている。(登下校の見守り活動ボランティア)



登下校の見守り活動ボランティア

4 成果と課題

(1) 成果

- 子供たちが意欲的に学習に取り組み、学びが深まった。
- 「学校・家庭・地域が一緒になって子供を育てる」体制が整いつつあり、子供たちとの交流が生まれ、学校の教育活動における支援に『生きがい』や『やりがい』などを感じている方も多い。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声(感想)

- 様々な学年のお母さんたちとつながりができた。(園芸ボランティア)
- 「いつもありがとう」の言葉や「おはようございます」等の挨拶の声を聞くとうれしい。(登下校の見守り活動ボランティア)

(3) 課題

- 十分な事前打ち合わせと事後の反省の時間を確保することが難しい。
- 学校応援団の活動を発展及び継続していくためにも、新規に協力いただける方を募集していく必要がある。

3 地域に根ざした活動

鶴ヶ島市立藤小学校の実践 ～ 「学習支援」に視点をあてた学校応援団の取組 ～

1 実践のねらい

本校は、学校応援団に地域住民が多数登録し、「学校協議会」との連携を図りながら、積極的に活動を行っている。学校を核として、「すべては子供たちのために」（笑顔・向上・よき変容）を合言葉に、地域と保護者・学校の三者のつながりを大切に、学校応援団として学習支援・安心安全・環境整備・教育事務など、多岐にわたり実践している。学校像である「自信と誇りを育てる学校」を目指し、児童一人一人が「学び、心、体で輝く」ことを活動の取組のねらいとしている。以下、学習支援における活動を紹介する。

2 事業計画

月	活動内容
6月・11月・2月	「学校協議会及び学校応援団推進委員会」の開催（年3回）
年間を通じて	「算数の授業」や「のびのび算数教室」の支援（2～6年）
年間を通じて	隔週月曜日の「朝の読み聞かせ」（全学年）
6月	生活科 町探検（2年）
11月	社会科 茶の湯体験（6年）
11月	読書月間お話会（全学年）
11月	生活科 昔からの遊び体験（1年）
10月・11月	家庭科 ミシン補助（5年）
1月・2月	家庭科 ミシン補助（6年）
1月	総合的な学習の時間 地域福祉（6年）

3 事業内容

(1) 算数学習支援

2年生から6年生の算数における学習支援をしている。具体的には、算数の授業補助や放課後ののびのび算数教室における指導補助を行っている。学力差のある児童にとって、一人でも多くの指導者がいることで、やる気・興味関心が高まる。



学校応援団の方の感想に、「子供たちに授業をさらに楽しいと感じてほしい。学習支援は、“僕の生きがい”かな。」との話があった。

児童の感想に、「〇〇先生にいっぱい『はなまる』をもらってうれしかったです。算数が苦手だったけれど、分からないところは分かりやすく教えてくれ、算数が好きになりました。家で教えてもらっている雰囲気が大好きです。」とあった。

温かい雰囲気の中で、児童の学力向上に繋がる大事な事業となっている。

(2) 茶の湯体験

6年生の社会科における学習支援をしている。具体的には、茶道体験を行い、古くから伝わる日本の良き伝統文化や礼儀作法を学んでいる。



3 地域に根ざした活動

学校応援団の方の感想に、「子供たちが一生懸命取り組んでいる姿を見て、私達も力をもらいました。伝統文化に触れる機会や環境づくりのお手伝いできてとても嬉しく思っています。」との話があった。

児童の感想に、「人へのおもてなしの心や礼儀を学びました。いつもお会いする地域の方から学び、ゆったりと心が落ち着きました。」とあった。

普段体験できない礼儀作法や貴重な文化に触れる事業となっている。

(3) 家庭科補助



5年生・6年生の家庭科におけるミシンの学習支援をしている。はじめてのミシンの学習には、きめ細やかな安全指導、技術指導が必要である。学習の段階、題材により学校応援団・保護者による『ミシンボランティア』の人数を決め、中学校への学習の確実な橋渡しをしている。

また中学校との連携として、藤中学校の3年生8名が5年生の授業の補助として来校した。手縫いの技術は、基礎基本となる。中学生が補助することで、児童は充実した時間を過ごすことができた。



中学生の感想に、「一人一人が目標に向かって頑張っていたので、良かったです。小学生の豊かな発想力と完璧に仕上げる様子にびっくりしました。短い時間でしたが、楽しかったです。忘れられない思い出ができました。」とあった。

(4) その他

全学年を対象とした読み聞かせボランティアによる隔週月曜日の『朝の読み聞かせ』、11月の読書月間におけるパネルシアター・紙芝居・ブックトーク等、行っている。また、1年生での生活科の学習で、敬老会の方に教えてもらう昔遊びを体験したり、6年生の総合的な学習の時間では、地域の方と地域福祉について深く考えたりする学習をしている。



4 成果と課題

(1) 成果

学校応援団の皆様の協力で、児童の学習意欲が向上し、確実に学力向上に繋がっている。様々な学習場面や登下校の見守り等、地域の方々と交流を持つことでこれらの活動を通じて、児童は自分たちが地域と深く関わっていることを知るとともに、地域の中で大切にされていることを自覚することができた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

すべては子供たちのために、学校で必要なことを支援できるようにいつも考えています。『良き学校は、学校と子供たち、保護者、そして地域で創る！』子供たちのより良い成長をいつも楽しみにしています。

(3) 課題

学校応援団の事業継続・拡充のためには、継続的に児童に支援していただけるよう、学校は計画的に地域の方々と連携を密にする必要がある。そのシステム化と協力者を増やす工夫をさらに進めていきたいと考えている。

3 地域に根ざした活動

毛呂山町立毛呂山小学校の実践

～ 地域の教育力の導入 ～

1 実践のねらい

- (1) 地域の人材・環境・自然を積極的に教育活動に導入し学校教育目標『明るく 強く 正しく』の具現化を目指す。
- (2) 地域・保護者に本校教育活動を積極的に公開し教育の理解と協力を深め信頼を得る。児童とのふれあいを通して、教育が地域と広く深くつながり、児童の健全育成と地域の教育力の醸成を目指すと同時に地域の活性化に貢献する。

2 事業計画

(1) 年間事業計画

期 日	学習支援	期 日	環境整備
4月	校庭鯉のぼりあげ	6・11月	資源回収
5・9月	田植え・稲刈り (5年総合)	7・11月	花壇環境整備緑化支援
6～10月	菊作り (町菊花会)	8月	PTA親子除草
7月～3月	大学生算数支援	毎月	リサイクル活動
7月	防犯教育 (スマホに潜む危険)	期 日	安全の見守り
毎月	お話し会 (業前学習)	年間	安全ボランティア
6・10月	町の歴史文化学習 (全校朝会時)	6月	2年生町探検
10～12月	埼玉医科大学学生 (保健指導)	毎月	一斉下校
12月	昔遊び (生活科)	12月	持久走大会伴走 (毛呂山ランナーズ)
12月	防犯教育 (スマホに潜む危険)	期 日	防犯
毎週	業前運動 (朝マラソン) (毛呂山ランナーズ)	年間	防犯ゆず学区パトロール

3 事業内容

(1) 活動内容

ア 学習活動への支援

○埼玉医科大学学生による保健指導



○読み聞かせボランティアによるお話し会



3 地域に根ざした活動

○お年寄りの方と一緒に昔遊び



○農家の方の指導による田植え



○業前運動（マラソン）

○歴史文化朝会

イ 学校環境整備の支援

○親子での除草作業

○学校花壇の花の植え付け



ウ 児童の安全の見守り

○児童との下校及び町探検時の安全見守り

4 成果と課題

(1) 成果

児童は、地域の魅力ある人や文化・自然に出会いながら学ぶことができている。地域人材が学校に入ることによって人と人との絆も芽生えてきており、教職員だけでは行き届かない環境整備や児童の登下校時の見守りについても、地域の方々の協力で児童の安全確保が図られている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

○子供たちの元気をもって私たちが元気になれる。

○子供たちと町で会ったときに声をかけてもらえて嬉しい。

○普段遊ばない子供たちと一緒に遊べて楽しかった。

といった感想も聞かれた。

(3) 課題

今後の課題は、教職員が積極的に地域に出向き地域を理解し地域の人物や文化、産業などを知り、教育活動に積極的に導入することで、地域を愛し地域に誇りを持つ児童を育てることである。

3 地域に根ざした活動

久喜市立菖蒲東小学校の実践 ～ 学校と地域が一体となった学校応援団の活動 ～

1 実践のねらい

学校の教育の目標である確かな学力、健やかな体、豊かな心を育てていくためには、教育環境の整備や不審者や交通事故などに対する安心安全の確保など、様々な課題が山積している。これらの課題を解決していくには、学校の力だけでは限りがある。

本校は昭和58年に菖蒲小学校のマンモス化解消のために開校し、創立33年を迎えた比較的歴史の浅い学校である。しかし、地域には本校の卒業生も多く、学校への思い入れが強い。よって、地域の力を最大限に活用することが課題解決につながると考える。学校の教育の目標を達成するためには、地域の協力、地域の力が不可欠である。現に、美しい環境で心豊かに学べる学校や安全で安心な学校づくり等には、地域の力が大いに成果を上げている。また、保護者や地域の方々の協力による教育実践は、学校教育の充実にとどまらず、家庭や地域の教育力の活性化を図ることができると考える。

2 事業計画

月	活動内容
3月、6月	じゃがいも植え、収穫
6月～10月	各学級園での栽培・収穫 (きゅうり、枝豆、スイカ、綿等)
6月～8月	プールの安全監視、除草活動
8月	サマースクール学習ボランティア、夏祭りの参加
9月	ふれあいフェスティバル
10月	地域の体育祭への参加
11月、1月	大根植え、収穫
12月	パンジー植え

3 事業内容

(1) 学習活動への支援

ア 図書ボランティアによる読み聞かせ

- ・毎週月曜日、業前の読書タイムでの読み聞かせ
- ・每学期1回のお話かご（1時間の読み聞かせ）

イ 夏休み「サマースクール学習」のボランティア

- ・各教室においてプリント学習の採点や指導
- ・プールの安全監視

ウ 学校ファームでの指導

- ・じゃがいも、さつまいも、大根等の植え方や収穫の指導と交流

(2) 安心・安全への支援

- ・登下校時、全校徒歩遠足などの学校行事の際の安全パトロールと見守り



3 地域に根ざした活動

(3) 環境整備の支援

- ア 校地内樹木や植え込み、生け垣や松の剪定と整枝作業と、四季折々における学校花壇の整備、校内のトイレ清掃
- イ 校内・校庭の修繕
 - ・外トイレの清掃
 - ・飼育小屋の修繕
- ウ 校庭の草取り
 - ・刈り払い機を使用した校庭の除草活動



(4) 地域との交流

「ふれあいフェスティバル」の実施

体育館と校庭に遊び場所を設定し、9種の遊び（おはじき、メンコ、あやとり、吹き矢等）の遊び方の指導をいただいた。

地域の参加者からは、「子供たちと直接触れ合える」と喜んでいただいた。



4 成果と課題

(1) 成果

- ア 地域の方や保護者の協力による授業に、子供たちは様々な体験を通して興味深く真剣に取り組み、学習効果を上げることができた。
- イ 子供たちが進んで学校農園の草取りをしたり、成長を見守ったりしながら自主的に活動することができた。
- ウ 学校での活動に参加することを楽しみにしている地域の方が多く、学校は地域のコミュニティの場にもなり、開かれた学校づくりに大きな成果を上げている。
- エ 子供たちは、地域の方の優しさに包まれ、進んであいさつをしたり「ありがとうございます」の感謝の気持ちを伝えたりする豊かな心が育まれている。
- オ 地域の方が、以前に指導した中高生から声をかけられる等の交流が生まれている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・成長著しい地域の子供たちを、6年間育てていただく先生方を、様々な形で支援できることが地域の教育力と考える。
- ・授業だけではなく、休み時間や登下校の様子が分かり、子供たちの力が伸びてきている様子が分かる。
- ・子供たちと顔見知りになり、人間関係ができてうれしい。

(3) 課題

- ア 学校応援団コーディネーターを中心とした打合せは、時間の確保や場所の面で設定することがなかなか難しい。
- イ 教員がすべきこととボランティアの方々に依頼することをはっきり区別し、計画を立てる必要がある。
- ウ 現在応援団への登録者が約20名いるが、参加者が固定されているので、今後も呼びかけが必要である。

3 地域に根ざした活動

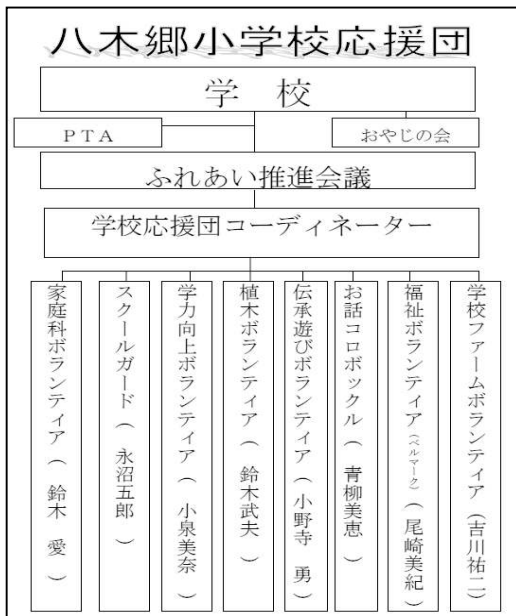
三郷市立八木郷小学校の実践

～ 絆を深め、心が結ばれた未来社会をつくる、八木郷小学校学校応援団の取組 ～

1 実践のねらい

明治26年に開校し、創立123年を迎えた八木郷小学校には、本校在籍5代目となる子供もいる。「おらが学校」を意識する200名近くの学校応援団に支えられ、保護者・地域の厚い信頼関係を基盤とした取組を実践している。学校応援団は7年目を迎え、ふれあい推進委員会を軸として、活動は深化している。地域の教育力の向上を目指し、学校・家庭・地域が一体となり、子供たちには感謝の思いを、教職員には子供の姿や成長で感謝を表すことの重みを伝え、さらなる学校応援団の発展とともに、子供たちの未来社会へつなぐ学校教育の充実を図る。

2 事業計画（組織及び活動計画）



年間活動	1 2 3 4 5 6 7
学年環境活動の支援 学校ファーム活動 スクールの清掃活動 学習支援(家庭科、ステップアップ教室、サタデースクール) 伝承遊びの継承 福祉活動(ベルマーク)の充実	植木ボランティア
4月	1 護のぼり掲げ 2 環境活動 19日(日) 畑の草とり、耕し
5月	1 三郷市学校応援団協議会 2 第1回学校応援団協議会 29日(金) 3 サタデー学習支援(おやじの会) 秋づくり 4 三郷市学校応援団協議会(小) 5 伝承遊びボランティア 26日(水) 6 伝承遊びボランティア 26日(水) 7 サタデーサタデースクール支援 30日(土)
6月	1 伝承遊びボランティア(裁縫、調理) 2 伝承遊びボランティア 3 伝承遊びボランティア 4 サタデーサタデースクール支援 14日(日) 5 サタデーサタデースクール支援 27日(土)
7月	1 環境活動 5日(日) ~ 31日(金) 2 伝承遊びボランティア 23日(木) ~ 31日(金)
8月	1 埼玉県学校応援団コーディネーター養成研修 2 三郷市学校応援団協議会 5日(水) 3 伝承遊びボランティア 8日(月)、4日(火) 4 伝承遊びボランティア 8日(月) 5 伝承遊びボランティア 8日(月) 6 伝承遊びボランティア 8日(月)
9月	1 全校クリンタイム 10日(木) 2 サタデーサタデースクール支援 26日(土)
10月	1 環境活動 4日(日) ~ 31日(金) 2 伝承遊びボランティア 23日(木) 3 伝承遊びボランティア 23日(木) 4 伝承遊びボランティア 25日(日) 5 伝承遊びボランティア 25日(日)
11月	1 サタデーサタデースクール支援 7日(土) 2 伝承遊びボランティア 7日(土) 3 伝承遊びボランティア 22日(日)
12月	1 書き初め支援 5日(土) 2 書き初め支援 5日(土) 3 書き初め支援 10日(木)
平成28年	1 書き初め支援 31日(日) 2 環境活動支援
1月	1 三郷市学校応援団協議会 6日(土) 2 サタデーサタデースクール支援 6日(土) 3 伝承遊びボランティア 14日(日) 4 4年生 縄跳び・体操の支援
3月	1 八木郷小学校 感謝の思い 1日(火) 2 第2回ふれあい推進会議

○八木郷祭り 10月17日(土) 5、6校時13:20~14:45伝承遊び体験

3 事業内容

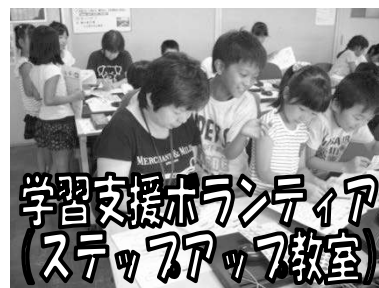
毎朝のおはよう運動(ラジオ体操・5分間走)には、積極的に地域の方・保護者が参加し、子供たちとともに汗を流している。八木郷小のそばにある公園に全長80メートルにわたる壁画がつけられた。これは、八木郷小の子供たちとともに、学習支援ボランティアを中心とした保護者が交替しながら毎日支援してくれたおかげで完成したものである。地域とのコミュニケーションを深める「おやじの会主催」の「ふれあい夏祭り」を平成26年度から実施している。学校応援団の活動は、「ふれあい推進会議」を軸に、コーディネーター、学校、学校応援団の連絡調整を行い、課題の確認とともに改善方法を検討している。以下、大きく4つの躍動する取組について述べる。

- (1) 学習支援ボランティアは71名で構成され、書写の書き初めの支援、夏季休業中のステップアップ教室やサタデースクール(年9回)の支援を行っている。ボランティアと教職員の熱心なかかわりにより、希望制にも関わらず、95%の子供たちが参加

3 地域に根ざした活動

するようになった。家庭科の裁縫支援・調理支援では、毎時、子供4人に対して1人のボランティアが補助にあたる。

- (2) ボランティア「お話コロボックル」による「読み聞かせ」を毎週実施し、子供たちの心を耕している。また「日本一の読書のまち三郷」宣言をしている本市の取組を推進してくれている。
- (3) 他校に追い付けと平成25年度に35名で発足した「おやじの会」は、校長、PTA会長の強い思いで形となり、現在はテントの設営をはじめとする運動会サポート、校内に作成した横断歩道のペンキ塗り、体育の小道具づくり、夏祭りの企画とやぐらづくりと、学校や子供たちには欠かせない存在となっている。その他、地域に誇る鯉のぼり掲揚、流しそうめんや餅つきといった季節の行事にも子供たちの笑顔を大事にする活動を充実させている。
- (4) スクールガードは、登下校の安全を確保し、見守り続けるグループであるが、本校のスクールガードの大きな特徴は、子供を見送る保護者と10数名のスクールガードが、学校まで全ての子供を送り届けていることである。



4 成果と課題

(1) 成果

- ・ボランティアの対象を「高校生以上」と幅を広げ、卒業生にも参加を呼びかけた。在学時にお世話になった「学校応援団」に自分になって、在校生の支援をする。この連鎖が地域の絆を深めていくことにつながっている。
- ・校門まで子供たちを見守りながら登校するコーディネーターと校長が毎朝、情報交換をしている。学校応援団からの情報がコーディネーターをとおして、学校へ連絡するシステムができあがり、学校の迅速な対応（スピード、スマイル、スピリッツ）が可能となっている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・目を見てあいさつのできる子が増えてきてうれしい。
- ・日々の活動を通して、子供たちの笑顔、子供たちから挨拶をされたときに、協力してよかったなあと思いました。
- ・もっと学習支援の人員を増やして、よりきめ細かく支援していきたい。

(3) 課題

- ・構成メンバーの人員確保（高齢化）。
- ・今後、活動を継続させるための方策を検討課題とする。そのために、各担当で負担が大きくなるように工夫改善を図る。
- ・学校応援団の声をよく聞き、学校の活性化に繋がる分掌の明確化を図る。

3 地域に根ざした活動

蓮田市立黒浜小学校の実践

～ 学校・家庭・地域の連携で「みんないきいき楽しい学校」づくり ～

1 実践のねらい

本校は140年を超える歴史があり地域の伝統校として、地域住民から多くの支援をいただいている。このことを背景として学校応援団が結成され、多岐にわたる活動が展開されている。現在も、学校が家庭や地域社会と積極的に連携を図ることで、児童のみならず教育活動に関わる全ての方がいきいきと楽しく過ごせる学校づくりをめざしている。実践のねらいは次の3点である。

- (1) 学校・家庭・地域ぐるみで、楽しい教育活動を推進する。
- (2) 家庭・地域の教育力を積極的に活用して教育活動の充実を図る。
- (3) 地域の文化や人との交流を通して、児童の健全育成を図る。

2 事業計画

環境整備、学習支援、安心安全の3部門に分かれて年間を通して活動している。

	環境整備	学習支援				安心安全
活動	毎月第1土曜日 随時	学習内容に応じて随時				毎日
1 学 期	活動予定の確認 児童用机の高さ調整 除草作業 樹木の伐採 一輪車の整備 遊具のペンキ塗り	農作物栽培の指導(米、梨、サツマイモ、ミカン)	沼の学習支援	読 み 聞 か せ	生 け 花 教 室	朝の挨拶運動 紹介の会 登下校の見守り パトロール
2 学 期	除草作業 樹木の伐採と剪定 バザーへの出品と販売 玄関前の修繕 持久走路の整地 児童との会食 花壇の整美 一輪車の整備	収穫の会	環境学習館での作品展示	式 典 用 の 生 花	バザーへの出品 児童との会食	
		バザーへの出店				沼のクリーン作戦
		児童との会食				
3 学 期	樹木の伐採と剪定 花壇の整美 一輪車の整備 感謝の会	和楽器の指導 伝統芸能の紹介				
		反省と次年度の活動計画作成				

3 事業内容

(1) 定期的な活動により学習環境を整備

たくさんの樹木の剪定や伐採、除草作業を毎月1回実施することで、緑豊かで潤いのある教育環境をつくることができた。また、年度当初には児童の机の修繕や高さの調整をしたり、持久走大会前には走路を整地したりしていただいている。



剪定・伐採作業

(2) 専門家による体験活動のサポート

様々な体験活動を、専門家によって支援していただくことで、児童の技能を高めたり情操を培ったりすることができた。特に、学区にある黒浜沼は緑のトラスト11号緑地に指定されており、そこを守る「黒浜沼周辺の自然を大切にする会」の方には全学年が指導を受け、ともに環境保全に努めている。



農業体験（梨）



農業体験（サツマイモ）



沼の学習



昔遊びの道具を製作

(3) 毎日の見守りで児童の安心安全を確保

「朝の挨拶運動」に毎日参加していただき、児童の安全を見守っていただいている。登校時だけでなく下校時刻に合わせてパトロールしていただくことで、事件や事故から児童を守ることに大きく寄与している。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・地域全体で児童を育てていこうとする意識が高まり、学校と保護者・地域の距離が一段と縮まり学校への信頼関係を深められた。
- ・様々な方との交流を通して、児童は地域の方に支えられているという意識が芽生え、感謝の気持ちが育まれた。
- ・学習活動の充実が図られ、児童の学習意欲や技能の向上が見られた。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・子供と一緒にいると元気をもらうことができ、若返るような気がする。
- ・感謝の会のお手紙は感動します。こんな経験ができるとは思いませんでした。
- ・お話を真剣に聞いてくれるのを見ていると、次に来るのが楽しみです。
- ・作物を収穫している時の子供の笑顔が何よりのお礼です。私の生きがいです。

(3) 課題

- ・学校応援団の活動を周知しメンバーの増員を図り、組織を再構築する。
- ・学校応援団の活動を教育計画に確実に位置付け、活動の充実を図る。

4 学校・地域の団体等との連携

戸田市立戸田第二小学校の実践 ～ 子供が輝き、地域が信頼を寄せる学校 ～

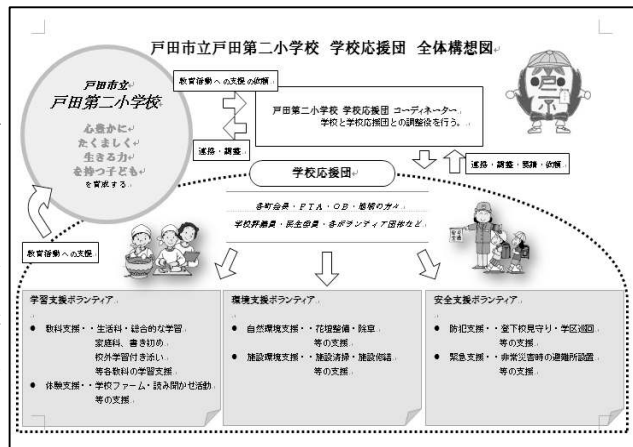
1 実践のねらい

本校は児童数1,003名、学級数31学級の大規模校である。「心豊かにたくましく生きる力をもつ子ども」を学校教育目標に掲げ、保護者や地域の教育力を積極的に学校教育に活用するため、学校応援団との連携を深めている。

2 事業計画

学習支援ボランティア、環境支援ボランティア、安全支援ボランティアの三つの支援を中心に年間の活動計画を定めている。

また学区内各町会の代表と元PTA役員等で構成された8名の学校応援コーディネーターを中心にして、学校応援団運営のための連絡・調整・協議を計画的・継続的に行っている。



学校応援団全体構想図

3 事業内容

(1) 学習支援

ア 読み聞かせ (ねむの木・戸田お話の会)

保護者による朝の読み聞かせ活動 (ねむの木) と、ボランティア団体による1時間単位の読み聞かせ活動 (戸田お話の会) を行っている。

イ 校外学習引率

1, 2年生の校外学習の際の付き添い支援 (安全確認・学習支援) を行っている。

ウ 授業支援

「チューリップの球根植え (1年)」「昔の遊び (1年)」「戸田の昔話 (3年)」「福祉体験学習 (5年)」「ミシン学習 (5年)」「お琴・尺八の実演 (6年)」等の支援は学校応援団・PTA・地域の皆様の御協力を得て、毎年、継続して実施されている。

加えて今年度は、「書き初め指導 (5年)」「伝統的な日本文化 (生け花) (6年)」「クラブ活動 (バドミントン・ソフトボール)の指導支援」「夏季水泳指導の支援」を実施した。学校応援コーディネーターから紹介された地域の協力者の他、保護者有志、社会福祉協議会 (福祉体験)、池坊東京あかね会 (生け花体験) 等からの支援もいただいている。



チューリップ球根植え支援



生け花体験支援

4 学校・地域の団体等との連携

(2) 環境支援

ア 学校花壇・竹藪の整備

地域の協力者約30名に御協力をいただき、学校花壇の花植え、菖蒲川沿いの竹藪の整備を行っている。

イ ビオトープのホタル生息環境の整備

本校には、広さ約200平方メートルほどのビオトープが設置されている。平成15年の完成から、すでに10年以上が経過し、設置当初は生息していたホタルも年々、数が減少していた。そこで学校応援コーディネーターから、ホタルの生育をされている戸田リサイクルフラワーセンターの野口様を御紹介いただき、ビオトープの環境改善のアドバイスとともに、ホタルの幼虫2500匹の放流に御協力をいただいた。



学校花壇花植え支援



ホタル幼虫放流の様子

(3) 安全支援

ア 登下校見守り

保護者の有志の方に登下校の見守りをさせていただくとともに、地域町会の皆さんにも登校指導をしていただいている。

イ 地域巡回

地域の民生委員・町会の皆様に地域の巡回をお願いしている。民生委員の皆さんとは、学校職員・PTAとの会合を実施し、情報交換と共通理解を深めている。

4 成果と課題

(1) 成果

定期の学校応援コーディネーター会議の他、電話連絡等でコーディネーターとの連絡・相談を綿密に行ってきた。その結果、本校の課題（ビオトープの環境改善）や、教職員の思い（日本の伝統文化を体験させたい）を反映した活動を行うことができた。

また、保護者に周知し学校応援団を募集したことで、書き初め指導の支援・水泳指導やクラブ活動の支援もいただくことができ、学校応援団の活動の幅が広がった。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

コーディネーターを中心にPTA・地域の連携が活動を通して、一段と深まった。また、チューリップ球根植え・花壇の整備・通学路の見回り等、毎年実施している活動は、学校応援団の活動としてすでに根付いている。今後も児童の健全育成と教職員の負担軽減のため、学校・地域・PTAが綿密に連携できるようにしていきたい。

(3) 課題

本年度、新規で支援をいただいた活動（ビオトープの環境保全支援・生け花体験支援・クラブ活動支援・書き初め指導支援等）の活動を、来年度以降も計画的に実践していけるよう、また例年実施している活動を途絶えさせることがないように、学校応援団運営計画をコーディネーターと綿密に打合せながら、地域・家庭と連携して活動を実践していく必要がある。

4 学校・地域の団体等との連携

和光市立本町小学校の実践

～ 学校応援団と保護者を中心とした「どんぐりの会」「おやじの会」との協働 ～

1 実践のねらい

本校は、開校以来、PTA組織やそれに準ずる組織がなかったが、学習の内容に応じて、「保護者有志によるボランティア」や父親を中心とした「おやじの会」による支援が行われていた。また、教育に熱心な地域であることから、地域の方々による学習支援が行われてきていた。平成22年に、この既存の活動を、保護者を中心とした「どんぐりの会」や「学校応援団」として組織し、学校応援団コーディネーターを配置した。学校応援団組織は学習活動支援・安心安全支援・環境美化支援の応援団グループに分かれ、参加する方の特技や経験を生かして自発的に行われている。

本校では、『笑顔いっぱい 夢いっぱい 地域とともに歩む学校』を、目指す学校像として掲げ、学校教育目標「よく考え学ぶ子」「仲よく助け合う子」「明るく元気な子」に取り組んでいる。さらに特色ある学校づくりとして、「体験活動を通して、確かな学力と豊かな心をはぐくむ学校づくり」を推進している。「学校応援団」と保護者を中心とした「どんぐりの会」「おやじの会」の協働により、家庭・地域との連携をより一層強化し、目指す学校像の実現、学校教育目標の達成に向けて取り組んでいる。

2 事業計画

本校の「学校応援団」は、『学習活動支援グループ』『環境美化支援グループ』『安全安心支援グループ』にわかれ、下記のような流れで活動を行っている。

- ・ 1学期・・・「学校応援団」募集
「学校応援団」全体会開催
- ・ 2学期・・・グループごとの活動 活動計画作成
- ・ 3学期・・・グループごとの活動
今年度の反省と次年度の計画



学校応援団総会

3 事業内容

(1) 学習指導への支援（随時）

『学習支援グループ』と「どんぐりの会」の協働

- ・ 読み聞かせ(第1水曜日・第3木曜日の朝自習 全クラス)
- ・ 各教科の指導補助
家庭科（手縫いの仕方、ミシンの使い方、調理実習等の補助）
学級活動(歯科保健指導のお手伝い)

(2) 学校環境整備への支援

『環境美化支援グループ』と「どんぐりの会」、「おやじの会」の協働

- ・ 親子除草活動
- ・ 「おやじの会」による学校農園の手入れ 種まき、収穫（さつまいも、だいこん、白菜）



さつまいも植え付け

(3) 児童の安心・安全の確保への支援

『安全安心支援グループ』と「どんぐりの会」の協働

- ・校外学習（社会科見学、地域探検、全校遠足等）の活動補助及び安全確保
- ・全校遠足での見守り活動
- ・防犯パトロールの実施
- ・校区点検（危険箇所の発見、マップ作成）
- ・安全見守り活動（登下校に合わせて買い物や散歩に出るように心がける）
- ・「地域子ども防犯ネット」「子どもを守る家」との連絡調整

4 成果と課題

(1) 成果

学校応援団が、学校の組織として定着してきており、年々ボランティアの登録者数や参加人数が増え、活動が活発になってきている。また、3つのグループごとに情報交換を行い、「どんぐりの会」や「おやじの会」との協働を通して、地域とのつながりを深めることができた。

・読み聞かせ

学習指導への支援として第1水曜日と第3木曜日の朝自習の時間に全クラス行っている。ボランティアの方に読み聞かせをしてもらい、読書への関心を高め、豊かな心の育成につながっている。



・「親子除草」「花壇の整備活動」

「親子除草」は、年間の行事予定に位置付けて、登校後、親子で作業を行っている。その後、1時間程度、保護者、地域の方は、より良い教育環境を整えるための作業を行ってきている。「花壇の整備作業」は、5のつく日に設定されている。地域の方々を中心となって整備してきているが、保護者の手伝いも増え、子供たちとの交流の場ともなっている。

(2) コーディネーターやボランティアの声（感想）

ボランティアの方々からは、「活動を通してやりがいや生きがいを感じる」と感想が寄せられている。また、教員からは、「子供を地域と協働して育てているという意識が高まった。」「子供たちの多様な体験が増えた。」「子供が課題に向かって意欲的に取り組むようになった。」等の感想があげられた。子供たちからは、「担任とは別にくわしい人から教えていただくことができ楽しい。」という感想があげられた。

一方で、学校応援団コーディネーターからは、「いつものボランティアの方々だけでなく、より多くの保護者の参加を促す必要がある。」との意見も出されている。取組の裾野を広げていくことが課題である。

(3) 課題

学校応援団コーディネーターや「どんぐりの会」、「おやじの会」の連携を深めるために、打合せの時間を確保していく必要がある。また、活動の様子を広く知らせ、各学年の学習・行事計画から、年度当初にどのような支援が必要か具体的に示し、保護者によるボランティアの参加をさらに促していくことが必要である。

4 学校・地域の団体等との連携

新座市立西堀小学校の実践

～ 地域の先生「めんどり隊」 ～

1 実践のねらい

学校・家庭・地域の連携を深め、開かれた信頼される学校づくりを推進するために学校応援団を積極的に活用していく。学校応援団を推進することにより、教育活動が円滑に実施でき教育力が高まる。学校応援団も学校教育に貢献できることを願っている。

2 事業計画

月	活動内容
4・9・ 12・3	学校応援団会議・学校と学校応援団とコーディネーターが年間活動計画・活動内容に関する打合せ、情報交換、学校から及び学校への要望等
4～6	めんどり隊・地域の方による1年生の給食配膳・片づけ、清掃活動の補助
9	めんどり隊・「ふれあいまつり」における「昔遊び体験」支援
10	めんどり隊・1年生のサツマイモ収穫の支援、収穫祭の支援
11	めんどり隊、西堀見守り隊・2年生活科「まちたんけん」グループで活動する子供たちの安全の見守り。
1	めんどり隊・1年生の「昔遊び体験」の支援
4～3	読み聞かせボランティア・朝の読み聞かせ・夏休みの読み聞かせ
4～3	図書ボランティア・図書室の掲示物の作成、学校図書及び図書室の整理、夏休みの図書室開放（3日間程度）
4～3	お琴クラブ支援・地域の方によるお琴クラブ支援（月2～3回） 卓球クラブ支援・地域の方による卓球クラブ支援（月2～3回）
4～3	家庭科学習支援隊・地域の方による家庭科のミシンや調理実習の支援、調理・手芸クラブの支援
9～12	木の子クラブ・地域の方によるどんぐりなどを使った工作支援
4～3	西堀見守り隊・地域の方による下校時の見守り活動、学区内パトロール 登下校見守り隊・地域の方による登下校の見守り わんわんパトロール・犬の散歩をするときに子供たちの安全の見守り
4・7・ 12・3	こすずめ隊・低学年の懇談会時に、地域の方が読み聞かせや折り紙などをして子供たちを見守る。
4～3	学校農園支援隊・学校農園で農作物を育てる子供たちへの活動支援
4～3	花植えボランティア・学校の花壇への花の種や苗植え、水やり、草取り
4～3	おやじの会・運動会のテントの片づけ、カブトムシ・クワガタなどの虫取り、町内会秋祭りの出店、草取り、花壇のレンガ張り付け作業等
7・10 12・3	西堀フィオーレ（合唱団）・保護者や地域の方による校内音楽会、音楽朝会などでの合唱の発表。

3 事業内容

(1) 活動内容

ア 学習活動への支援 「めんどり隊」の活動の様子

1年生が入学して約2か月の間、給食と清掃の時間に地域の方々が1年生の各教室に入って、1年生の給食の配膳やマナー、片付けの支援、清掃の仕方の支援などを実施している。担任だけでは、給食や清掃に関する指導や支援が行き届かないところも「めんどり隊」の方々に入っていただくことで、子供たちが不安に思ったり、とまどったりすることなく安心して生活できるようになっている。また、支援する学級を決めているため、子供たちとめんどり隊の方々が顔馴染みになり、心から触れ合う良い機会となっている。



イ 学校環境整備への支援 「おやじの会」の活動の様子

月1回程度、運動会のテントの片づけ、カブトムシ・クワガタなどの虫取り、親子野球体験、町内会秋祭りの出店、草取り、へちま棚や花壇の作成など親子で楽しめるイベントや環境整備の活動を行っている。



(2) 地域との交流（町内会や高齢者いきいき広場との連携）

西堀町内会秋祭りを9月に校庭で行っているが、お琴クラブや和太鼓クラブの子供たちが参加して発表している。おやじの会の方々が焼き鳥などの出店を出し、町内会との連携を深めている。また、校舎内に設置されている高齢者いきいき広場を利用されている地域の方々とめんどり隊が連携して、けん玉やコマ、お手玉、羽根つきなどの「昔遊び」を子供たちに教える体験活動を11月に実施している。

4 成果と課題

(1) 成果

本校の学校応援団は、学校応援コーディネーターが中心となり地域の方にも広く呼び掛けているため、いろいろな場面で地域の方々が多く参加し、学校応援団としてご協力いただいている。今年度は、めんどり隊と学校農園支援隊との連携による1年のサツマイモ収穫の支援及び収穫祭の支援、おやじの会と花植えボランティアとの連携による花壇の作成等、学校応援団同士の連携が一層深まっている。

子供たちは、学校応援団の方々と顔馴染みになり、〇〇先生と呼んだり、進んで挨拶をしたりするなど、地域の先生として慕っている。教職員も、「学校応援団の方々に支援していただき、本当に助かった、これからもお願いしたい」と言っている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

コーディネーターの方は、「学校応援団の方々に声をかけると進んで協力していただける」、ボランティアの方々は、「子供たちと接したり、学校の役に立ったりすることが嬉しい」と感想を述べている。

(3) 課題

今後は、学校応援団と学校、家庭、地域との連携、子供たちとの交流をさらに深めていけるようにしていきたい。

4 学校・地域の団体等との連携

北本市立西小学校の実践

～ 地域活動室の活用、地域に根ざした活動、放課後子ども教室との連携 ～

1 実践のねらい

本校は、昭和48年に開校し、学区は商店と住宅が混在する比較的新しい住宅街にある。地域コミュニティーやPTAの活動が活発で、保護者・地域住民の本校への関心も高い。こうした地域との連携を密に、10年以上も前から地域に開かれた特色ある教育活動を推進している。本実践についても「保護者・地域のパワーを生かした教育活動」を展開することにより、学校・家庭・地域社会が一体となって児童の育成に取り組むことをねらいとする。【元気で 楽しく きれいな西小】をキャッチフレーズとして、育てたい子供像を【・意欲をもって学習に取り組む子・基礎基本を身につけ、自ら考え表現する子・お互いのよさを認め合い協力する子・明るく礼儀正しい子・進んで運動する子・目標に向かって粘り強くやり遂げる子】として、「学校応援団推進事業」のねらいを目指した実践に取り組んでいる。

2 事業計画

平成18年度に「元気な学校をつくる地域連携推進校」として本事業の研究に着手した体制を基盤とし、これまでの実践を踏まえ今年度の取組を下記のように計画した。

1 学期	○西小サポーター連絡会 ○ふれあい推進委員会開催 ○児童・職員への紹介式(よろしく集会) ○地域活動室開設(利用団体の募集) ○学校応援団の募集(地域・保護者向け) ○夏休みこども教室 ○ふれあい推進委員と全校児童との給食交流(通年;学級ごとに交代して)
2 学期	○西小サポーター連絡会 ○PTA活動との連携 ○ふれあい推進会議開催 ○コミュニティー体育祭参加 ○冬休みこども教室 ○三世代交流会へ参加
3 学期	○児童による「感謝の会」開催 ○西小サポーター連絡会 ○成果と課題のまとめ(来年度の取組に向けて) ○文化の集い(コミュニティー文化祭)参加

3 事業内容

(1) 活動内容

ふれあい推進委員の主な活動

- ①ふれあい推進会議開催
- ②地域活動室の運営
- ③校舎内の安全パトロール
- ④放課後子ども教室の安全管理
- ⑤児童との交流(休み時間や給食)
- ⑥地域活動室利用団体と児童との交流
- ⑦地域活動室利用団体の申し込み調整
- ⑧夏休み・冬休みこども教室開催



学校応援団の活動

- ①環境応援団(西小サポーター)
 - ア 花壇の手入れ・除草…随時
 - イ 掲示ボランティア…毎月1回
 - ウ 校庭の樹木剪定…毎月第2・第4木曜日



4 学校・地域の団体等との連携

②学習応援団

- ア クラブ活動の支援……囲碁将棋、パソコン、手芸、料理、卓球
- イ 家庭科・社会科・総合的な学習の時間・生活科・書写
- ウ 図書室支援…図書の貸し出し、図書整理など…月2回 エ 学習支援



③安全応援団

- ア 登下校時の通学路の安全パトロール……地域の防犯推進委員、自治会
- イ 子ども110番の家協力者、PTAによるあんしんまちづくり学校パトロール

(2) 地域との交流

地域活動室（ふれあい・まなびルーム）を利用した取り組み

- ①書道（春光会、松、ひまわり）
- ③趣味の会・絵手紙（とっとクラブ）
- ②子育てサークル（ミッキーマウス）
- ④絵手紙（さくら）
- ⑤学習支援

平成18年度地域活動室の開設当時は、午前・午後を活用し10以上の利用団体があり多彩な取組が行われていた。①③⑤は当時から継続している活動である。

学校と家庭、地域社会が連携した主な取り組み

- ①コミュニティーグラウンドゴルフ大会への協力（6月と9月に実施）
- ②コミュニティー体育祭への本校鼓笛クラブの参加（10月）
- ③地域の独居老人を招待する三世代交流お楽しみ（11月）
- ④本町西高尾コミュニティー文化祭への鼓笛クラブの発表や児童の作品展示

地域の取組に対して教職員に参加を呼びかけ、準備や当日の児童への指導に当たる。

(3) 放課後子ども教室との連携

地域活動室の開設後、ふれあい推進委員を核として放課後子ども教室の開設に市内で最初に取り組んだ。午前中に常駐したふれあい推進委員が、安全管理サポーターとして支援している。スタッフとしては、教育活動推進員が3～4名、教育活動サポーターが3～5名、月曜日から金曜日に、スポーツ活動や文化活動の指導に当たる。内容は、宿題や自主学習、スポーツ教室、昔遊び、お楽しみタイム等多岐にわたっている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ふれあい推進委員の常駐により、児童との交流、安全・安心の確保ができた。
- 児童が多くの方と関わる中で、感謝の心が育ってきている。
- 地域活動室を利用する方々が学校理解を深め、地域へのメッセンジャー役となった。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- 10年以上にわたる「西小サポーター」の活動が認められ、彩の国コミュニティ協議会から「シラコバト賞」を受賞しました。地道に取り組んできて大変うれしい。
- 1年目に、学校応援団を立ち上げるため毎月会議を開き交流したことが今につながっている。10年間でメンバーは変わったが、学校応援のポリシーを受け継いでいる。
- 子供とふれ合う中で、こちらが元気をもらっている。校外でも声をかけてくれる。

(3) 課題

- 授業に生かせる地域活動室の効果的な活用と教育計画への位置付けを明確にする。
- 家庭、特にPTA活動との連携のあり方を検討し実践する。
- 応援団等の活動状況を公表し、家庭・地域へのさらなる啓発と本事業の発展をめざす。

4 学校・地域の団体等との連携

坂戸市立片柳小学校の実践 ～ 高等学校との連携に支えられて ～

1 実践のねらい

本校の教育目標「よく考え 心豊かな やなぎの子」の育成を目指し、また、目指す学校像「明日が待たれる（児童・保護者・地域住民・教職員）学校をつくる」の実現を図るため「片小ふれあい応援団」を組織し、学校・家庭・地域社会が一体となって特色ある学校づくり「6つのふれあい」【自立・共生】《人・自然・本・家族・地域・英語》を生かした教育活動を推進、展開する。

2 事業計画

学年・月	活 動 内 容
3年・5月	私たちの町・みんなの町の活動で、交通安全・安全確保にあたる。
2年・6月	町たんけん（生活）の活動で、交通安全・安全確保にあたる。
5・6年・9・10月	県立坂戸高校陸上部による連合運動会の練習支援
全校・11月	親子コンサート&県立坂戸高校吹奏楽部による演奏会
1・2年・11月	昔の遊びを教えたり、児童と一緒に遊んだりする。
2年・12月	おもいパーティーの活動で、学級園で収穫したいもを使った料理の支援にあたる。
3年・1月	消防署見学の活動で、往復の交通安全・安全確保にあたる。
5・6年・2月	県立坂戸高校英語学科の生徒とのワークショップ形式による授業
年間	毎週月曜日、各学級に行き、本の読み聞かせを実施する。
年間	学校花壇の除草や花植えを、保護者や児童と一緒に実施する。
年間	毎火曜日と金曜日に低学年の見守りパトロールにあたる。

3 事業内容

県立坂戸高校との連携

【陸上部による連合運動会の練習指導】

平成25年度から、県立坂戸高校の陸上部員にご協力をいただき連合運動会に向けて陸上競技における技術指導を実施している。今年度は、「小学生と高校生のスポーツ交流事業」と兼ねて実施した。①走り方の基本（直線・カーブの走り方・リレーのバトンの受け渡し方・ハードル走の走り方・長距離走の走り方）②跳び方（走り幅跳び・走り高跳び）③ボールの投げ方 等々、連合運動会の種目に合わせて適切な指導をお願いすることができた。2日間にわたる2時間半余りの実技指導であったが、児童も真剣に高校生からの技術指導を受けて、意欲的に練



4 学校・地域の団体等との連携

習に取り組んでいた。

陸上部は、毎日、片柳小学校脇の道沿いの校庭で練習をしているので、児童も練習をしばしば目にしており、その後も、親しみと興味・関心を持って陸上部の練習を見ている姿が見られる。

【吹奏楽部によるコンサート】

県立坂戸高校吹奏楽部との連携は、20数年前から行われている。以前は、ギター部との交互による実施であったが、最近では、本校の11月の土曜日授業に行われる「親子コンサート」に合わせて吹奏楽部をお願いしている。当初は、「生の演奏を児童に聴かせてあげたい」との思いから始められ、演奏のお礼にと児童は歌をプレゼントしていた。6年ほど前から、校内音楽会として前半に児童が合唱や合奏を行い、後半の部として高校生に出演をお願いするようになった。



【外国語科の生徒による英語のワークショップ】

県立坂戸高校には外国語科があり、10年ほど前から5・6年生の英語活動の時間に「体育館を街にして、乗り物に乗ったり、買い物をしたりしよう」の学習の支援をお願いしている。買い物の品物や乗り物等の道具、カード、グッズは、年々工夫して増やしていったので、たいへん充実している。県立坂戸高校の外国語科の教員3名と生徒15名、ALT、本校の5・6年担任、英語活動支援員、ALTによって、英語活動で培ったコミュニケーション能力や活用力を使って児童は生き生きと活動している。今年度も、2月の実施を計画している。

4 成果と課題

(1) 成果

本校は、小規模校であるため、教職員も少なく、連合運動会に向けた実技指導がなかなか難しくなっている。また、全員で指導する時間も余り持てず、実際に県立坂戸高校陸上部の生徒に種目ごとに技術指導してもらえるのでとても有り難い連携である。また、吹奏楽部による楽器の紹介や、児童が喜ぶ音楽も含めた演奏をお願いできるので、児童も当日を楽しみにしている。

(2) 県立坂戸高校の先生方からの声（感想）

本校の学校評議員の一人である県立坂戸高校の教頭先生に実際の授業風景等を参観してもらい、「これからも是非連携を続けたい。」との言葉をいただいている。

(3) 課題

今後も連携を継続していくために、各担当との事前の打合せも含め、両校の教頭で情報交換を密にしていく。



5 中学校における取組

川口市立小谷場中学校の実践

～ 学校・家庭・地域の連携を生かした学校応援団の活用 ～

1 実践のねらい

本校の学校応援団は、平成21年6月にスタートした。学校応援団を立ち上げるにあたり、「教育後援会」の協力をお願いした。本校では今年で22年目となる「教育後援会」という組織がある。その組織が現在学校応援団の活動の中核となっている。また、毎年、協力していただける方を募集し、現在143名が応援団員として登録している。

主な活動としては、学習支援や緑化活動、学校図書館運営等があり、学校や生徒を積極的に支えてもらっている。

2 事業計画

(1) 補習学習支援

- ・活動日時 夏季休業中の7月下旬（約1週間2時間） 定期テスト前の放課後
- ・活動内容 補習学習を開く際に、担当教員の補助を行う。

(2) 授業支援

- ・活動日時 家庭科調理実習支援6・10・12月 箏の指導支援1月
書道支援1月上旬
- ・活動内容 家庭科調理実習では地域で食育活動行っている方々を招き、テーマを決めて生徒に説明し、調理をともに行う。また、音楽の授業でのお箏の指導支援、書道支援では書き初めの指導を行う。

(3) 緑化活動支援

- ・活動日時 年2～3回（除草作業） 不定期（花壇手入れ等）
- ・活動内容 花壇や中庭、あじさい園などで雑草が目立ち始めたら除草を行う。
また、生徒昇降口付近にある花壇に季節にあった花植えを行う。

(4) 学校図書館支援

- ・活動日時 原則 毎月第2、4水曜日 昼休み
- ・活動内容 図書委員の貸し出しの手伝いや、図書の分類や表示、整理整頓を行う。

3 事業内容

(1) 補習学習支援

- ・夏休みや定期テスト前の補習で地域の方に担当教員の補助をお願いしている。
- ・教員が用意したプリントの採点や誤答に対して解説等を行ってけている。

(2) 授業支援

公民館等で食育活動を行っている地域の方に家庭科の授業で調理実習を支援していただいている。今年は「伝統和食」料理の指導をしていただいた。また、書道支援では書き初めの指導を毎年お願いしている。教員一人での指導はなく、多くの人に実習に携わってもらい、きめの細かい指導をしていただけるので学習効果も高く、担当教員だけでなく、生徒からも好評である。



学校応援団の方と調理実習



学校応援団の方による書き初め指導

(3) 緑化活動支援

学校応援団が中心となって、あじさい園の除草や剪定などを行っている。8月下旬には親子緑化作業に学校応援団も参加していただいている。また、花壇に花が絶えないように花植えも定期的に行い、学校美化に協力してくれている。



学校応援団の方とともに親子緑化



学校応援団の方によるあじさい祭り模擬店

(4) 学校図書館支援

毎月第2、4水曜日の昼休みに、図書委員とともに貸し出しの手伝いや、図書の分類や表示、整頓を行っていている。応援団の協力により図書室の整理整頓が行き届き、生徒にとってより良い環境を提供できている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学習支援は、教員とは違った立場の方から教えてもらうということが生徒にとって新鮮な体験であったようである。
- ・緑化活動や図書支援活動は、生徒にとって保護者や地域の方と触れ合ったり、学校は地域に支えられているということを学ぶ良い機会となった。

(2) 学校応援コーディネーター・学校応援団員の声（感想）

「学校の様子が分かり、また子供たちも挨拶をしてくれるようになった。子供から元気ももらっています。」「少しでも中学校の役に立てばと思います。これからは微力ではありますが協力していきたいと思います。」

(3) 課題

学校応援団のメンバーの固定化、高齢化と活動のマンネリ化が見られるのが課題である。また、新しい団員の確保をいかに行っていくかも課題である。

5 中学校における取組

桶川市立桶川西中学校の実践

～ 学習環境の整備を目指して ～

1 実践のねらい

本校の学校応援団の名称は「桶川西中学校学校応援団」といい、平成7年度から活動してきた「おやじの会」を母体としてつくられた。性別や在校生・卒業生の保護者を問わず、保護者の有志によって組織されている。学校応援団は学校内外の環境整備や学校行事・安全指導への協力を通して、地域の学校として教育力の向上を目指している。また、教職員も共に活動する中で本校の教育活動を理解してもらい、信頼関係を築いて生徒の教育環境を向上させ、改善することをねらいとしている。

2 事業計画

4月	「おやじの会」会員募集と1年間の活動計画の立案
5月	開会式、会員紹介、校地内の樹木等の剪定、除草作業
6月	体育祭の警備、指導
7月	環境整備
9月	校内環境整備（廊下のPタイル張り替え等）、除草
11月	バザー協力（焼きそばの調理、販売）
2月	校内環境整備（壁面のペンキ塗り、下駄箱の修理等）
3月	校地内の樹木の剪定、花植え、1年間の反省会

3 事業内容

(1) コーディネーターの活動

学校応援団コーディネーターは1名で「おやじの会」会長が担当している。学校側担当者と連絡・協議しながら、年間計画の作成、会員名簿の管理、会員との連絡調整等を行っている。

(2) 「おやじの会」の募集・登録

今年度は、保護者を中心に45名が参加している。募集については、4月に生徒を通して全家庭に「学校応援団募集」のお知らせプリントを配付し、目的に賛同してくださる保護者を募って登録を行った。入会については随時募集している。また、ここ数年は卒業生の保護者からも、学校を支える地域住民として登録があり、今後どう地域の方に参加してもらおうか、組織的な活動を計画していきたい。

会員の中には様々な技能・技術を持った方がいて、環境整備や安全指導を中心とした学校からの要請に素早く対応していただいている。

(3) 「おやじの会」の具体的な活動

ア 環境整備

渡り廊下の再塗装やリヤカーの車輪修理、学校回りの除草作業や樹木の剪定、花壇の花植えや廊下・教室のPタイル張り替え、校内ペンキ塗りなど。

この活動には、部活動に来ていた生徒も毎回のように参加し、保護者や地域の方との交流が生まれている。

イ 安全指導

非行防止キャンペーンへの参加や月2回の通学路巡回パトロールを実施している。

ウ 学校行事協力

体育祭での交通整理や警備、あいさつ運動を兼ねた登校指導、PTA主催のバザーでの焼きそばづくりなど。



校内のペンキ塗り



学校周りの除草作業



バザーでの焼きそばづくり

4 成果と課題

(1) 成果

- ・除草作業や樹木の伐採により、校地内が明るくきれいになり、通学路等が安全に整備された。
- ・協働作業を通して、教職員と保護者、地域住民との連携がより深まり、学校に対する信頼度が高まった。
- ・毎回の活動の様子を学校だよりや写真掲示によって広くお知らせすることで、保護者や生徒に学校応援団の活動を広く理解してもらうことができた。

(2) コーディネーター・ボランティアの声（感想）

- ・会員の中で学年を超えた横のつながりができてきたことがよかった。同じ年代の子を持つ親としての共通の話題も生まれ、楽しく活動できている。（保護者感想）
- ・保護者の方々が、自分たちのために学校の環境整備に汗を流している姿を見て、感謝の気持ちでいっぱいです。それなのに逆に保護者の方々からお礼の言葉かけをいただき、照れくさい気持ちになりました。（生徒感想）

(3) 課題

会員登録者以外にも、さらに多くの保護者や地域の方々が活動に参加できるよう、計画や活動内容の見直し、他のPTA活動との連携等の方策が必要と考えられる。

5 中学校における取組

東松山市立北中学校の実践

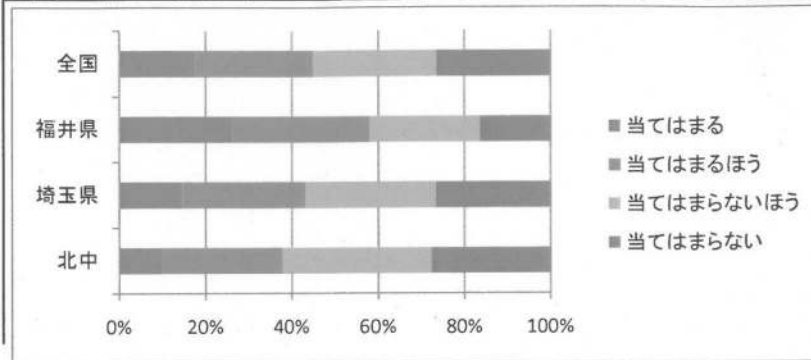
～ 地域ボランティアサークル等と連携した生徒の体験活動への支援 ～

1 実践のねらい

本校は、全国学力・学習状況調査の質問紙の中で、「地域への関心」は、全国・本県・福井県（学力結果上位県）よりも低い傾向にある。特に「地域の行事への参加」については、学力上位県の福井県の参加率は著しく高い。つまり、本校の学校課題「学力向上」と地域での体験活動とは、関係があると考えた。そこで、学校応援コーディネーターを中心に地域での体験活動を積極的に行わせることで、学校課題解決を図ることとした。

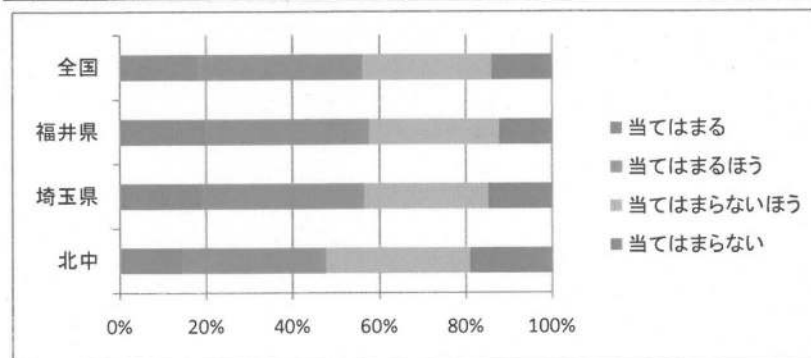
今住んでいる地域の行事に参加していますか

	当てはまる	当てはまるほう	当てはまらないほう	当てはまらない
北中	9.9	27.8	34.6	27.8
埼玉県	14.5	28.5	30.2	26.7
福井県	26.2	31.6	25.7	16.5
全国	17.5	27.3	28.5	26.6



地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

	当てはまる	当てはまるほう	当てはまらないほう	当てはまらない
北中	14.2	33.3	33.3	19.1
埼玉県	18.9	37.4	28.7	14.9
福井県	19.8	37.7	30.1	12.3
全国	18.3	37.6	29.9	14.1



2 事業計画

実施月	体験活動	実施月	体験活動
7	平野市民活動センター夕涼み会	10	読み聞かせ実習
8	三世代交流うどん打ち	12、1	保育体験
8	子育てサロン	3	赤ちゃん抱っこ体験

3 事業内容

(1) ボランティア体験への支援

学校応援コーディネーターを通じ、市社会福祉協議会平野支部に協力・支援してもらい、以下のような生徒のボランティア体験を実施した。

ア 平野市民活動センター夕涼み会

7月25日・26日、児童や幼児を対象としたイベント（お化け屋敷）の作成や運営に、ボランティアとして13名が参加した。



イ 三世代交流うどん打ち

平野市民活動センターの高齢者サロンに来ている高齢者へうどんを作り、一緒に食べながら話をする活動を18名が行った。

ウ 子育てサロン

乳幼児とその母親が集まる会に、遊び相手のボランティアとして27名が参加した。事前に運営スタッフによる乳幼児への接し方のオリエンテーションを受けた。



(2) 保育体験への支援

ア 読み聞かせボランティアによる事前指導

校区内にある幼稚園での保育体験を実施するため、市内小学校で活動している読み聞かせボランティアに、3年生全員が読み聞かせの指導を受けた。

イ 保育体験

学校応援コーディネーターの支援により、校区内の幼稚園での保育体験を実施できた。

(3) 赤ちゃん抱っこ体験への支援

学校応援コーディネーターを通じ、校区内にある子育て支援サークルに依頼し、実際に乳児とその母親に来校してもらい、抱っこ体験を実施する。

4 成果と課題

(1) 成果

地域でのボランティア活動への関心が増えたことで、市主催の行事（ウォーキング行事、敬老の日行事、遊び場体験ボランティア）へ、多数の生徒が希望するようになった。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

- ・事前の説明を受ける際の生徒の態度がいいので、とてもやりやすい。（読み聞かせ）
- ・高齢者や乳幼児へ、親しみを込めて接していた。（平野支部スタッフ）

(3) 課題

他の活動（デートDV予防セミナー、性教育、職場体験）等と関連付けて、さらに豊かな体験となるよう図っていきたい。

5 中学校における取組

狭山市立柏原中学校の実践 ～ 地域と共にある学校づくり ～

1 実践のねらい

本校では、学校教育目標「今を精いっぱい生きる」「凡事徹底」の実現のため「確かな学力の定着 学力の向上」「豊かな心の醸成」「健康の保持・増進」という経営方針のもと教育活動に取り組んでいる。その鍵を握るのが、学校と地域が連携した学校応援団活動の充実であると捉え、その絆を継続的に深めることを実践のねらいとする。

2 事業計画

学校の年間指導計画に沿って、取組事業ごとに見通しを立てる。

- 4月 学習支援ボランティア募集
地域交通安全指導教室
- 5月 第1回学習支援ボランティア連絡協議会（活動計画）
学校応援団連絡協議会（コーディネーター選出等）
- 6月 柏原地区防災キャンプ協議会
柏原地域防犯ネットワーク夜間パトロール
- 7月 夏季学習会6日間
第2回学習支援ボランティア連絡協議会
- 8月 柏原地区防災キャンプ
- 9月 小中学校合同一斉下校
- 12月 柏原地域防犯ネットワーク夜間パトロール
第3回学習支援ボランティア連絡協議会
- 3月 第4回学習支援ボランティア連絡協議会

図書ボランティア・
学習支援ボランティ
ア・柏原中学校土曜
寺子屋・部活動支援
ボランティア
〔通年〕

3 事業内容

(1) 学習支援

ア 授業での学習支援

数学、英語、社会の3教科で年間を通して授業での学習支援を行っている。平成26年度実施した生徒へのアンケートでは8割以上の生徒がボランティアによる支援が有効であると回答している。平成26年度はのべ550人の支援者が参加した。



数学科での学習支援



英語科での学習支援



社会科での学習支援

イ 夏季学習会

学習支援ボランティアの支援を受けて、全学年6日間の学習会を毎年実施している。

5 中学校における取組

ウ 柏原中学校土曜寺子屋

平成23年度から、勉強をしたい生徒に自分のペースで勉強のできる場を学校と地域の力で生み出し、生徒一人一人の学習を支援するとともに、生徒たちの“居場所”を地域としてつくりだす目的で実施している。地域の学習ボランティアが学習プリントを用意して生徒たちの自主学習を支援している。



学習の様子①



学習の様子②



特別授業

(2) 環境整備

ア 図書館ボランティア

地域の方が、図書室の本の管理、整理、新着本の紹介等を月数回のペースで実施している。来年度は、図書室の本のデータベース化にも協力していただく予定である。



図書室の新着本紹介掲示

(3) 防災、防犯等の安全・安心の学校づくり

ア 柏原地区防災キャンプ

平成23年度から、学校と地域が連携して、災害時避難所となる小中学校で防災キャンプを実施している。小・中学校で避難者の受入れ訓練をした後、小学校で炊き出し訓練、体育館で一夜を過ごす避難所生活体験、消火訓練、起震車を利用しての地震体験等を実施している。



避難所設営

イ 柏原地区防犯ネットワーク夜間パトロール

年2回、小・中学校教員も参加して地域の防犯パトロールを夜間に実施している。



防犯パトロール

4 成果と課題

(1) 成果

学習活動では、授業や土曜寺子屋での学習支援が、生徒にとって学習しやすい環境の整備や学力向上に結びついている。防災、防犯では、地域の多数の方々と連携し、地域の防災、防犯活動の推進にもつながっている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声（感想）

はじめは、役に立つのか不安であった。生徒さんたちの「ありがとうございます。」という感謝の言葉が励みになり、学校に来る足取りも軽くなった。

(3) 課題

ボランティアさんとの打合せが課題である。打合せでは、活動内容、日程調整、急な日程変更に対する対処等、常に確認していく必要がある。

5 中学校における取組

三芳町立三芳東中学校の実践

～ 学校応援団の取組を通じた開かれた学校づくり ～

1 実践のねらい

学校・家庭・地域が互いに協力して、学校の活性化を図る。また、学校応援団の取組をとおして、学校をより開かれたものとし、広く地域に信頼される学校にしていくとともに、保護者や地域の方々に見える、聞こえる、感じる教育活動を推進する。

2 事業計画

	1 学期	2 学期	3 学期
学習支援	家庭科授業支援	→	
行事支援	体育祭（5月30日）	けやき祭 （9月18日）	新入生保護者会 （2月3日）
環境支援	花植え（5月23日） 資源回収（5月22日） 資源回収（6月26日）	花植え（9月12日） 花植え（11月25日） 資源回収（9月11日） 資源回収（11月13日） 資源回収（12月11日）	花植え（3月5日） 資源回収（2月12日） 資源回収（3月11日）
部活支援	男子テニス部 剣道部 野球部 サッカー	→	
		駅伝 →	

3 事業内容

(1) 学習活動への支援

家庭科授業支援（平成26年度11回・平成27年度7回）
三芳町更生保護女性会のメンバーが調理実習や裁縫授業の際に、毎回3～4人が授業の補助をしてくれ、今年度は12月までにのべ22人の方にお手伝いをしていただいている。



(2) 学校行事への支援

ア 体育祭でのパトロール

本校では、体育祭時に、パトロールと接待をお願いしている。パトロールは警備用のベストを着用し校地内外を定期的に巡回してくれている。また、来賓や敬老招待者の湯茶接待のご協力をいただいている。

イ けやき祭でのオープニング支援

年度によって異なるが、けやき祭オープニングの太鼓演奏の支援をいただいた。地域で太鼓演奏に取り組む団体に、本校の保護者が関わっており、オープニングセレモニーに太鼓演奏を実施した。太鼓は団体より借用し、練習時から使用した。

ウ 新入生保護者会での受付、応援団の説明

新入生保護者会での、受付をお手伝いいただいている。また、保護者に対して、PTA活動や応援団の活動の説明を行い、入学後の活動並びに協力を依頼している。

(3) 環境美化への支援

ア 花植え・緑化活動資源回収

学校の花壇や玄関前のプランターは、毎年4回行う学校応援団による花植え作業で、きれいに保たれている。

花植えの作業前には、必ず除草、土壌の整備を行い、花がすぐに根付くようにしている。



イ 資源回収

各地区毎に割り当てのある廃品回収では、学校応援団以外の人の協力を得て、地域をあげて取り組んでいる。回収場所での仕事を輪番制で行い、負担を軽くする試みを行っている。

4 成果と課題

(1) 成果

本校の目指す学校像は、「自らの意思と能力で道を切り拓いていく生徒を育成するとともに、生徒の夢を育み、その実現に向けて全力で支援する学校」である。

その中で、本校の学校応援団の取組は、大人が率先して生徒に夢や希望を与えるものになっている。

(2) コーディネーター・ボランティアさんの声

「学校の様子がよく分かった。」「生徒がよく挨拶をしてくれるのがうれしかった。」等の前向きな意見をいただいている。

(3) 課題

本校では、学校応援団の方へ協力を要請し、快く引き受けていただき信頼される学校づくりが推進されている。今後は学校が地域からの要請をうけ、それを学校が担っていく必要がある。現在、吹奏楽部が地域の敬老会に参加したり、生徒会本部が中心となりプロジェクトC（地域清掃活動・CはCleanの略）に取り組んだりしている。今後、地域と密着した活動の機会を増やし、地域から見える、聞こえる、感じる開かれた学校づくりを推進していきたい。

5 中学校における取組

深谷市立花園中学校の実践 ～ 組織的な学校応援団の体制づくり ～

1 実践のねらい

- ・教育活動及び教育環境の一層の充実を図る。
- ・学校・家庭・地域が一体となって、生徒の育成に取り組み推進する。

2 事業計画

- 5月29日（金）・・・学校応援団代表者会議

※昨年度の実績報告と今年度の計画の確認

<参加者>

花園地区青少年健全育成会会長、花園公民館館長、深谷市社会福祉協議会花園支会長、深谷市自治会連合会花園支会長・副支会長、花園地区民生児童委員協議会会長、花園地区民生児童委員協議会児童班、花園地区主任児童委員、花園地区老人会会長、花園中学校学校評議員、花園中学校PTA顧問・会長、校長、教頭、教務主任、教務

- 6月12日（金）・・・花園地区自治会長会議で学校応援団募集の説明

- 学校応援団組織と計画

- ・学習活動支援部・・・9月5日（土）（体育祭）、9月10日（木）ふれあい講演会、10月31日（土）校内音楽会、11月12日（木）性教育講演会、11月27日（金）薬物乱用防止教室、12月5日（土）もちつき大会、2月17日（水）立志式
- ・部活動支援部・・・7月6日（月）、8月28日（金）、10月5日（月）、11月30日（月）、1月18日（月）、2月15日（月）3月7日（月）
- ・環境活動支援部・・・7月4日（土）、8月22日（土）
- ・安心安全支援部
（登校の見守り）・・・毎月第1月曜日

3 事業内容

- (1) 学習活動支援部・・・学校行事の参加及び評価、各行事の見学、校地内の巡視、生徒の様子把握と支援、アンケートへの協力
- (2) 部活動支援部・・・部活動の見守り、校地内の巡視、生徒の様子把握と支援
- (3) 環境活動支援部・・・校地内奉仕作業、植木の剪定、除草作業、その他の作業、アンケートへの協力
- (4) 安心安全支援部
（登校の見守り）・・・交通安全の確認・指導



学校応援団代表者会議

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学校応援団代表者会議を早い時期に計画し、実施することで、組織的な学校応援団の体制を作ることができた。
- ・学校応援団の学校支援ボランティア募集には、保護者だけでなく、花園地区住民の方にも参加を得るために、花園地区自治会長会議に参加し、趣旨を説明し協力を得ることができた。
- ・学校支援ボランティアの方が、多くの学校行事に参加していただき各行事の見学、校地内の巡視、生徒の様子把握と支援、アンケートへの協力をしていただくことによって、学校の教育活動への理解を深めていただくことができた。
- ・部活動支援部では、職員会議等で教員が部活動の指導ができないときに見守りをさせていただきだけでなく、ボランティアの方々と生徒たちとのふれあいがあった。
- ・もちつき大会では、家庭ではほとんど行われていない日本の文化であるもちつきを通して、もちの作り方だけではなく、食を通じた心の交流を行うことができた。



体育祭見学



もちつき大会



除草作業

(2) コーディネーター、ボランティアさんの声（感想）

- ・校内音楽会では、一つのスローガンのもと生徒全員が真剣に取り組んでいて、とても感動しました。1年から2年、3年と学年が上がるごとに男女とも声がよく出ていて、心身の成長が伺えました。特に3年生の合唱はとても素晴らしかったです。校内音楽会だけを拝見しても、花中生は何事にも一生懸命取り組む学校であることが分かりました。
- ・体育祭では最後まであきらめない姿を見ることができ、とても感動しました。生徒たちの絆の強さを感じ取ることができました。応援合戦では、3年生が団の中心として、1・2年生をリードしている姿を見て、3年生の成長を直に見ることができました。

(3) 課題

各支援部とも学校の行事に大変よく協力いただいている。そして、その活動は家庭、地域に次第に理解されてきている。今後は、各支援部との連絡調整をすることで、年間計画に事業内容を具体的に設定し、学校応援団の活動が家庭、地域により具体的に見えるようにしていくことで、参加者をさらに募っていく。

5 中学校における取組

宮代町立百間中学校の実践 ～ 地域に根ざした活動（環境応援団） ～

1 実践のねらい

本校が目指す学校像は、『信頼に満ちあふれ、たゆまぬ進化を続ける学校』である。なかでも、生徒と教職員、生徒同士、教職員同士、学校と家庭、学校と地域等、学校内外の関係が相互の信頼を基盤として成り立ち、太い絆で結ばれた学校を目指している。本校の学校応援団は、学習活動、部活動、生徒の健全育成、環境整備等について、地域のボランティアの力を借りて、学校と地域が一体となって学校教育をより充実させることをねらいとしている。

2 事業計画

主な事業の活動内容・年間の活動計画については、以下の表の通りである。

事業	読み聞かせ	図書	部活動	環境整備	登校時
活動内容	ブックトーク 読みがたり	図書室の 環境整備	サッカー、剣道 の技術指導	・除草作業 ・花壇の整備	あいさつ 運動
活動計画	各学期3回	毎週水曜	平日、休日 長期休業中	・夏季休業日 ・各学期1回	毎週水曜

3 事業内容

(1) 活動内容

ア 学習活動への支援

- ・図書ボランティア：図書室内の図書の整理、毎週水曜 13:30～15:30
本の紹介と読み聞かせ、各学期3回 8:15～8:45（1学年2学期、2学年3学期、3学年1学期）

イ 学校環境整備の支援

- ・除草ボランティア：夏季休業中における学校敷地内の除草
- ・緑化ボランティア：校内のPTA花壇の植栽や緑化活動を実施

ウ 部活動支援

- ・従来から、サッカー部・剣道部への技術指導を実施

エ 健全育成支援

- ・正門でのあいさつ運動：毎週1回（水曜）朝8:00～8:25まで正門でのあいさつ運動を実施

(2) 地域との交流（体験活動を中心とした取組）

本校では、第1学年で「職場体験学習 3days チャレンジ」を行っている。この事業は、地域の中での様々な体験活動を通して多くの方々とふれ合い、学校では得られない経験を積むことによって、豊かな感性や社会性・自立心を養い、豊かに生きる力を育むことをねらいとしている。生徒にとっては、社会のルールやマナーを学び新

5 中学校における取組

しい自分に出会う良い機会になり、また、望ましい職業観や将来の夢を育むことにもつながっている。体験を終えた生徒は、目を輝かしながら充実した3日間の様子を話している。楽しいことばかりではなかったと思われるが、人間的に大きく成長してきている。



(3) 地域との交流（保育園との連携）

技術・家庭科の家庭分野の授業の一環として第3学年で、「幼児とのふれ合い体験」を実施している。生徒たちは、幼児とのふれ合いの中で、命の大切さや自分の成長について振り返るよい機会となり、また、新たな自分の発見へとつながっている。



4 成果と課題

(1) 成果

- ア 学習活動の支援では、それぞれ専門的な指導・支援が行われたことにより、図書を通じた心の醸成が図れた。
- イ 学校環境整備の支援では、季節を感じさせる草花の植え付けができた。
- ウ 部活動支援では、放課後や休日、長期休業中等も個に応じた技術指導を行っていたが、技能・体力向上につながった。
- エ 健全育成支援では、多数の保護者ボランティアがあいさつ運動に参加し、生徒の様子等、学校をよりよく理解できる機会となった。

(2) 図書ボランティアさんの声（感想）

- ・生徒がもっと本に触れる機会を増やそうという試みで、昨年6月から図書室の廊下に季節ごとの特集展示をしています。実際に、生徒たちが本を手にとったり、借りたりしている様子を見て、成果が出ているように思います。
- ・図書ボランティアと図書館スタッフによる「ブックトークと読みがたり」を各学年ともに学期に3回実施している結果、実施後は、読書への興味・関心が高まり紹介された本を借りる生徒が多くなりました。
- ・毎月、新刊を並べ、マンガコーナーもあり、休み時間に図書室に通う生徒も増えていきます。図書室が、居心地の良い場所になるように心がけております。

(3) 課題

- ・今後は、年度当初に事業計画を具体的に立案し、組織の活性化と充実を図っていく必要がある。
- ・学校応援団室を整備し確保しているが、十分な活用までは至っていない。

第3 「学校応援団」参考資料



平成27年度 第2回「学校応援団」の推進に係る調査結果概要

平成28年2月1日現在

【組織づくり】

1 「学校応援団」の組織状況

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
A 「学校応援団」（学校を支援する組織）が組織されており、学校と学校応援団との調整役（教職員以外）がいる。	708	100.0%	359	100.0%
B 学校を支援する組織はあるが、学校と組織との調整役がない。	-	0.0%	-	0.0%
C 学校の教育活動の支援を行う組織がなく、調整役もない。	-	0.0%	-	0.0%
合計	708		359	

2 「学校応援コーディネーター」の担い手

（1のAが対象。複数回答あり。）

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
現PTA関係者	312	44.1%	187	52.1%
元PTA関係者（PTAのOBなど）	285	40.3%	153	42.6%
町内会長・区長・自治会長など	163	23.0%	47	13.1%
学校支援グループの代表者	141	19.9%	40	11.1%
学校評議員	124	17.5%	48	13.4%
自営業	69	9.7%	22	6.1%
民生委員・児童委員	67	9.5%	21	5.8%
元教員	52	7.3%	11	3.1%
卒業生（同窓生）	32	4.5%	10	2.8%
会社員	25	3.5%	15	4.2%
商工会議所・青年会議所等の地元団体の関係者	19	2.7%	5	1.4%
公務員	16	2.3%	10	2.8%

3 「学校応援団」活動に係る会議の設置

（1のAが対象。複数回答あり。）

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
要項等を作成し実施している。	276	39.0%	82	22.8%
要項等の作成はせず実施している。	207	29.2%	115	32.0%

【活動内容】

4 学習活動への支援、部活動への支援の内容

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
子供への本の読み聞かせ活動を行っている。	653	92.2%	55	15.3%
指導者として、郷土芸能や伝統行事、昔遊びなどを体験させている。	564	79.7%	68	18.9%
子供が校外で学習する際に、担任とともに子供に付き添い安全を確保している。	526	74.3%	21	5.8%
授業などにおいて、学級の子供に対して、学習内容に関する専門的な知識を話したり、技術や技能を示したりしている。	463	65.4%	85	23.7%
農業体験活動などにおいて、育成の指導や草取りなどを支援している。	435	61.4%	110	30.6%
授業などにおいて、個々の子供に対して、学習活動を支援している。	391	55.2%	68	18.9%
授業などにおいて、子供のグループに対して、学習活動を支援している。	381	53.8%	54	15.0%
環境教育を行うために、ビオトープづくりの支援や、教材などの準備、アルミ缶の回収などを行っている。	207	29.2%	79	22.0%
部活動やクラブ活動において、技術や技能を示したり、指導・助言などを行っている。	161	22.7%	169	47.1%
放課後や週末などに、宿題や補習などを手伝っている。	61	8.6%	46	12.8%
部活動の大会などで、引率の補助を行っている。	6	0.8%	54	15.0%

5 安心・安全確保への支援の内容

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
登下校時に、通学路に立ち児童生徒の安全を確保している。	662	93.5%	149	41.5%
スクールガードやスクールガードリーダーとして活動している。	640	90.4%	26	7.2%
「子ども避難所（子ども110番の家）」など、緊急時の避難場所として自宅などを登録している。	548	77.4%	59	16.4%
登下校時に、パトロールを行い安全を確保している。	484	68.4%	77	21.4%
登下校時のあいさつ運動や声掛け活動を行っている。	476	67.2%	212	59.1%
登下校時に、児童生徒に付き添い安全を確保している。	445	62.9%	9	2.5%
防犯パトロールを行っている。	440	62.1%	187	52.1%
授業中や休み時間に、校舎内の巡回を行っている。	40	5.6%	14	3.9%

6 教育環境整備への支援の内容

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
除草作業や花壇などの整備を行っている。	612	86.4%	293	81.6%
学校図書館の図書の整理などを手伝っている。	413	58.3%	63	17.5%
樹木や生垣の手入れや剪定などを行っている。	379	53.5%	162	45.1%
教室や校舎の修繕を手伝っている。	129	18.2%	64	17.8%
校庭の遊具の整備や管理の補助などを行っている。	122	17.2%	17	4.7%

【成果と課題】

7 地域人材を活用した支援活動の結果という視点から考えられる成果

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
地域の方と交流することにより、子供に、あいさつをするなどの「社会性」が身に付いてきた。	591	83.5%	292	81.3%
学習活動の支援により、子供が学習に意欲的に取り組むようになった。	550	77.7%	119	33.1%
子供の多様な体験や経験が増えた。	542	76.6%	165	46.0%
専門的な知識や技術が授業に活用されることにより、子供の学習活動に対する興味や関心が高まった。	533	75.3%	123	34.3%
教員が「地域人材」を授業等で活用する「よさ」を理解するようになった。	467	66.0%	89	24.8%
専門的な知識や技術が授業に活用されることにより、授業の質の向上が図られた。	379	53.5%	61	17.0%
学習に必要な支援が受けられるようになり、教師の学習指導に対する意欲が高まった。	242	34.2%	34	9.5%
子供のコミュニケーション能力が高まった。	178	25.1%	40	11.1%
教員が子供と向き合う時間が増えた。	97	13.7%	24	6.7%
不登校やいじめなど生徒指導上の課題に対処しやすい環境ができた。	92	13.0%	43	12.0%
子供の学力や体力が向上した。	82	11.6%	23	6.4%
子供に落ち着きが出てきた。	68	9.6%	54	15.0%

8 学校と家庭・地域との連携という視点から考えられる成果

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。	672	94.9%	323	90.0%
保護者や地域の方に、学校の教育活動を支援していただくことにより、保護者や地域の方の学校に対する信頼が深まった。	623	88.0%	297	82.7%
「学校応援団」の方から、学校の教育活動における支援に「生きがい」や「やりがい」などを感じるという声が聞かれるようになった。	493	69.6%	84	23.4%
教員が、子供を地域ぐるみで育てているという意識を持つようになった。	436	61.6%	147	40.9%
保護者から、「学校の教育活動がよく理解できるようになった」という声が聞かれるようになった。	315	44.5%	128	35.7%
子供が地域の行事に以前より積極的に参加するようになった。	138	19.5%	72	20.1%
地域の犯罪が減少した。	41	5.8%	18	5.0%

9 「学校応援団」づくり及び推進にあたっての課題

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校支援ボランティアを集めること	442	62.4%	179	49.9%
「学校応援コーディネーター」として依頼できる人材の確保	329	46.5%	135	37.6%
「学校応援団」に支援していただくことをまとめること	265	37.4%	99	27.6%
「学校応援団」運営のための予算確保	240	33.9%	92	25.6%
「学校応援コーディネーター」の活動場所の確保	161	22.7%	54	15.0%
企画・運営委員会や職員会議等での検討（分掌上の位置付けや活動ルールの作成等）	140	19.8%	79	22.0%
学校経営方針への位置付け	51	7.2%	37	10.3%

10 「学校応援団」の活動の充実に向けての今後の取組方策

(1のAが対象。複数回答あり。)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
自治会や町内会等との連携を強化し、ボランティアや学校応援コーディネーターの人材の確保に努める。	469	66.2%	128	35.7%
学校だよりや学校のHP等を活用し、積極的にボランティアを募集し、人材の確保に努める。	453	64.0%	162	45.1%
「学校応援団」の組織体制や活動計画、運営方法について見直しを行う。	336	47.5%	161	44.8%
実践発表会等で紹介された内容を参考にし、現在の活動内容の見直しや新たな活動を企画・実施する。	309	43.6%	125	34.8%
ホームページや実践事例集等で紹介されている優良事例を参考にし、現在の活動内容の見直しや新たな活動を企画・実施する。	303	42.8%	136	37.9%
「『学校応援団』のタイプ別活動例」や「『学校応援団』活動内容の充実に向けて」を活用して、現在の活動内容の見直しや新たな活動を企画・実施する。	274	38.7%	113	31.5%
職員会議や校内研修等における「学校応援団」の活用をテーマとした話し合い等により、教職員の意識改革を図るとともに、ボランティアとの連携強化を図る。	219	30.9%	91	25.3%
管内及び隣接校との情報交換等により、自校の活動内容の見直しを行う。	184	26.0%	98	27.3%
自治会や地域の諸団体との連携を深め、児童生徒や教職員が地域活動に積極的に参加するなど、地域を活性化させるための取組を進める。	144	20.3%	67	18.7%
これまで連携していない組織・団体等との新たな連携作りに努め、支援や活動の種類が拡大するよう努める。	142	20.1%	41	11.4%
「学校応援団」の活動について、ボランティアや学校応援コーディネーターと教職員がともに参画し、意見交換等を行う場を設定する。	136	19.2%	52	14.5%

第4 「放課後子供教室推進事業」 とは

第4「放課後子供教室
推進事業」とは



「放課後子供教室推進事業」について

1 概要

(1) 趣旨

すべての子供を対象として、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

また、土曜日等において社会人や企業の参画を得て、土曜日ならではの多様なプログラムを子供たちに提供し、教育支援体制の構築を図るとともに、未来を担う子供たちを健やかに育むため、地域の人材を活用し、学習が遅れがちな中学生等に対して学習支援を行う。

(2) 事業の内容

ア 指導者研修等の実施（県）

(ア) 推進委員会の設置

実施方針の検討、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等を行う推進委員会を設置

(イ) 指導者研修の実施

コーディネーター等の資質向上や情報交換・情報共有を図るための研修を実施

(ウ) 市町村が実施する「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」への支援

市町村への補助金の交付、各種会議等による情報提供

イ 「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」の実施（市町村）

(ア) 「放課後子供教室」の実施

教育活動サポーター（安全管理員）やボランティアを配置し、スポーツ・文化活動等の様々な体験活動や地域住民との交流活動等の取組を実施

また、教育活動サポーター（学習アドバイザー）を配置し、補習等の学習活動の取組を実施

(イ) 「土曜日の教育支援」の実施

土曜教育推進員やボランティアを配置し、体系的・継続的なプログラムを企画・実施

(ウ) 「中学生学力アップ教室」の実施

学習支援員やボランティアを配置し、中学生を対象とした学習支援を実施

(エ) 運営委員会の設置

(オ) コーディネーターの配置

2 実施状況等

(1) 実施状況

年 度	19	20	21	22	
実施市町村数	20	31	38	38	
実施箇所数（※1）	139	214	247	277	
年 度	23	24	25	26	27
実施市町村数	45	45	45	46	46
対象学校数（※4）	327	351	375	382	597

※1 平成19～22年度は実施箇所数、平成23年度以降は対象学校数にて表記

※2 平成26年度より新規事業として「土曜日の教育支援」を開始

※3 平成27年度より新規事業として「中学生学力アップ教室」を開始

※4 平成27年度の「対象学校数」の内訳は、（2）のア、イ、ウに記載

(2) 平成27年度実施市町及び対象学校数

ア 放課後子供教室 対象学校数：375校（うち補助対象学校数：339校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
川口市	19	所沢市	11	熊谷市	29	行田市	3
鴻巣市	11	東松山市	4	秩父市	13	春日部市	13
草加市	19	狭山市	15	横瀬町	1	羽生市	5
蕨市	7	入間市	16	小鹿野町	4	久喜市	23
戸田市	12	富士見市	10	上里町	5	八潮市	9
志木市	8	坂戸市	3			三郷市	19
和光市	9	鶴ヶ島市	8			蓮田市	4
新座市	7	日高市	6			幸手市	1
桶川市	4	ふじみ野市	13			杉戸町	2
北本市	8	毛呂山町	4			越谷市	15
桶川市(単独)	1	嵐山町	3			加須市	3
伊奈町	4	川島町	6			吉川市	8
		吉見町	2				
		ときがわ町	3				
		越生町	2				
		鳩山町	3				

イ 土曜日の教育支援 対象学校数：213校（うち補助対象学校数：182校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
蕨市	7	所沢市	1	熊谷市	45	三郷市	27
朝霞市	10	東松山市	1	深谷市	19	春日部市	6
志木市	8	坂戸市	13				
新座市	17	ふじみ野市	19				
北本市	12	ときがわ町	3				
草加市	21						
伊奈町	4						

ウ 中学生学力アップ教室 対象学校数：6校（うち補助対象学校数：6校）

南部地区		西部地区		北部地区		東部地区	
北本市	4			上里町	2		

- ※1 政令指定都市（さいたま市）を除く。
- ※2 網掛け：県の補助を受けずに単独事業として実施している市町。
- ※3 「対象学校数」とは、各事業に参加可能な子供が在籍する学校の数を表す。

平成27年度「放課後子供教室」等の実施状況一覧表

※ 網掛けは、県の補助を受けずに独自に類似事業を実施している市町

地区	NO	市町村	箇所数	対象小学校区	事業開始	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	学習調査の活用	
南 部 地 区	1	川口市	19	原町小、朝日東小、戸塚南小、神根小、青木北小、芝小、新郷小、飯仲小、安行東小、鳩ヶ谷小、中居小、辻小、里小、桜町小、南鳩ヶ谷小、本町小、在家小、差間小、芝中央小	4月 5月 11月	1か所 17か所 1か所	小学校:18か所 公民館:1か所	月・土曜日:1か所(月2回) 月曜日及び長期休業日:1か所(毎週:1か所) 月曜日:1か所(月2回:1か所、月1回:3か所) 木曜日:2か所(毎週:1か所) 金曜日:1か所(月2回)	平日 15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):18か所 うち 平日の他 土曜日 10:00~11:30:1か所 長期休業日 14:00~16:00:1か所 平日 15:00~17:00・長期休業日 9:00~12:00:1か所	2月	無
	2	鴻巣市	11	鴻巣東小、松原小、下忍小、屈巢小、鴻巣北小、赤見台第二小、大芦小、笠原小、鴻巣南小、常光小、小谷小	5月 6月 7月 9月	2か所 7か所 1か所 1か所	小学校:10か所 公民館:1か所	月・木曜日(毎週):3か所 月・水曜日(毎週):3か所 月・金曜日(毎週):2か所 火・木曜日(毎週):2か所 水・金曜日(毎週):1か所	平日 14:30~17:00 11か所	5月	無
	3	草加市	19	草加小、高砂小、新田小、谷塚小、栄小、川柳小、新里小、花栗南小、八幡小、新栄小、清門小、稲荷小、水川小、八幡北小、長栄小、青柳小、両新田小、松原小、西町小	4月 5月 1月 2月	1か所 16か所 1か所 1か所	小学校:19か所	平日毎日及び長期休業日(平日毎日):1か所 月・火・金曜日及び土曜日(毎週):1か所 月曜日(毎週):2か所 月曜日(毎週)及び土曜日(月1回):1か所 火曜日(毎週):3か所 水曜日(毎週):3か所 水曜日(毎週)及び土曜日(月1回):1か所 水・金曜日(毎週):1か所 木曜日(毎週):2か所 金曜日(毎週):4か所	平日 放課後~17:00(冬季~16:30)、長期休業日 9:00~12:00(後半~12:00):1か所 平日 放課後~17:00(冬季~16:30):15か所 平日 放課後~17:00(冬季~16:30)、土曜日 10:00~12:00:3か所	5月	無
		草加市 (土曜日の教育実施) (単独実施)	25	草加小、高砂小、新田小、谷塚小、栄小、川柳小、瀬崎小、西町小、新里小、花栗南小、八幡小、新栄小、清門小、稲荷小、水川小、八幡北小、長栄小、青柳小、小山小、両新田小、松原小、川柳文化センター、谷塚文化センター、中央公民館、勤労福祉会館	5月 6月 7月 9月 10月 11月 12月 2月	25か所	小学校:21か所 公民館:3か所 その他(勤労福祉会館):1か所	土曜日(月2回):25か所	土曜日 9:00~11:00:21か所 土曜日 9:30~11:30:4か所	4月	無
	4	蕨市	7	東小、西小、南小、北小中央小、中央東小、塚越小	4月	7か所	小学校:7か所	月曜日(毎週):7か所 ただし、祝日・春夏冬休み等を除く。	15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):7か所	1月	無
	蕨市 (土曜日の教育実施)	7	東小、西小、南小、北小中央小、中央東小、塚越小	4月	7か所	小学校:7か所	土曜日(隔週):7か所 ただし、春夏冬休み等を除く。	9:30~11:30:7か所	2月	無	
	5	戸田市	12	戸原小、美谷本小、新曾小、喜沢小、笹目小、戸田東小、戸田第一小、新曾北小、戸田南小、笹目東小、美女木小、戸田第二小	4月 5月 6月	2か所 9か所 1か所	小学校:12か所	平日週2回 火・木:1か所 平日週1回 月:1か所 木:3か所 平日月2回 月:1か所 火:1か所 水:1か所 木:2か所 平日月1回 月:2か所	15:00~16:00:1か所 15:00~16:45:1か所 15:00~17:00:3か所 15:00~17:00(冬季 15:00~16:30):7か所	7月	無
	6	朝霞市 (土曜日の教育実施)	6	第一小、第二小、第三小、第四小、第五小、第六小、第七小、第八小、第九小、第十小	10月 11月	4か所 2か所	小学校:6か所	土曜日(全12回):6か所	9:30~11:30:6か所	7月	無
	7	志木市	2	志木小、志木第二小、志木第三小、志木第四小、宗岡小、宗岡第二小、宗岡第三小、宗岡第四小	4月	2か所	小学校:2か所	月・水・木曜日:1か所 土曜日(隔週):1か所	月・水・木曜日 15:30~17:00:1か所 土曜日 9:30~11:00:1か所	3月	無
		志木市 (土曜日の教育実施)	1	志木小、志木第二小、志木第三小、志木第四小、宗岡小、宗岡第二小、宗岡第三小、宗岡第四小	4月	1か所	小学校、その他(公民館・大学施設など):1か所	土曜日(隔週):1か所	土曜日 9:30~11:00:1か所	3月	無
	8	和光市	8	白子小、新倉小、第三小、第四小、第五小、広沢小、北原小、本町小	6月	8か所	小学校:8か所	平日月2回~4回:8か所	15:30~17:00(冬季:15:30~16:30):8か所	3月	無
			1	第四小	5月	1か所	小学校:1か所	給食のある平日及び長期休業日(夏・冬・春休み)の平日:1か所	給食のある平日 放課後~17:00 長期休業日(夏・冬・春休み)の平日 9:00~12:00:1か所	未設置	無
9	新座市	7	東野小、石神小、東北小、新堀小、第四小、野寺小、栗原小	4月 5月	7か所	小学校:7か所	給食のある平日及び長期休業日の平日(毎日):7か所	給食のある平日 放課後~17:00 (10月20日~1月は16:30まで) 長期休業日の平日 8:30~正午:7か所	5月	無	
	新座市 (土曜日の教育実施)	17	大和田小、西堀小、片山小、第四小、八石小、東北小、野火止小、野寺小、池田小、新堀小、東野小、栗原小、石神小、新開小、栗原小、陣屋小、新座小	6月	17か所	小学校:17か所	土曜日(月2回程度):17か所	土曜日 10:00~12:00:17か所	5月	無	
10	桶川市	4	桶川東小、日出谷小、桶川西小、朝日小	5月 9月	2か所 2か所	小学校:4か所	月~金曜日(毎日・朝日小は水曜日休室):4か所	15:00~16:30:4か所	4月	無	
	桶川市 (単独実施)	1	朝日小	4月	1か所	小学校:1か所	各月第3土曜日(ただし8月を除く):1か所	10:00~12:00:1か所	未設置	無	
11	北本市	8	西小、南小、東小、中丸小、石戸小、北小、中丸東小、栄小	5月	8か所	小学校:8か所	給食のある月~金曜日(毎週)及び土日長期休業日:1か所 給食のある月~金曜日(毎週):7か所	月~金曜日 14:45~16:50、土日 9:00~16:00、長期休業日 9:00~12:00:1か所 月~金曜日 14:45~16:50:7か所	4月	無	
	北本市 (土曜日の教育実施)	12	中丸小、石戸小、南小、北小、西小、東小、中丸東小、北本中、東中、西中、宮内中	4月	12か所	小学校:8か所 中学校:4か所	土曜日 午前中 10回	9:00~12:00	未設置	無	
	北本市 (中学生学力アップ教室)	6	北本中、東中、西中、宮内中	4月	6か所	中学校:4か所 公民館:2か所	水曜日:4か所(中学校) 土曜日:2か所(公民館)	17:00~19:00:4か所(中学校) 16:00~18:00:2か所(公民館)	4月	無	
12	伊奈町	4	小室小、小針小、南小、小針北小	6月 7月	1か所 3か所	小学校:4か所	平日(不定期)	平日(不定期) 放課後~16:10、土曜日 9:00~11:00:4か所	未設置	無	
	伊奈町 (土曜日の教育実施)	6	小室小、小針小、南小、小針北小	5月	5か所 1か所	小学校:3か所 中学校:1か所 その他:1か所	土曜日(月2回):3か所 土曜日(月2回):1か所 土曜日(不定期):1か所	土曜日 9:00~11:00 " " 土曜日 9:30~11:30	未設置	無	

第4「放課後子供教室」推進事業とは

地区	NO	市町村	箇所数	対象小学校区	事業開始	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	学習調査の活用		
西部 地区	1	所沢市	11	所沢小、北小、松井小 清進小、明峰小、若松小 北秋津小、林小、若狭小 南小、中富小	4月	1か所	小学校:1か所	月～金曜日(毎週):1か所	平日 放課後～18:00(希望者のみ19:00まで):1か所 放課後～18:00:3か所、放課後～17:45:1か所 放課後～17:30:4か所、放課後～16:30:1か所 放課後～17:00:1か所	5月	無	
		所沢市 (土曜日の新開支店)	1	所沢小	4月	1か所	小学校:1か所	土曜日及び長期休暇(毎週):1か所	土曜日 8:30～12:00、長期休業日 13:00～19:00:1か所	5月	無	
	2	東松山市	4	青島小、新宿小、 野本小、市の川小	5月	4か所	小学校:4か所	月・金曜日(毎週):4か所	放課後(15:10頃)～16:30:4か所	3月	無	
		東松山市 (土曜日の新開支店)	1	野本小	6月	1か所	その他(市民活動セ ター):1か所	土曜日(月2回):1か所	土曜日 9:30～11:30:1か所	未設置	無	
	3	狭山市	16	入間川小、入間川東小 富士見小、南小、山王小 入間野小、御狩場小 堀兼小、狭山台小 新狭山小、奥富小 柏原小、水富小、広瀬小 笹井小	4月	5か所	小学校:10か所	月曜日(毎週、5月～10月):1か所	月曜日(毎週、5月～10月):1か所 月曜日(月1日):5か所 木曜日(月2日):1か所 金曜日(月1日):2か所 土曜日(不定期):1か所 土曜日(年6～8日):2か所 日曜日(月1日):1か所 日曜日(年6日):1か所 不定期:2か所(1教室、広域出張事業)	月曜日 放課後～16:30:1か所 月曜日 放課後～17:00:2か所 月曜日 放課後～17:00:3か所 (5～8月 放課後～17:30)(11～2月 放課後～16: 30) 木曜日 15:00～17:00:1か所 (5～8月 放課後～17:30)(11～2月 放課後～16: 30) 金曜日 放課後～17:00:2か所 土曜日 9:30～11:30:2か所 土曜日 10:00～12:00:1か所 日曜日 9:30～12:00:1か所 日曜日 10:00～12:00:1か所 不定期(広域出張事業含む):2か所	未設置	無
					5月	6か所	公民館:5か所					
	4	入間市	18	豊岡小、東金子小、金子小、宮 寺小、藤沢小、狭山小、西武 小、藤沢南小、黒須小、扇小、 藤沢東小、藤沢北小、仏子小、 新久小、東町小、高倉小	4月	16か所	小学校:16か所	土曜日:16か所(長期休業日を除く毎週)	土曜日:16か所(長期休業日を除く毎週) 週2日(原則授業給食のある日):2か所	9:00～12:00:16か所 放課後～16:45:2か所	5月 年4回	無
					9月	2か所	公民館:2か所					
	5	富士見市	10	水谷小、関沢小、水谷東小、南 畑小、勝瀬小、ふじみ野小、 針ヶ谷小、観音小、つるせ台 小、みずほ台小	4月	6か所	小学校:9か所	月曜日(月1～4回程度):5か所	月曜日(月1～4回程度):5か所 月曜日(月2回):土曜日(月1回程度):1か所 土曜日(月1～2回):2か所 不定期(隔月・年4回～2回):2か所	平日 放課後～16:30:7か所(冬季は16:00) 平日 放課後～17:00:1か所(※冬季は時間短縮) 土曜日 10:00～12:00:2か所	5月	無
					5月	4か所	公民館:1か所					
	6	坂戸市	3	三芳野小、勝呂小、片柳小	4月	3か所	小学校:3か所	月曜日(授業給食のある毎週):1か所(片柳小) 火曜日(授業給食のある毎週):1か所(三芳野小) 水曜日(授業給食のある毎週):1か所(勝呂小)	月曜日 15:00～16:30:1か所(片柳小) 火曜日 15:00～16:30:1か所(三芳野小) 水曜日 15:00～16:45:1か所(勝呂小)	12月	無	
					6月	5か所 (3会場5 教室)	公民館:2か所 交流センター:1 か所	土曜日(月2回程度):5か所	9:00～11:00:5か所	5月 11月 2月	無	
	7	鶴ヶ島市	12	鶴ヶ島第一小、鶴ヶ島第二小、 新町小、杉下小、長久保小、菜 小、藤小、南小	4月	12か所	小学校:11か所 公民館:1か所	月曜日(隔週):1か所 月～金曜日(原則授業給食のある週):8か所 ※夏休みは一部実施 月曜日(授業給食のある毎週):3か所	月曜日 15:00～16:30:1か所 月～金曜日 原則15:00～17:00:8か所 ※夏休みは午前 月曜日 15:00～17:00:1か所	7月	無	
					5月	1か所	小学校:6か所	月曜日(月1回程度):3か所 金曜日(月2回程度):1か所 土曜日(月1回程度):1か所 試験実施:1か所	月曜日 15:00～17:00:1か所 月曜日 15:00～17:00:2か所(冬季 15:00～16:30) 金曜日 15:00～16:30:2か所 金曜日 15:00～17:00:1か所(冬季 15:00～16:30)	未設置	無	
	8	日高市	6	高萩北小、高麗小、高根小、 高萩小、武蔵台小、高麗川小	5月	4か所	小学校:6か所	月曜日(月1回程度):3か所 金曜日(月2回程度):1か所 土曜日(月1回程度):1か所 試験実施:1か所	月曜日 15:00～17:00:1か所 月曜日 15:00～17:00:2か所(冬季 15:00～16:30) 金曜日 15:00～16:30:2か所 金曜日 15:00～17:00:1か所(冬季 15:00～16:30)	未設置	無	
					6月	1か所						
9	ふじみ野市	13	西原小、東台小、さぎの森小、 駒西小、三角小、東原小、 元福小、西小、大井小、 龍久保小、福岡小、上野台小 鶴ヶ丘小	5月	11か所	小学校:13か所	月曜日(毎週):7か所 火曜日(毎週):1か所 水曜日(毎週):1か所 木曜日(毎週):2か所 金曜日(毎週):2か所	15:00～17:00(冬季16:30まで):1か所	10月	無		
				5月	5か所	東入間青年会議所 うれし野市民会館 フクトピア 上福岡公民館 西公民館	土曜日:5か所	9:00～12:00	未設置	無		
10	毛呂山町	2	毛呂山小、川角小、光山小 泉野小	4月	2か所	公民館:1か所 図書館:1か所	土曜日(月3回程度):1か所 木曜日(月3回程度):1か所	土曜日 10:00～15:00:1か所 木曜日 15:00～17:30:1か所	5月	無		
				5月	1か所	嵐山町ふれあい交 流センター:1か所	月曜日(月3回程度、1.2月を除く)、土・日曜日及 び長期休業日(不定期):1か所	月曜日(16:00～17:00)、土・日曜日及び長期休業日 (午前又は午後):1か所	未設置	無		
11	川島町	6	中山小、伊草小、三保谷小、 出丸小、八ツ保小、小見野小	5月	3か所	公民館:6か所	土・日曜日・祝日(月1回程度):6か所	9:00～12:00:4か所 13:00～16:00:2か所	5月	無		
				6月	3か所							
12	吉見町	2	南小、北小	5月	2か所	公民館:2か所	月・金曜日(毎週):2か所	放課後～17:00:2か所	8月・2 月	無		
				4月	1か所	小学校:1か所 体育センター:1か所	月～金曜日(毎週):1か所 土曜日(毎週):1か所	平日 放課後～17:00(冬季～16:30):1か所 土曜日 13:30～16:00:1か所	3月	無		
13	ときがわ町	2	玉川小、萩ヶ丘小、明覚小	4月	1か所	公民館:1か所	土曜日(年15回程度):1か所	土曜日 11:00～12:30:1か所	未設置	無		
				5月	1か所							
14	越生町	1	越生小、梅園小	4月	1か所	その他(郷土資料 室):1か所	土・日曜日・祝日及び長期休業日(毎週):1か所	・4/1～9/30→13:00～17:00(1か所) ・10/1～3/31→13:00～16:30(1か所)	未設置	無		
				5月	1か所							
15	鳩山町	1	亀井小、今宿小、鳩山小	5月	1か所	中央公民館:1か所	主に土曜日(年6回):1か所	9:00～11:30:1か所	未設置	無		

第4「放課後子供教室
推進事業」とは

地区	NO	市町村	箇所数	対象小学校区	事業開始	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	学習調査の活用	
北部地区	1	熊谷市	29	熊谷東小、熊谷西小、石原小、成田小、大幡小、佐谷田小、大藤生小、玉井小、久下小、熊谷南小、中条小、吉岡小、別府小、三尻小、奈良小、別府小、三尻小、奈良小、宮宮小、桜木小、籠原小、新堀小、吉見小、市田小、長井小、桑小、妻沼小、男沼小、太田小、妻沼南小、江西南小、江南北小	4月 5月 6月 7月	7か所 10か所 6か所 6か所	小学校:29か所	月曜日、長期休業日:1か所 土・日、長期休業日:4か所 長期休業日:1か所 金・土・日曜日、長期休業日:1か所 木・日曜日、長期休業日:1か所 水・土・日曜日、長期休業日:1か所 火・木・土・日曜日、長期休業日:1か所 金・土曜日:1か所 土・日曜日:3か所 水・土曜日、長期休業日:1か所 月・土曜日、長期休業日:2か所 月・火、金、土、日曜日、長期休業日:1か所 土曜日・長期休業日:4か所 水・金曜日、長期休業日:1か所 月~日曜日、長期休業日:2か所 土曜日:4か所	月曜日(15:00~16:00)、長期休業日(13:30~15:30):1か所 土・日(8:00~11:00)、長期休業日(9:00~12:00):4か所 長期休業日(8:00~9:30、13:30~17:00):1か所 金(18:30~20:30)・土・日曜日・長期休業日(9:00~12:00):1か所 木(15:00~17:00)・日曜日・長期休業日(9:00~12:00):1か所 水(15:00~17:00)、土・日曜日・長期休業日(9:30~11:30):1か所 火・木(18:00~20:00)・土・日曜日、長期休業日(14:00~16:00):1か所 金(18:00~21:00)・土曜日(9:00~12:00):1か所 土・日曜日(9:00~12:00):3か所 水(16:00~18:00)・土曜日、長期休業日(9:00~12:00):1か所 月(15:00~17:00)、土曜日、長期休業日(9:00~12:00):2か所 月・火、金(14:00~16:00)、土、日曜日、長期休業日(9:00~12:00):1か所 土曜日・長期休業日(9:00~12:00):4か所 水・金曜日(14:00~16:00)、長期休業日(9:00~12:00):1か所 月~金曜日(15:00~17:00)日曜日、長期休業日(9:00~12:00):2か所 土曜日(9:00~12:00):4か所	4月	無
		熊谷市 (上里町の教育支援)	1	市内全小・中学校	4月	1か所	小・中学校	土曜日	9:00~12:00	5月	無
	2	秩父市	13	秩父第一小、花の木小、西小、南小、尾田藤小、原谷小、久都小、高篠小、大田小、影森小、吉田小、荒川東小、荒川西小	4月	13か所	小学校:13か所	月~土曜日及び長期休業日:13か所 (月~金曜日のみ実施)	平日 放課後~16:30、長期休業日 9:00~16:30:13か所	未設置	無
	3	深谷市 (上里町の教育支援)	19	明戸小、幡羅小、深谷小、桜ヶ丘小、大香小、藤沢小、深谷西小、常盤小、八基小、上柴西小、上柴東小、豊里小、岡部小、椋沢小、本郷小、岡部西小、川本北小、川本南小、花園小	5月	19か所	小学校:19か所	土曜日:19か所 各小学校で年30回程度実施	9:15~11:30:19か所	4月	無
	4	横瀬町	1	横瀬小	4月	1か所	小学校:1か所	月~金曜日(毎週)、長期休業日:1か所	月~金曜日 放課後~17:30、長期休業日(月~金曜日) 8:00~17:30:1か所	3月	無
	5	小鹿野町	4	小鹿野小、長若小、三田川小、高神小	5月 6月 8月	2か所 1か所 1か所	文化センター:1か所 小学校:3か所	夏季休業日(6日間)・土曜日(月1日):1か所 火曜日(毎週):2か所 金曜日(毎週):1か所	夏季休業日・土曜日 9:30~11:00:1か所 火曜日 14:45~15:30:2か所 金曜日 13:45~14:30:1か所	6月	無
6	上里町	5	上里東小、神保原小、賀美小、長幡小、七本木小	4月 5月 9月	1か所 3か所 1か所	小学校:3か所 公民館等:2か所	月・木曜日(年50回):1か所 火・金曜日(年50回):2か所 火~土曜日(年1回):1か所 不定期(年41回):1か所	月・木曜日 放課後~17:00:1か所 火・金曜日 放課後~17:00:2か所 火~土曜日 火曜日の放課後~土曜日の13:30:1か所 不定期:1か所	6月	無	
	上里町 (中学生学カ アップ教室)	1	上里中、上里北中	7月	1か所	公民館:1か所	月・木曜日(毎週):1か所	月・木曜日 17:00~19:00:1か所	7月	無	

第4「放課後子供教室
推進事業」とは

地区	NO	市町村	箇所数	対象小学校区	事業開始	主な活動場所	活動曜日	時間帯	運営委員会	学習調査の活用
東 部 地 区	1	行田市	3	北小、北河原小、西小	5月	3か所 小学校：3か所	月曜日（隔週）：1か所 木曜日（毎週）：2か所	15:00～16:40：3か所	5月	無
	2	春日部市	13	内牧小、幸松小、桜川小 宮川小、正善小、緑小 武里南小、藤塚小、宝珠花小 武里小、立野小、牛島小、八木 崎小	5月 6月 7月 10月	3か所 5か所 3か所 2か所 小学校：13か所	月曜日のみ 年3～15回：9か所 不定期（年2回～33回）：4か所	月曜日 放課後～17:00までの間：9か所 不定期 放課後～17:00までの間：4か所	7月 10月 12月	無
		春日部市 （土曜日の教育支援） （単独実施）	6	宮川小、緑小、武里南小、藤塚 小、武里小、牛島小、	5月 6月 7月 11月 2月	1か所 2か所 1か所 1か所 1か所 小学校：6か所	第2、第4土曜日：1か所 第2土曜日：1か所 不定期：4か所	9:00～15:00までの間：6か所	7月 10月 13月	無
	3	羽生市	5	羽生北小、岩瀬小、井泉小、 手子林小、羽生南小	5月	5か所 小学校：4か所 小学校と集会所 ：1か所	木曜日（月3回）：1か所 月（毎週）・土曜日（毎週）：1か所 月曜日（毎週）：3か所 ※会場等の都合により休み有り	木曜日 15:30～17:30：1か所 月曜日 放課後～17:00（5月～10月）、 放課後～16:00（11月～3月）、 不定期の講座実施時には17:00まで（5月～3 月） 土曜日 10:00～12:00：1か所 月曜日 15:00～17:00：3か所	7月	無
	4	越谷市	17	南越谷小、弥栄小、桜井南小、 越ヶ谷小、明正小、花田小、 北越谷小、大沢北小、 東越谷小、城ノ上小、 蒲生小、蒲生第二小、 荻島小、鷺後小、大間野小	5月 6月	15か所 2か所 小学校：12か所 地区センター、 公民館：3か所 公園：1か所 科学技術センター ：1か所	平日 週1日：5か所、月2日：6か所、 月3回：1か所 土曜日 月3回：1か所、月2回：2か所、 日曜日 月1回：1か所	平日 15:00～17:00：7か所 15:00～16:30：1か所 15:00～16:50：1か所 15:00～17:00（冬季は15:00～16:30）：3か所 土曜日 9:00～11:30：1か所 13:00～15:30：1か所 13:30～16:00：1か所 13:00～15:00：1か所 日曜日 10:00～15:00：1か所	5月	無
	5	久喜市	23	久喜小、太田小、江面第一小、 江面第二小、清久小、本町小、 青葉小、青毛小、久喜東小、 久喜北小、菅沼小、小林小、 三箇小、栢間小、栗橋南小、 栗橋小、鷺宮小、桜田小、 東鷺宮小 菖蒲東小、砂原小、上内小 栗橋西小	5月 6月 7月	3か所 19か所 1か所 小学校：23か所	月曜日（月2～3回）・土曜日（月1～2回）：1か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（月1～2回）：2か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（月2～3回）：1か所 月曜日（月2～3回）・土曜日（年5回）：2か所 月曜日（月2～3回）・土曜日（年2回）：1か所 月曜日（月2～3回）・土曜日（年1回）：2か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（年6回）：1か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（年3回）：1か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（年2回）：2か所 月曜日（月1～2回）・土曜日（年1回）：1か所 月曜日（年9回）：1か所 月曜日（年6回）：1か所 月曜日（年4回）・火曜日（年6回）・土曜日（年2 回）：1か所 水曜日（月2～3回）・土曜日（年2回）：1か所 木曜日（月2～3回）・土曜日（月1～2回）：1か所 木曜日（月2～3回）・土曜日（年5回）：1か所 木曜日（月1～2回）・土曜日（年3回）：1か所 金曜日（月1～2回）・土曜日（年2回）：1か所 土曜日（年7回）：1か所	平日 15:00～16:30（冬季 15:00～16:15）と土曜日 9:30～11:30：2か所 平日 15:00～16:30（冬季 15:00～16:15）：2か所 土曜日 9:30～11:30：1か所	4月 5月 9月 10月 3月	無
	6	八潮市	9	八條小、潮止小、八幡小、 松之木小、中川小、 八條北小、大瀬小、大原小、 柳之宮小 （大曾根小 耐震工事のため実 施無し）	7月	9か所 小学校：9か所	土曜日（原則第1、第3）：9か所	9:00～12:00：9か所	5月	無
	7	三郷市	3	早稲田小、八木郷小、戸ヶ崎 小、彦成小、高州小、吹上小、 桜小、鷹野小、新和 small、幸房 小、立花小、彦糸小、前谷小、 高州東小、彦細小、丹後小、前 間小、瑞木小、後谷小	4月	3か所 2か所 市民センター ：1か所 地区文化センター ：2か所	火・木曜日（毎週）：1か所 月・水・金・土曜日（毎週）：1か所 土曜日（毎週）：1か所	平日 15:00～17:00（4月～9月） 15:00～16:30（10月～3月） 13:30～17:00（4月～9月） 土曜日 13:30～16:30（10月～3月）	7月 2月	無
		三郷市 （土曜日の教育支援）	2	早稲田小、八木郷小、戸ヶ崎小、彦成 小、高州小、吹上小、桜小、鷹野小、 新和 small、幸房小、立花小、彦糸小、前 谷小、高州東小、彦細小、丹後小、前 間小、瑞木小、後谷小 （中学校） 南中、北中、栄中、彦成中、彦系中、 新川中、早稲田中、瑞穂中	4月 （中） 10月	1か所 （中） 2か所 おもしろ遊学館 ：1か所 おもしろ遊学館 ：1か所 鷹野文化センター ：1か所	土曜日：年30回 日曜日：年33回 夏季休業中の火・水：3回 （中） 土曜日：1回 日曜日：5回 祝日：1回	土曜日：10:00～15:00の1時間 日曜日：10:00～15:00の1時間 夏季休業：10:00～15:00の1時間 （中） 9:30～11:40の2時間（10～11月） 9:00～12:30の3時間（12月）	未設置 （代替の 委員会は 毎月）	無
	8	蓮田市	4	黒浜南小、黒浜小、平野小、蓮 田北小	5月 7月 10月 1月	1か所 1か所 1か所 1か所 小学校：4か所	水曜日（年23回）：1か所 長期休業日（年6回）：1か所 水曜日（年13回）：1か所 不定期（年8回）：1か所	水曜日 14:30～15:35までの間：1か所 長期休業日 9:30～11:30：1か所 水曜日 放課後～17:30までの間：1か所 不定期 16:00～17:00：1か所	未設置	無
	9	幸手市	1	吉田小	4月	1か所 小学校：1か所	月・火・木曜日 （月曜日は月2回、火・木は原則毎週）：1か所	月・火・木曜日 15:30～16:30：1か所	未設置	無
	10	杉戸町	2	杉戸第三小、杉戸第二小	5月 6月	1か所 1か所 小学校：2か所	月・木曜日（原則毎週）：1か所 月・金曜日（原則毎週）：1か所	月・木曜日 15:00～17:00：1か所 月・金曜日 15:00～16:00：1か所	5月	無
11	吉川市	8	吉川小、旭小、三輪野江小 関小、北谷小、栄小 中曾根小、美南小	5月	8か所 小学校：8か所	毎土曜日（月1～2回程度）：8か所 ※学校によって不定期	9:00～12:00：8か所	5月	無	
12	加須市	3	①駒西小、田ヶ谷小 ②不動岡小	6月 7月 11月	1か所 1か所 1か所 ①小学校：2か所 ②小学校・公民館 ：1か所	①不定期（年2～3回）：2か所 ※学校の一斉下校の日に合わせて実施 ②月曜日（年7回）、土曜日（年9回）：1か所	①月曜日 15:00～16:30：2か所 ②月曜日 15:00～17:00、 土曜日 9:30～11:30：1か所	① 7月 11月 1月 2月 ② 6月	無	
合計		476	597校							

第4「放課後子供教室
推進事業」とは

3 事業推進の取組、指導者研修について

(1) 学校・家庭・地域連携推進委員会

ア 第1回学校・家庭・地域連携推進委員会

- 実施日 平成27年5月25日(月)
- 会場 知事公館
- 内容 「放課後子供教室」の推進について など

イ 第2回学校・家庭・地域連携推進委員会

- 実施日 平成28年2月3日(水)
- 会場 埼玉県県民健康センター
- 内容 ・「放課後子供教室」の成果と課題について
・来年度の推進体制及び年間計画について など

(2) 学校・家庭・地域連携担当者会議

ア 第1回学校・家庭・地域連携担当者会議

- 内容 事業内容の説明、全体協議、班別協議等
- 実施日等 南部 平成27年6月23日(火) 浦和合同庁舎
西部 // 6月10日(水) 東松山地方庁舎
北部 // 6月17日(水) 寄居町中央公民館
東部 // 6月 3日(水) 春日部地方庁舎

イ 第2回学校・家庭・地域連携担当者会議

- 内容 事業の推進状況、全体協議、班別協議等
- 実施日等 南部 平成28年1月15日(金) 浦和合同庁舎
西部 // 1月20日(水) ウェスタ川越
北部 // 1月26日(火) 寄居町中央公民館
東部 // 1月19日(火) 春日部合同庁舎

(3) 学校・家庭・地域連携実践発表会

- 内容 「放課後子供教室推進事業」の事例発表 など
- 実施日等 南部(北足立南部地区) 平成27年11月19日(木)
さいたま市民会館うらわ
南部(北足立北部地区) 平成27年11月12日(木)
クレアこうのす
西部 平成27年11月19日(木)
フレサよしみ
北部 平成27年11月17日(火)
江南総合文化会館ピピア
東部(北埼玉地区) 平成27年11月11日(水)
パストラルかぞ
東部(埼玉葛地区) 平成27年11月24日(火)
久喜市菖蒲文化会館アミーゴ

(4) 放課後子供教室指導者等研修会

ア コーディネーター研修

※ 「学校応援団・放課後子供教室合同研修」を1日、「個別研修」を1日受講

(ア) 学校応援団・放課後子供教室合同研修

- 実施日 平成27年8月11日(火)
- 会場 埼玉県民健康センター
- 参加者 63人
- 内容
 - ・講義Ⅰ「子供を支える地域の役割」 講師：青山 鉄兵 先生
 - ・講義Ⅱ「子供の安全管理」 講師：宮田美恵子 先生
 - ・グループワーク「コーディネーター情報交換会」

(イ) 個別研修(学校応援団)

- 実施日 平成27年9月11日(金)
- 会場 さいたま市民会館うらわ
- 参加者 36人
- 内容
 - ・講義Ⅰ「学校支援ボランティアの意義」 講師：生重 幸恵 先生
 - ・講義Ⅱ「学校応援コーディネーターの役割」 講師：興梠 寛 先生
 - ・事例発表(滑川町立福田小学校学校応援団)
 - ・グループ協議 講師：興梠 寛 先生

(ウ) 個別研修(放課後子供教室)

- 実施日 平成27年8月28日(金)
- 会場 さいたま市民会館うらわ
- 参加者 40人
- 内容
 - ・講義Ⅰ「放課後子供教室コーディネーターの役割」 講師：生重 幸恵 先生
 - ・事例発表(新座市子どもの放課後居場所づくり事業 東北ココフレンド)
 - ・講義Ⅱ「放課後子供教室におけるプログラム開発」 講師：矢生 秀仁 先生

イ 放課後子供教室等ステップアップ研修

- 実施日 平成27年9月 8日(火)
- 会場 さいたま市民会館うらわ
- 参加者 43人
- 内容
 - ・講義「放課後の在り方について」 講師：金藤ふゆ子 先生
 - ・グループ協議 講師：金藤ふゆ子 先生

第5「放課後子供教室推進事業」 の実践事例 (実施市町の取組)



奈良っ子ふれあいメイトの取組 (熊谷市)

1 事業内容

奈良っ子ふれあいメイトは、運営委員長を中心に、公民館、自治会連合会、健全育成会、おやじの会、子ども会、小学校、PTA等、子供に関わる様々な団体の代表者及び、多くの教育活動サポーターにより、子供たちを育む機会や場を多く設け活動している。

以下特色ある活動を紹介する。

(1) 合宿通学

異年齢集団で共同生活をしながら学校へ通学する合宿通学を5泊6日で実施している。運営委員や大学生が中心となってサポートし、炊事、洗濯、清掃等を行っている。お風呂は、妻沼ラドン温泉で御世話になっている。



夕食準備の様子

特別なプログラムを設定せずに、自主性を尊重した生活体験を繰り返すことで、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自ら考え工夫できるよう、自己決定の場を大切にしている。

(2) サマースクール

夏休みに特別な1日を設け、カレー作り、放水体験、水遊び、レク等を行っている。放水体験は、地元の消防団の協力により、子供たち全員が体験した。子供たちは、地域の安全を守る仕事のかっこよさを実感したり、みんなで協力して活動する楽しさを体験したりした。



放水体験の様子

(3) 農業体験教室「野菜作り」

5月の苗植えからスタートし、月1回のペースで除草等の世話をしている。今年度は、スイカ、メロン、カボチャ、ニガウリ、トマトの栽培を行った。この農業体験教室は、ビニールハウスの骨組みを利用した空中栽培が特徴である。子供たちは、農業体験を通して、生命の尊さや不思議を学び、収穫の喜びを体験している。



空中栽培の様子

(4) その他

毎月2回実施している折紙教室、凧作りや餅つきなどを行うウィンタースクール、学生サポーターが企画運営を行う文武両道など、地元の子供たちのために、安心安全の場を多く提供している。

2 事業の成果と今後の課題

- 運営委員会、コーディネーター会議等でのきめ細やかな準備により、充実した活動ができています。地域で子供たちを育てていこうという温かな雰囲気の中、子供たちは家庭ではできない体験をし、地域社会とのつながりを深めています。
- 子供たちから「家の人がいるいろいろやってくれていたことを知り、すごいと思った。」「来年も参加したい。」「とても楽しかった。」等の声が聞かれ、感謝の気持ちを抱くとともに、参加できることに喜びと満足感を得ています。
- 活動の更なる発展に向け、新たな指導者の育成が課題となる。

朝日東ホッと大夢の取組 (川口市)

1 事業内容

(1) 月1回のクラブ活動

朝日東ホッと大夢は、子ども育成会を中心に、地域の各種団体と協力しながら運営し、毎週月曜日に実施している。登録児童数は80名程度で、そのほとんどが低学年である。

高学年の参加率向上と、内容の充実を目指し、毎月初めの月曜日はクラブ活動を実施している。児童の希望によって、「ダンス」「絵画」「トントンギョギョ (工作)」「バドミントン」「陶芸」の5つから選び、原則として通年で参加することとした。

小学校に隣接する高校のダンス部の生徒や、近隣にある公民館の講座を行っている講師をクラブの指導者として迎えている。その他にも、公民館での活動団体が多数スタッフとして参加し、児童へきめ細かに支援している。



トントンギョギョクラブの様子



ダンスクラブの様子

(2) ブルドックソース社員による料理教室

市内にあるブルドックソース (株) 工場の社員を講師として招き、毎年夏休みには親子料理教室を実施している。

ソース会社ならではの知識や経験を生かしたお好み焼き、ソースを使った煮込み料理づくりは大変好評である。

料理を作る楽しみ、食べる楽しみを通じた食育のみならず、地元企業との連携・活用を図る上でも効果的な取組とすることができた。

2 事業の成果と今後の課題

クラブ活動は今年度より始めた企画であるが、低学年の児童が多いため不安な点もあったが、回数を重ねていく中で上達することができ、秋に開催した公民館文化祭においても作品を出品することもできた。保護者・児童ともに、学校では学べないような体験ができることに大変喜ばれている。

料理教室では、楽しみながら調理する体験を通して、家事の手伝いをあまりしない児童たちからも、家でも料理をしたいという声を聞くことができた。




今後は、高学年の児童も多く参加できるよう、クラブ活動やその他の活動について振り返りを行うとともに、内容について検討していくことが課題である。

北小わくわくクラブの取組 (行田市)

1 事業内容

(1) 行田市立北小学校の活動概要

本市では平成20年度の開設以来、段階的に1校ずつ開設を増やし、現在3校で本教室を実施している。8年目を迎える北小学校では、以下の通り活動を展開している。

開設校	行田市立北小学校 【名称：北小わくわくクラブ】	
活動日/回数	毎週木曜日 / 年間 28回 実施	
参加児童数	41名・2班制 (応募対象：1年～3年)	
主な活動内容	・ドッジボール・水でっぽう・けん玉づくり・ミニ運動会・的あてづくり ・スタンプラリー・郷土かるた・縄跳び・こま回し・紙ひこうきづくり 等	
活動の様子	 郷土かるた 10/8実施	例年、行田市で11月に開催される「彩の国21世紀郷土かるた大会」に合わせて、教室の活動計画にかるたを取り入れている。簡単な遊び方やルールの説明をしてから活動を行った。
特色	 手作り教材の的あて	7月に実施された水でっぽうで手作りの的あてをねらって遊ぶ様子。スタッフは少数だが、開設当時から変わらぬ温かい支援体制のもと、手作り教材などのきめ細かいご準備をいただき、毎回の活動を継続している。
活動実績の発信	 活動レシピ集：手作りけん玉	北小学校の手作り教材や活動例を「行田市放課後子ども活動レシピ集」において他校にも広め、活動実績を財産として3校で共有化することができた。

(2) 北学童保育室の新規開設にあたって

本市では、平成28年度に北小学校体育館2階の会議室を学童保育室としてリニューアルし、活用予定である。さらに、平成29年度には学童保育室との一体型運営のモデルプランとして事業がスタートする北小学校においては、今後もこれまでの実績や活動財産を継承しながら運営の見届けと事業の維持管理を一層推進していく。

2 事業の成果と今後の課題

活動が楽しいと答える児童の割合は90%以上で、参加児童からは、「たくさんの遊びが体験でき、毎回の活動を楽しみにしている」などの声が聞かれた。保護者からは、「3校だけでなく他の学校にも広めてもらいたい」との開設拡大を希望する声も聞かれた。

今後は、行田市放課後子ども総合プランに基づく着実な拡大と既存3校の運営の見届け、さらには、指導スタッフの継続的な確保、新たな発掘が大きな課題である。

西小ふれあい学校の取組 (秩父市)

1 事業内容

秩父市ふれあい学校は、放課後の余裕教室等を活用し、各小学校に配置している学校補助員が中心となって、宿題や読書などの学びや伝統的な遊び、地域社会の人々との様々な体験活動や交流を支援するものである。

活動時間

平日 (月曜日から金曜日) 放課後から午後4時30分まで

春季・夏季・冬季の学校休業日 午前9時から午後4時30分まで

(1) 多様なプログラムの実施

かるたや羽子板遊びなど、季節に応じた伝統的な遊びや、体を使った遊びなどを積極的に活動プログラムに取り入れることにより、様々な学年の児童の交流や多様な体験活動を支援している。



かるた大会

(2) 学童保育室との連携

西小ふれあい学校では、同一敷地内に設置されている西学童保育室の入室児童と校庭などで共通の遊びや活動を行っている。

ふれあい学校に通う児童と学童保育室に通う児童が時間をともに過ごすことにより、より豊かな放課後の活動を実現できている。



長縄跳び

2 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

学校施設の活用面では、普段使用することの少ない教室を利用するなど、施設の有効活用が図られている。児童にとっては、様々な学年同士で学習や遊びを行うことにより、望ましい人間関係を築く場となっている。また保護者にとっても、下校時における不安が軽減したという声が寄せられている。

(2) 今後の課題

秩父市ふれあい学校は活動時間が午後4時30分までとなっており、高学年の利用時間が短く、大きな目的である「異学年交流」が十分に図れない日がある。低学年、高学年が互いを思いやる気持ちを育むため、解決策を検討する。

また、ふれあい学校と学童保育室の共通プログラムの開催について、よりよい体験活動の場を提供できるよう、多様なプログラムを検討し、地域人材の確保などに努めなければならない。

(放課後子供教室)

ほうかごところの取組 (所沢市)

1 事業内容

(1) 日々の活動の様子

授業を終えた子供たちが、受付を済ませて、所定の位置に荷物を置いてから、各自が好きな場所(校庭、体育館、図書館など)で、好きな活動する。



受付の様子



体育館での活動

(2) 特色ある活動の紹介

年に数回、スタッフで企画を考え、学生や地域ボランティアの協力を得て、イベントを計画する「ほうかごところ」もある。

(例) 七夕、メッセージカード作り、バルーンアート、ドッジボール大会、たこ作りなど



地域の方とたこ作り

(3) 児童クラブと連携した活動

今年度より、新規1校が、放課後児童対策一体運営事業として、児童クラブと連携して取り組んでいる。4月からの開設で、それぞれの特色を生かして、運営に当たっている。また、従前からの学校とも視察や連絡会議等を行いながら、連携を図っている。



受付での子供とのやり取り

2 事業の成果と今後の課題

・事業の成果

子供たちは、異年齢の友達との遊びを通して、コミュニケーションのとり方を学び、自分たちで問題を解決できるようになっている。特に、高学年の子供が率先してリーダーシップを取り、縦割りの関係も良好となっている。

・児童クラブとの連携

一体型事業の学校以外にも、各学校で校庭での遊びや各種イベント等、相互に企画したイベントに参加するなど、連携しながら、主体的な取組を行っている。

・今後の課題

毎年2回、危機管理対応と児童理解についてのスタッフ研修を実施している。今後も実情に合う研修を継続し、さらに児童の健全育成の充実を図っていく。

放課後子ども教室の取組（東松山市）

1 事業内容

(1) 日頃の活動の様子

前半は宿題・プリントなどの学習活動を中心に取り組む。3年生が1・2年生に教えるなど思いやりの心が育っている。後半は、工作や体育館遊びなど体験的活動を行う。



七夕飾り

腹話術教室

(2) 地域と連携した活動

子供たちとスタッフでテーマを決め、かかし作りに取り組んだ。地域の市民活動センター主催の「かかし祭りコンテスト」に参加し、続けてスリーデーマーチや東松山市農業祭にも展示した。



出来上がったかかしを囲んで

2 事業の成果と今後の課題

毎年、地域のイベントに参加しており、スタッフ以外の地域の方々と交流が出来ている。教室の認知度も上がってきており、今年度は定員の倍以上の参加申し込みがあった。各教室ともスタッフの温かい指導により、子供たち一人一人の良さを尊重し、学校や地域の協力を得ながらそれぞれの教室で工夫を凝らしているため、子供たちは充実した時間を過ごすことができている。

保護者からも信頼と感謝の声をいただき、子供たちは楽しく元気に参加している。

今後の課題としては、より多くの人数に対応できるように、場所とスタッフの確保が必要であると考えます。

(放課後子供教室)

内牧小学校放課後子ども教室（わくわくクラブ）の取組（春日部市）

1 事業内容

内牧小学校では、平成20年度から放課後子ども教室（わくわくクラブ）を開催している。地域住民の参画を得て、子供たちとともにスポーツ・文化活動の交流をしており、講座型の教室を秋に開催している。



忍者修行

平成27年度は、ティーセレモニー（茶道）・忍者修行・わくわく科学教室・かすかべ郷土かるた・料理教室・羽子板絵付け体験・レクリエーション・はねつき大会など通常の学校生活や授業では体験できない講座が行われている。わくわくクラブでは、1日の放課後子ども教室の中で、複数の講座を開設し、児童により講座を選択できる時と、低・中・高学年に分けて、その学年にあった講座を企画し児童が参加しやすいように工夫したメニューとなっている。

その講座を支えているのが、地域の住民やPTAである。例えば、かすかべ郷土かるたでは審判、ティーセレモニー、わくわく科学教室、料理教室、羽子板絵付け体験などでは見守り、忍者教室やレクリエーションでは一緒に楽しみながらボランティアとして参加している。

また、わくわくクラブの特徴としては、近隣の大学生が講座を企画したり、ボランティアとして参加している。大学生が参加することにより、日常生活ではあまり子供たちが接することの少ない、お兄さんお姉さんたちと、放課後子ども教室を過ごしながら楽しんでいる様子が伺える。

2 事業の成果と今後の課題

安全面の配慮としては、下校時の子供のお迎えをお願いしている。参加申込み時に誰が迎えに来るか必ず申込書に記入することを義務づけている。

また、料理教室を開催する際には、アレルギーの有無の確認を必ず行っている。

課題としては、地域に根付いた活動としての定着を図っていくことが挙げられる。

今後も、この放課後子ども教室を広く周知するためのPRを引き続き行っていきたい。



ティーセレモニー

放課後子ども教室の取組 (狭山市)

1 事業内容

※ () 内は平成27年度実施予定回数

(1) 週末教室…土日祝日を中心に様々な体験ができる教室

□内容／お茶つき、茶道、陶芸、木工・クラフト、昔遊びなど

□教室名／ほりっこ(8)、台っ子ワンパクひろば(28)、げんキッズ(25)、チャレンジ・富(8)、チャレンジ・Tie(10)、はらっこ(7)



体験教室での様子

(2) 放課後教室…平日、学校終了後に開催している教室

□内容(放課後クラブ共通)／校庭や体育館を使って自由に活動。通常の教室開催以外に、保護者会支援や学校行事への参加、茶室のある学校においては、茶道体験を行っている。

□教室名／ひろせっこ放課後クラブ(14)、奥小放課後クラブ(9)、台小放課後クラブ(18)、新小放課後クラブ(12)、放課後みなみっ子(10)、いるまのっこ放課後教室(10)、みかりばっ子放課後教室(10)、放課後山王っ子(10)



放課後教室での様子

(3) 居場所づくり教室…放課後や週末に子供たちが自由に遊べるフリースペース

□教室名／みんなのおうちスペースTie(23)

(4) 広域事業…市内全小学校を対象に不定期開催する教室

□内容／各教室スタッフの代表者からなる実行委員会が企画し、体験や交流の場を作る。市内企業の協力による理科教室、市内工業高校文化祭への参加体験が行われた。



文化祭での様子

2 事業の成果と今後の課題

各教室とも参加児童及び保護者より好評を得ており、子供の居場所づくりとして成果を上げている。また、広域事業等を通じて各教室間の連携が強められた。一方で、機関紙を使つての広報や、全教室の活動を市役所エントランスに展示するなど、市民への周知活動も積極的に行つた。

課題としては、参加者の減少傾向が見られる教室があること、スタッフの高齢化に伴い新しい担い手を養成する必要があること、事業全体の運営体制の見直しなどが挙げられる。

(放課後子供教室)

岩瀬小学校放課後子ども教室の取組 (羽生市)

1 事業内容

(1) 通常の活動

活動日	時間	活動場所	活動内容
月曜日	午後3時～午後5時	岩瀬小学校 図工室 体育館	自主学習 運動、遊び等



図工室での集合写真

岩瀬小学校の1年生から6年生を対象に図工室での自主学習と体育館での運動遊びを中心とした活動を行っている。放課後子ども教室の登録者の中には、放課後児童クラブの参加者が一部含まれており、連携して活動している。

異学年、異年齢の交流の良い機会となっており、体育館では多くの子供たちが、時には一緒に、時には入り混じりながら、様々なスポーツや鬼ごっこなどの遊びを通じて、コミュニケーションを学んでいる。

(2) 特別教室

上記の「通常の活動」に加え、体験学習の機会として特別教室を随時開催している。

指導員によるレクリエーションのほか、地域人材を講師に招いた工作教室、地域住民の協力によるじゃがいも掘り体験、ALTを講師とした英語教室、読み聞かせ、夏季休業中には放課後児童クラブと合同でのレクリエーション大会「お楽しみ会」など、多様な体験学習の機会を設けている。



学校司書による読み聞かせ

(3) なんでも体験教室

月曜日の活動のほか、希望者は土曜日に開催している「なんでも体験教室」に参加することができる。宿題等の自主学習を行うほか、バンド楽器の練習も行う。

地域の福祉施設や道の駅等で子供たちによるバンド発表を行うなど、学校区に留まらない、幅広い体験の機会となっている。

2 事業の成果と今後の課題

上記のほか、地区短期大学や公民館との関わりがある等、この事業が中心となり地域のつながりを生み出している。

放課後児童クラブとの一体的な活動プログラムの更なる充実が今後の課題である。

小谷小学校の教室の取組 (鴻巣市)

1 事業内容

- (1) 活動日 週2日程度
- (2) 時間 授業終了後から概ね午後5時まで
- (3) 活動場所 余裕教室、体育館など
- (4) 参加費 原則として無料
(ただし、保険加入は実費、活動内容によっては材料費等の実費負担あり)
- (5) 内容 放課後子ども教室の実行委員会により活動内容を計画し、活動の実施は放課後児童クラブとの一体型
- (6) 主な活動 学習活動(学び、算数、英語、科学など)
スポーツ活動(ソフトバレーボールなど)、文化活動(折り紙など)
体験活動(土木、バルーンアート、マジックなど)



ソフトバレーボール

2 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

- ・様々な体験活動を取り入れるなど、放課後子ども教室の特色を生かした活動内容の工夫により、安心して、楽しく学び合える場となり、異年齢の交流や指導している地域の方々との交流の場となっている。
- ・参加している子供の保護者からは、放課後を安心して過ごさせられるという声が聞かれ、活動への期待が感じられる。
- ・指導しているの方々にとっては、新たな地域のつながりができたり、子供たちへ教えることが生きがいになったりしている。
- ・学校からは様々な面で協力を得ているほか、放課後児童クラブのスタッフにも週1日指導に参加してもらい、一体型として活動を実施している。

(2) 今後の課題

- ・活動の円滑な推進に大きな役割を担っているコーディネーターや活動協力者を地域で継続的に確保していくことが重要である。
- ・放課後子ども教室の運営方法や活動内容に工夫を加え、さらに充実させていく。
- ・子供たちが安全に活動できるように、安全対応マニュアルをもとにして活動協力者への安全面への配慮の周知徹底を図っていく。



バルーンアート



マジック

栄小学校放課後子ども教室 スマイルさかえの取組 (草加市)

1 事業内容

(1) 日頃の活動の様子 (毎週金曜日の開催)

平成26年1月から、草加市立栄小学校に新規に開設した教室である。

放課後ランドセルを背負ったまま教室へ直接参加し、視聴覚室、調理室、多目的ルーム、校庭を活動場所とし、室内では折り紙、トランプ、将棋、カプラ (積み木) 等で自由に遊んだり、宿題をしたりして過ごす。

校庭では、集団となってドッチボールやサッカーなどで活発に遊んでいる。

登録児童は203人、毎回130人程度の児童が教室に参加し、「金曜日がいちばん好き」との声も聞かれるほど、子供たちは楽しみにしている。

(2) 地域と連携した事業

町会をはじめ様々な地域の団体から、児童サポーターとして協力をいただいている。

教室は、コーディネーター (1人) と児童サポーター (12人程度) により、教室開催の準備、受付、児童の見守り、後片付け等の役割を分担し、運営される。

2 事業の成果と今後の課題

参加児童は、児童サポーターが見守る中、学年・性別・児童クラブの在籍を問わず、自由な活動でのびのびと過ごしている。

平成27年度当初、活動場所に対し登録申込み児童数が多かったため、2年生以上の児童とスタッフが教室に慣れた10月中旬以降に1年生の参加を可能とした。

希望する全ての児童の参加が理想だが、他の教室よりも児童の登録希望が多いため、次年度以降において、年度当初の登録児童と活動場所及び児童サポーターの配置等に慎重な対応が求められる。

こんな声もいただいています!



参加している地域の児童サポーター (ボランティアスタッフ) からは・・・

- ・学校の外で、子供たちが声を掛けてくれてうれしい
- ・大人同士も知り合いが増えて楽しい
- ・子供たちの成長と笑顔にパワーをもらって、少し若返ったかも (笑)

参加している子供たちからは・・・

- ・いつでも気軽に来られて、みんなと遊べるし、楽しい!
- ・地域の人や、いろいろな子と仲良くなれてうれしい!
- ・ずっと友達と遊んでいられるから、ここが一番好き!

保護者からは・・・

- ・学校から帰ると遊ぶ場所が少ないので、安心できる遊び場ができて良かったです。
- ・子供にとって、自分の居場所になっているようです。

放課後子ども教室の取組（蕨市）**1 事業内容**

学習活動、スポーツ・文化・体験活動など、多彩な内容で展開している。安全面では、学童室の指導員と連携して参加児童をサポートしている。また、参加児童は仲良く遊んだり、地域の方と交流をしたりするために、各実行委員会で決めた約束を守って活動している。

- 活動日：毎週月曜日
(祝祭日・学校行事等を除く)
- 時間：授業終了後から17時まで
(冬季は16時30分)
- 活動場所：各小学校の一時的余裕教室など
- 参加費：原則として無料



キンボール活動

- ※保険の加入は必須・実費、特定行事などは実費負担あり
- 主な活動：学習（宿題・読み聞かせ等）、スポーツ活動（キンボール・ドッジボール・サッカー・野球等）、文化活動（折り紙・押花・絵手紙・昔の遊び等）、体験活動やその他のイベント（茶道・絵手紙・写真教室・運動会・お誕生日会等）
- 特色ある活動：機まつり（七夕まつり）・かるた大会・料理教室・ハロウィンパーティー・クリスマス会・節分・避難訓練・交通安全教室等
- 協力団体：小学校・PTA・文化団体・高齢者クラブ・町会・保護司・コミュニティ委員・民生委員児童委員など。その他多くの地域や保護者の方に協力をいただいている。

2 事業の成果と今後の課題

近年は、参加者の保護者から協力を得られ、地域の方には知識・経験などを伝えていただくといったように、家庭・地域と連携して実施することで、地域コミュニティの形成に寄与している。

本事業を通して、次世代を担う子供たちの健全育成を支援することで、子供にとっては社会性や自主性を身に付け、人とのふれあいの大切さを感じる場となり、地域の方にとっても異世代交流の場となっている。その効果が浸透したこともあり、参加人数は飛躍的に増加し、活動場所やスタッフの確保に四苦八苦したもの、地域の方と保護者の協力があり、申し込みをした子供たち全員を受け入れることができた。今後も参加者の増加に対処すべく、各実行委員会はもとより、運営委員会や各小学校と話し合いを行いながら、子供たちにとって安全安心な居場所であり続けられるよう取り組んでいきたい。

課題としては、子供を取り巻く生活や家庭環境が個々に違うことから、スタッフとしてどのように対応すればよいのかを苦慮している。問題をそのままにしないために、スタッフ間で情報を共有し、子供の立場に立って対策方法を考えてはいるが、改善にはいたっていない、または困難なケースは校長先生や保護者との話し合いの機会を設けることも必要である。その他に、当事業は保護者などによるお迎えが必要なことから高学年の参加が少なくないと見られており、その課題を解消できるよう検討を行っている。

(放課後子供教室)

新曾北小学校放課後子ども教室の取組 (戸田市)

1 事業内容

(1) 日頃の活動の様子

当該小学校区の小学1～6年生が対象で、参加には登録が必要である。小学校の施設(余裕教室や校庭、体育館等)を活用している。時間は放課後から午後5時まで(夏季・冬季、学校の行事により変更する場合あり)行い、主な活動内容は体験活動(スポーツ・文化活動、地域の方との交流活動等)である。

(2) 特色ある活動の紹介

新曾北小学校放課後子ども教室は、平成22年度から始まり、平成27年度は1年生と2～6年生で学年を分けてそれぞれ月1回水曜日に行われており、コーディネーターを中心に毎月、様々な活動を行っている。

4月：開催なし	10月：5色百人一首
5月：バドミントン、将棋	11月：押し花教室
6月：ドッジボール、将棋	12月：段ボールレース
7月：日本舞踊講座 裂き布コースター作り	1月：昔遊び 2月：プラバン製作
8月：ヒップホップダンスレッスン	3月：ドッジボール
9月：ブレスレット作り	バドミントン、将棋など



7月 日本舞踊講座の様子

(3) 学校以外の地域団体と連携した活動

夏休みの開催時に特別講座として講師を招き、日本舞踊講座やヒップホップダンスレッスンを行った。また、11月の開催においては、地域で活動されている押し花サークルの方々と一緒に押し花教室を行った。

2 事業の成果と今後の課題

事業の成果として、11月にアンケートを実施したところ、楽しかった取組は1位ブレスレット作り、2位ドッジボール、3位バドミントンという結果になった。

保護者の声としては、

- ・毎回楽しく参加しているようです。今後も楽しい企画をお願いします。(1年生保護者)
- ・毎回工夫を凝らして内容を考えていただき、感謝しております。(2年生保護者)
- ・日数がもう少し増えるといいなと思いました。(3年生保護者)

という意見があった。

放課後子ども教室スタッフの中には、学校応援団に参加している方もいる。

学校の敷地内で放課後子ども教室だけでなく、学童保育室も運営しており、放課後子ども教室の追加登録希望者は、学童保育室開室日に一定の時間帯に登録時間を設け、受付している。放課後子ども教室参加後に学童保育室を利用することを可能としている。

今後の課題として、開催日程や場所の確保についての学校側との調整や緊急時の連絡体制、スタッフ人員の確保等が挙げられる。

放課後子ども教室の取組 (入間市)

1 事業内容

(1) 事業の目的

少子化、核家族化の進行、就労形態の多様化、家庭及び地域の子育て機能・教育力の低下等、子供を取り巻く環境の変化を踏まえ、入間市放課後子ども教室事業を実施することにより、次世代を担う子供たちの健全な育成を推進することを目的とする。

(2) 取組の経過

平成27年5月に入間市放課後子ども教室事業運営協議会を設置し協議を重ね、下記2校をモデルとして、10月から体験を中心とした「放課後子ども教室」を実施している。

(3) 実施内容

- ① 実施校 市内2小学校 (西武・高倉)
- ② 主な活動場所 公民館 (西武・高倉)
- ③ 実施日・時間 休業日・給食のない日を除く月曜日から金曜日までのうち、週2回程度 放課後の開始から午後5時まで

④ 活動内容

●文化体験活動

将棋・ボードゲーム遊び、リズム遊び、ペインティング「カレンダーづくり」、生け花教室、公民館文化祭の看板づくり等

●その他

廃材を使った表札・箸づくり、簡単料理教室、レクゲーム、手品とバルーン、昔あそび、クリスマスパーティ、紙ヒコーキづくり等を実施



紙ヒコーキ
づくり



手品とバルーン

子供たちが積極的に参加できるよう、楽しさを前面に押し出しながら、様々な体験を提供するプログラムを用意した。また、低学年から高学年まで参加できるため、異年齢交流ができるよう考え取り組んだ。

2 事業の成果と今後の課題

様々な人との関わりや多様なプログラムを通して、学校や家ではなかなかできない体験の機会を子供たちに提供することができた。

学校・家庭に加えて地域が一步踏み込んで子供たちの体験の場を提供することにより、3者の連携強化はもちろん、地域の大人の交流の機会にもなった。

今後もコーディネーターの養成とプログラムの充実に取り組んでいきたい。

なお、今年度はモデル的に公民館で実施したが、今後は小学校内での実施を検討しながら、市内各小学校に広げていきたい。

放課後子供教室の取組 (志木市)

1 事業内容

- ① 子供達に様々な経験を提供するための企画を実施
- ② 保護者層の参画を引き出すために、大人、親子向けプログラムの実施
- ③ シニア層の経験や力を反映するプログラムの実施
- ④ 活動・イベントによりチラシ・ポスター作成、毎月の通信発行など、さらなる周知を図るため広報活動を積極的に行っている
- ⑤ まちぐるみで「子供」たちを見守り、本事業を継続するために、地域の大人の力(経験・能力)を引き出すため、保護者及び大人をスタッフとして参画できるように促している

(1) くらりか実験教室(理科実験)

放課後子ども教室では、東京工業大学OBの方々のご協力をいただき、理科の実験をとおして、理科の楽しさを伝えることができた。

今回は、ふえ(ストロンボーンと紙ホイッスル)を作成し、空気の流れによる渦や振動によって笛の音が出る仕組みを体験した。



柳瀬川水族館の様子

(2) 柳瀬川水族館(水辺のお散歩)

放課後子ども教室志木りんくすの拠点である、志木第四小学校北校舎付近には、柳瀬川があり、身近なところに色々な生き物がいることを子供や地域の方々を知っていただくとともに、散歩をしながら観察をすることで身近な自然を再発見する体験をした。

(3) オりんくすピック(室内スポーツ体験)

毎年、定期的に地域のお年寄りから子供まで多世代がふれあうことのできる事業を実施しており、今回は室内カーリングやパターゴルフなどをみんなで体験することで、楽しみながら地域交流を図ることができた。

また、表彰式では、手作りのカップやトロフィーを贈呈することで、一層地域交流が図られた。



オりんくすピック表彰式の様子

2 事業の成果と今後の課題

放課後子供教室では、市民団体が運営を担っており、参加協力いただけるスタッフの確保が困難な現状であるが、拠点となる施設が多世代交流に特化した施設になり、様々な事業を地域住民とともに協力して実施している。また、地域の行事に積極的に参加するなど、学校を地域社会の拠点として位置付け、理解と定着が進んできている。

第四小学校放課後子供教室・わこうっこクラブの取組（和光市）

1 事業内容

(1) 放課後子供教室

地域子供教室からスタートし11年目になったプログラム型の子供教室で、市内全8小学校において各校月3回程度のペースで開催している。プログラムの例として、英語、硬筆、マジック、石けんアート、ビー玉迷路、ビーズ手芸、ドッジボール、ソフトバレーボール、バドミントン、ゴムボール野球、ヒップホップ、フラダンス等多彩な内容を揃えている。工作教室は、学年によっては、作成の所要時間に差が出来るが、早く出来上がった児童が未完成の児童に教えるなど児童同士の交流も図れている。またドッジボールは児童にとって身近なスポーツで人気があり、毎回白熱したゲームを楽しんでいる。講師は、文化団体連合会所属の方々やスポーツ推進員の方等、地域で活躍するの方々にご協力頂いている。放課後児童クラブからの参加児童も多いため、受入れ方法については実行委員会の中でも協議を行い、両者間での調整を図っている。



トイレットペーパーの芯で作る「へび」

(2) わこうっこクラブ

常設の子どもの居場所を求めるニーズに応えるため、今年度の新規事業として毎日開催型の「わこうっこクラブ」のモデル校として、従来型の放課後子供教室と並行して開催している。一定の時間までは宿題や自主学習に取り組み、その後は室内や校庭で自由に遊べる安心・安全な児童の居場所として提供している。特に決まったプログラムを企画してはいないが、低学年児童を中心にトランプやジェンガ、ブランコやボール遊びなど思い思いの活動をしている。地域の方や保護者等で構成するスタッフは、児童の入退室管理やケガ等のトラブル防止への対応にあたっている。また、市図書館から本を借り受けて定期的に入れ替えを行ったり、指編みや季節の製作等、持ち時間にとらわれずに楽しめる遊びを工夫して提案しながら、児童が楽しく過ごせる環境作りに配慮している。



校庭での自由遊びタイム

2 事業の成果と今後の課題

従来から継続しているプログラム型の放課後子供教室は、工作やスポーツなどの体験の機会として児童にも保護者にも好評を得ている。生涯学習指導者登録者や地域住民等に声掛けをしながら新しい指導者を発掘していくのが今後の課題となっている。

わこうっこクラブは定員を設けずに毎日開催しており、必要な日にいつでも参加できる児童の居場所として、同校全児童数の50%近くもの児童が登録し、利用している。

今後は、従来型の放課後子供教室とともにそれぞれの長所を活かしながら、児童の充実した放課後環境づくりを担っていきたい。

新座市子どもの放課後居場所づくり事業「ココフレンド」の取組(新座市)

1 事業内容

(1) 事業概要

子供たちが安全で安心して過ごせる居場所の提供を目的として、小学校施設を活用し、「子どもの放課後居場所づくり事業(愛称:ココフレンド)」を実施している。

「子どもの放課後居場所づくり事業」は、放課後の過ごし方の一つとして実施しており、子供たちの学習活動の機会を充実させるとともに、地域ボランティアを活用することにより、地域教育力の活性化を図ることも目的としている。

本事業の愛称「ココフレンド」は、「放課後この場所(ココ)に来ればたくさんの友達(フレンド)に会える」という意味を込めて名付けられた。

開室時間は、原則として、平日の給食がある日の放課後から午後5時まで(10月20日~1月末日は午後4時30分まで)と、夏休みなど長期休業日の午前8時30分から正午までである。

運営に当たっては、ココフレンドの中心となるコーディネーターのほか、地域の有償ボランティアのスタッフが、子供たちが安全に活動できるよう見守っている。

(2) 活動の様子



コーディネーターの話を聞く児童

全学年の授業が終わる時間までは、自習時間となっており、決められた教室で各自宿題をしたり、宿題が終わったら本を読んだりして静かに過ごしている。

自習時間が終わると、体育館、校庭などのその日決められた学校施設や、室内でトランプやボードゲームなどで遊べる時間であり、遊び場所は子供たちの自由に任せている。

時には、読み聞かせ教室や、警察による交通安全教室などの特別プログラムが組まれることもあり、子供たちが楽しく過ごせるようコーディネーターとスタッフが工夫をこらしている。

2 事業の成果と今後の課題

登録児童の保護者を対象としたアンケートを実施したところ、「友達と遊ぶ時間が増えた」「宿題をする習慣が身に付いた」「いざという時に子供の居場所があるというのは安心である」という事業に対する好意的な意見を多数いただいた。

一方、課題としては、人材の確保や学校・保護者に事業の正しい認識を持っていただくこと、災害等緊急時の保護者への連絡方法等が挙げられる。

今後も子供たちにとって安全・安心な居場所づくりのため、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していきたい。

桶川西小学校放課後子供教室の取組 (桶川市)

1 事業内容

(1) 活動の様子

平成27年9月に開室し、現在39名の児童が登録している。各曜日に定員を設け、計25名のスタッフで児童のサポートを行っている。1日の活動内容は、学習の時間とふれあいの時間の2部構成である。



学習の時間の様子

(2) ふれあいの時間

自主的な学習を行う「学習の時間」のあとは、協力員がそれぞれ趣味や特技を生かした「ふれあいの時間」となる。折り紙・木工工作・昔遊び・マジック・読み聞かせ・英語・ハンドベル・琴・三味線・ギター・フルート・歌踊り・健康体操・スポーツ吹矢・キッズテニス・バレーボールなどを行っている。



歌踊り (炭坑節)



マジック



スポーツ吹矢

(3) 放課後児童クラブとの連携事業

12月より児童クラブとの連携事業を始め、1回目はふれあいの時間に琴の演奏を行った。クラブからの参加者は4名で、初めはお互い緊張していたが、琴に触れる度に会話や笑顔が増えていった。今後も、月1回の開催を目指し、計画・検討している。



「さくらさくら」の練習

2 事業の成果と今後の課題

成果

- ・ふれあい活動を曜日で固定化しないことで、児童が飽きない取組ができています。
- ・桶川市の放課後子供教室は「あいあい広場」という愛称で親しまれており、「であい・ふれあい・まなびあい」、これらをあい言葉としている。さらに「あいあい広場5つのやくそく」があり、スタッフも児童も毎日復唱し、規律を保っている。
- ・児童が喜んで参加していることが、スタッフの大きな励みになっている。

今後の課題

- ・児童クラブとの連携では、お互いの日程調整をスムーズに行う方法の検討や、それぞれの役割分担を明確にする必要がある。定着するまでに話し合いを密に行っていくことが課題である。



【シンボルマーク】

久喜市放課後子ども教室(ゆうゆうプラザ)の取組(久喜市)

1 事業内容

(1) 事業の目的

子供たちに安全安心な活動拠点を確保し、健全育成に向けた活動拠点づくりを目指し、学校・保護者・地域が一つとなるコミュニティづくりを推進している。

(2) 特色ある活動の紹介「さくらっ子ゆうゆうプラザ」(久喜東小学校)の例

① 活動の概要 開校10周年を迎え、延べ2,546人が参加し、地域とともにある学校として、地域コミュニティづくりに貢献してきた。今年度も年間27回、41講座を計画。毎年新講座を誕生させ、興味関心を高めている。

② 10周年記念イベント『キッザニア in さくらっ子』の実施 11月21日(土)

文部科学省の「土曜日学習応援団」を活用し、企業や団体に協力していただき、日頃の活動では体験できない、以下のような出前事業を実施した。

a はじめの一步 [低学年対象 公益財団法人 日本数学検定協会]

「ボルトの一步はキミの何歩？」(スポーツ)

- ・スポーツの中の算数を体で感じてみよう。

b 障がい者スポーツ [低学年対象 公益財団法人 日本レクリエーション協会]

「だれでも楽しめるスポーツがあるよ」(福祉)

- ・パラリンピックの種目「ボッチャ」に挑戦しよう。

c 世界を旅する動物 [低学年対象 株式会社 阪急阪神エクスプレス]

「どうやってパンダは日本に来たの？」(物流)

- ・「外国の動物たちがどうやって動物園にやってきたのだろうか？」クイズ形式で動物たちと一緒に世界旅行に出かけよう。

d アイデアゲーム [中・高学年対象 NPO法人 アイデアツリーヒラメキ]

「やわらか頭。目指せ 発明家！」(発明)

- ・発明家セキバさんの開発したボードゲームで脳トレに挑戦。「こんな傘があったらいいな」をイメージしてみよう。

e 地震に強い家 [中・高学年対象 日本建設産業職員労働組合協議会]

「匠の技。一流建築家を目指せ！ストローハウスを作ろう」(建設)

- ・ストローとクリップだけで、倒れない強い建物を作ってみよう。

f 株式会社〇〇設立 [中・高学年対象 日本証券業協会]

「お菓子のヒット商品を広告せよ。チャレンジお菓子の株式会社」(金融)

- ・だれもが買いたくなるような、目立つ広告でカッコよくPRしよう。



匠の技。一流建築家を目指せ！

2 事業の成果と今後の課題

市内全23小学校で、多種多様な講座が開設され、約4割の子供たちが楽しく参加している。豊富な体験学習を通して子供たちの心を豊かにしたり、自信を持たせたりしている。今後も、指導者・サポーター等の人材確保と育成、子供主体の魅力的な講座の工夫、下校も含めより一層の安全管理についての方策を考えていく。

西小放課後子ども教室の取組（北本市）

1 事業内容

(1) 概要

本市では、小学校の地域活動室や余裕教室を活用し、「放課後子ども教室」を運営している。運営委員会（小学校長代表者、PTA会長代表者、地域コミュニティ委員会代表者、コーディネーター代表者、知識経験者、行政関係者で構成）で決定した学校給食のある月曜日から金曜日に実施し、子供たちの安全・安心な活動拠点となっている。西小放課後子ども教室は、平成19年度にモデル教室として市内で最初に開設され、最も規模が大きい。事業を円滑に実施するため、小学校区ごとに組織された実行委員会を学期に1回程度開催し、さらに子供の活動に対する共通理解を図るためにスタッフ全員が参加するスタッフ会議を適宜実施している。

(2) 活動の状況

学び・ふれあいの2人のコーディネーターが、活動プログラムの企画、学校・関係機関・地域団体等の連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置等を行い、日々の活動が円滑に進むよう計画している。学びの時間は、教育活動推進員や教育活動サポーター（安全担当）が宿題やプリント・ドリル等の学習に自主的に取り組む活動を支援している。ふれあいの時間では、教育活動サポーター（指導担当）がスポーツ活動や折紙、音楽、昔遊び、囲碁等を指導している。特に、6月中旬から9月末にかけて、地域の方々に教えてもらいながら、特産のトマトをモチーフにした「トマトねぷた」の製作に取り組んだ。出来上がったねぷたは、11月上旬に行われる北本まつり「宵まつり」に合わせて北本駅構内に飾られた。



地域の皆さんの紙芝居



トマトねぷたの作品

2 事業の成果と今後の課題

保護者からは「異学年の友だちや地域の皆さんと交流する機会ができありがたい」「様々な遊びを覚えてきている」「宿題やプリント類に取り組みしてもらい、学習への集中力がついた」「ゲームばかりしている子供が囲碁や郷土カルタの話をしてくれるようになった」等の意見が寄せられ、放課後子ども教室の活動が安全・安心な場所の提供とともに子供たちの生活を充実させる手助けになっていることがうかがえる。現在、教室を維持させる上でスタッフの確保が最も大きな課題であるが、今後は学童保育室との一体型の活動を推進していくことも重要な課題となる。

(放課後子供教室)

やしお子ども土曜ひろばの取組 (八潮市)

(1) 事業内容

やしお子ども土曜ひろばは、市内の小学校全10校で毎年7月から翌年2月までの間に年間3日～6日程度おおむね9:00～12:00の間に活動している。

内容は、学校によって様々だが、主なものでは野球、サッカー、ハンドボール、バスケットボール等の球技の他、バドミントン、ドッチビー、さいかつぼーる等のスポーツを実施している。その他にはメダルのもらえるチャレンジランキング、夏の暑い時には水遊びを開催している。校庭でテレビ番組のマネをして「逃走中」という鬼ごっこをしたり、学校のバザーのときにあわせて、PTAで工夫したゲームで遊ぶところもある。

また、おやじの会との共同開催としてスケールも大きく校舎の3階にある家庭科室から校庭まで雨どいをつなげて流す「スーパー流しそうめん」や、校庭でナイアガラ花火の見られる「夕涼み会」等もある。



八幡小ミニバス教室



中川小むかしあそび



柳之宮小逃走中

(2) 事業の成果と今後の課題 毎回の感想からその一部を紹介する。

【ミニバス教室】

今年も、たくさんの児童が参加してくれました。低学年の参加が多かったので講師の方もよろこんでいただけ良かったです。今日が良いきっかけになってミニバスを好きになってくれるといいなと思いました。ミニバスの高学年のみなさんが土曜ひろばにきてくれた児童にもやさしく声をかけてくれて教えてくれたりしていました。とても面倒見がよくて感心しました。元気いっぱい楽しく汗をかいていて見守る私たちも楽しく参加できました。

【水あそび】

除草作業からの流れもあり高学年から低学年までまんべんなく参加があり全身びしょびしょになりながら全参加者盛り上がり楽しめた土曜ひろばとなりました。今後も低学年から高学年まで楽しめる土曜ひろばが開催できたらと思います。

※ 今後の課題としては、実行委員（コーディネーター）の人選や、安全管理員の確保、参加人数の把握、またコーディネーターの謝金が近隣市町に比べて低額であること、新たなアイデアによる活動メニューの作成・実施等があげられる。

『水谷子ども広場』取組 (富士見市)

1 事業内容

『富士見市地域子ども教室』の一環として、子供の遊びと交流の場を地域の方や公民館利用サークルの協力で創ってこくこと、地域の教育力再生と放課後の子供の居場所づくりを進める場として開催している。

地元の小学校や町会、婦人会、子ども会育成会、放課後児童クラブ、青少年育成市民会議、公民館利用団体などの協力を得て、『土曜道場』と『ごろごろ』の二本立てで開催している。

- (1) 土曜道場〔毎月第4土曜日午前9時30分～午前11時30分(学校夏季休業等は休み)〕

公民館のサークル活動や軽スポーツを子供たちが体験できる内容で、地域住民のボランティア協力も得て、世代間交流の機会にもなっている。茶道、押し花、絵手紙、折り紙、昔あそび(ベーゴマ、けん玉など)、軽スポーツ(バドミントン、卓球など)などを自由に体験できる。



【土曜道場】『押し花』体験

11月の水谷文化祭では、模擬店出店や『ベーゴマ大会』を開催するなど、地域のイベントなどにも参加している。

- (2) ごろごろ〔毎月第2第4月曜日午後3時～夕焼け放送まで(学校休業時等は休み)〕

公民館児童室で、子供たちが気兼ねなく、ごろごろしながらくつろげる居場所としてスタート。不登校気味な子供たちの居場所を確保し迎えようという発想もあった。

近年は、多目的ホールで子供たちが思いっきり遊べる場として、ボールやバドミントン、ボードゲームなどを用意。走り回っている子もいれば、宿題をする子もいる。



【ごろごろ】夏休み企画『流しそうめん』

夏休みには『流しそうめん』を行い、好評を得ている。

2 事業の成果と今後の課題

「地域の大人が地域の子供を育てていこう」という気運がスタッフの中に力強くあり、うまく循環している。子供にも認知されており、『水谷こども広場』を楽しみにしているという子供の声も聞かれ、子供たちの様々な体験や世代間交流の場となっている。

一方で、サークルスタッフの高齢化や、運営スタッフも多忙で、じっくり取り組むことが難しくなっているなどの課題もある。

(放課後子供教室)

放課後子ども教室『わくわく砦みずぬま』の取組 (三郷市)

1 事業内容

(1) 放課後子ども教室『わくわく砦みずぬま』の概要

実施場所	実施時間
三郷市立瑞沼市民センター (旧三郷市立瑞沼小学校)	月・水・金曜日 15:00～17:00 (10月～3月は16:30まで) 土曜日 13:30～17:00 (10月～3月は16:30まで) ※長期休暇及び給食がない時期は平日でも土曜日の開室時間に準じる。 ※年末年始及びお盆は休室となる。

(2) 放課後子ども教室『わくわく砦みずぬま』の日常

『わくわく砦みずぬま』は専用の教室が1教室と他団体と共用で使用している教室の計2教室であり、専用の教室には月ごとに壁にその時期にあった飾り付けを行っている。1月にはお正月飾り、12月にはクリスマスといった具合でその時期の季節感を認識でき、参加者からも大変好評である。壁の飾り付けは専用教室をもつ『わくわく砦みずぬま』の特徴の一つである。

日常の活動としては、他学年及び他校の子供たちとも交流しながら、卓球、クラフト体験、自由遊び等を行っている。

(3) イベント

『わくわく砦みずぬま』は年に2、3回ほどイベントを行っており、今年度は6月、8月、12月に実施した。6月には体育館にて段ボールキャタピラ、はないちもんめなどを、8月には流しそうめんとスポーツチャンバラを、12月にはクリスマスイベントとしてパフェづくりなどを行った。

6月及び8月は保護者の同伴での参加も可能としたので、『わくわく砦みずぬま』の活動を知ってもらえるいい機会であった。



夏のイベント (流しそうめん)

2 事業の成果と今後の課題

平成27年度の参加登録者数においては103人と昨年度より30人強の大幅な増加となっている。この理由として、『わくわく砦みずぬま』は平成22年度より開室しており、今までの実績から口コミでの良い評判が保護者に伝わり、登録者の増加につながったと考えられる。また、内容が充実し、昨年度登録した子供たちが今年度も引き続き登録してくれるようになったことも登録者数の増加につながっている。

開催場所が学校外であることで、学年の枠を超えた交流に加え、他校の子供たちとの交流も生まれ、年下の子の面倒を見る、挨拶をするといった人との付き合い方を育むことができていると感じている。

今後も引き続きスタッフの充実に努め、地元の協力者などの協力を得て子供たちに様々な経験を提供できればと考えている。

平野小 ひらりんキッズの取組 (蓮田市)

1 事業内容

放課後や長期休業等に小学校の施設を使用し、子供たちの安全で安心な活動場所を設ける。また、子供たちと地域の方々が、勉強やスポーツ、体験学習、文化活動、その他交流活動を行うことによって、地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。

(1) 平野小学校放課後子供教室 (平成21年度より実施 ※25・26年度は休止)

平野小学校の主な活動

活 動 内 容	対 象	実施月	回数
ひらりんキッズ【体験学習】 (読み聞かせ、折り紙、手あそび、体育館あそび等)	2～6 年生	10～3月 実施予定	13回



読み聞かせ



折り紙

2 事業の成果と今後の課題

(1) 成果

地域の方やボランティアグループの方が教育活動サポーターとなり、その地域に合った活動をしている。子供は「教わる楽しみ」、大人は「教える楽しみ」を持ち、お互いふれあいながら学ぶことでより大切なものを会得している。

(2) 課題

学校側が積極的に運営に係わっていることから、子供たちの参加や地域の方々の応援等がとてもスムーズに行われている。このように学校を地域社会の拠点として位置付け、放課後子供教室の発展を促していくよう、より一層の活動支援を行っていく必要がある。

(放課後子供教室)

勝呂げんき教室の取組 (坂戸市)

1 事業内容

(1) 日頃の活動の様子

活動場所/勝呂小学校 (教室・体育館・校庭)

活動日/給食のある毎週水曜日

(午後3時から4時45分)

内容/宿題後自由遊び(サッカー、大縄跳び、木登り、鬼ごっこ、ゲートボール、バドミントン、ドッジボール、ボール遊び、ベーゴマ、けん玉、工作、折り紙、将棋、オセロ、貼り絵、かるた、勝呂の森で水遊び等)



教室で工作の様子

(2) 特色のある活動の紹介

普段は自由遊びで、宿題の後、教室、校庭、体育館に分かれ思い思いの活動を行うが、七夕や、ハロウィーン、クリスマス、節分、などの行事の際には、行事にちなんだ工作も行っている。

また、小学校の施設内にある「勝呂の森」では夏場、バッタやカブトムシなどを採ったり、池で水遊びをしたり、泥だらけになって遊んでいる。



七夕の飾り付けの様子

(3) 放課後児童クラブと連携した活動

たくさんの学童クラブの子供たちが、放課後子どもげんき教室に参加しており、教室終了後、スタッフが学童クラブの子供を集め、指導員に引き渡している。平成27年度より放課後児童クラブが小学校の中に整備された。

学童クラブとは連絡を密にし、問題等が生じた時には迅速な対応を心がけている。

2 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

普段遊ばない友達と遊べて楽しい、教室のある日が楽しみだという声が多い。子供たちにとって、他の学年や普段遊ばない友達、地域の大人と接することで、友達や遊びの幅が広がり、思いやりや人間関係を学ぶ良い場所となっている。

(2) 今後の課題

平成20年9月に教室が開始し7年が経過したが、市内の小学校13校の内、3校の実施に留まっている。余裕教室やサポーターの確保等課題が多いが、それらを踏まえて、未実施の学校の調査研究を行い計画的に整備していく必要がある。

また、現在実施の3校についても、今後における安定した活動を維持するためには、学校や他団体との連携の強化、スタッフの確保と育成等更なる努力が必要と思われる。

吉田小学校放課後子供教室の取組 (幸手市)

1 事業内容

(1) 吉田小学校放課後子供教室 (和太鼓教室)

【活動期間：4月～3月】

活動日：毎週火・木曜日の15時30分～16時30分

対象：小学2年生～6年生が体育館で活動

今年度、53名の児童が参加し、和太鼓の練習を行っている。

この和太鼓教室は普段の練習の成果を発表する機会が、学校や地域のイベントの中にあるのが特徴といえる。

今年度も、学校及び地域の方々の協力により、夏には地元のお寺で開催された夏祭りで発表を行い、秋には、吉田地区の地区民祭と合同で行う吉田小学校の運動会、また、地域の方々に普段の感謝の気持ちを伝えたり、学年別に発表を行ったりする「きらきら学習発表会」で発表を行い、普段の練習の成果を披露することが出来た。



練習の様子 (和太鼓教室)

(2) 吉田小学校放課後子供教室 (卓球教室)

【活動期間：4月～3月】

活動日：第1・2・3月曜日の15時～16時30分

対象：小学2年生～6年生が体育館で活動

今年度、16名の児童が参加し、地元地域の方が卓球の指導をしている。

異学年同士の児童たちが一緒に練習を行うことにより、異学年との交流を深めることが出来た。



練習の様子 (卓球教室)

2 事業の成果と今後の課題

和太鼓教室については、今年、参加している児童と保護者の方にアンケートを実施した。児童は、太鼓を叩くこと自体が楽しいとの意見が多くみられた。一方、保護者は、指導者が地域の方なので、安心して子供を放課後子供教室に参加させることが出来るといった意見が多く、指導者がとても信頼されているということが分かった。

また、普段なかなか体験することが出来ない和太鼓を学校で体験出来るといったことが良かったとの意見もみられた。

このように、和太鼓教室は、参加して良かったとの意見が多いので、今後も継続して実施していきたいと考えている。

また、卓球教室についても、平成20年度から開催しており、今年で8年目を迎える。児童にも定着しており、卓球教室についても継続して実施していきたいと考えている。

課題については、和太鼓教室、卓球教室共に、指導者が1名となっており、1名では負担が大きいため、今後、継続して実施していくには、他に指導できる方を探していくことが当面の課題といえる。

放課後のびのび算数教室の取組 (鶴ヶ島市)

1 事業内容

本市では、算数の基礎学力の定着を図り、子供たちに「わかる」「できた」喜びを味わわせ、算数好きな子供を育てながら学習意欲の向上も図ることを目的として、平成22年度から市内小学校の全8校で「放課後のびのび算数教室」を実施している。

開催状況は学校により変わるが、放課後の週3日間から5日間、2年生から6年生を対象に学年ごとまたは複数の学年を組み合わせそれぞれ5回から8回開催し、四則計算、百ます計算、授業進度プリント、ドリル等による学習の支援を行っている。また、夏季休業中にそれぞれ4日間から13日間開催し、年間を通じた学習指導環境の整備を図っている。

授業の進度に合わせたプリント学習をするために、担任と学力向上支援員との間で連絡ノートを活用している。また、年度当初には復習プリントを行い、それぞれの子供たちのつまづきのポイントを確認してから学習を始めている。



放課後のびのび算数教室 (新町小学校)

2 事業の成果と今後の課題

「放課後のびのび算数教室」は開始から6年が経過し、子供たちや保護者の理解と定着が進んでいる。

参加した子供たちからは、「ゆっくり丁寧に教えてもらって、苦手だった算数が好きになった」「また、参加したい」などの感想があった。

支援員からは、「子供たちの成長、喜ぶ姿を見ることが楽しみ」「生きがいを感じながら地域づくりに貢献できる」などの声が寄せられている。

課題としては、低学年の子供たちからの参加希望は多いが、高学年になるにつれて希望者が減っていく傾向にあり、子供たちが参加しやすい環境づくりを進めていくことが重要である。

また、より効果的な指導を行うために、算数の学力の伸びを計ることができるようなプリント作りを検討していきたいと考えている。

武蔵台小学校区放課後子ども教室の取組 (日高市)

1 事業内容

- (1) 公民館、学校応援団、自治会、地区体育協会、PTA、民生委員等の代表者及び保護者有志により実行委員会を組織し、6月から2月までの間、体育館を活動拠点に月1回のペースで実施している。

本格的に開設してから2年目となる本年度は、参加者は88名でその数は武蔵台小学校児童全体の約30%にあたる。

- (2) 9月と2月の2回は、子供からのリクエストに応えた企画とした。中でも9月には、事前アンケートの中でも最も希望の多かった運動系の要素を取り入れ、全員での「だるまさんが転んだ」を楽しんだ。通常のルールでは何十人で行う遊びではないので、“オニ”を班で担当するなど、ルールを少し工夫して実施、大変な盛り上がりを見せた。年配のスタッフにも懐かしい遊びなので、全員が童心に帰って楽しんでいった。



「だるまさんが転んだ」の様子

- (3) 12月には、会場を学校に隣接する公民館に移してクリスマス会を実施。

地元で活躍する公民館の人形劇サークルの協力を得て、幾つかの人形劇を鑑賞することができた。最初は騒がしかった子供たちも、劇が進むにつれて集中し、さらに後半では劇中の人形に声援を送るなど大盛況のうちに終了した。



人形劇に夢中になる子どもたち

2 事業の成果と今後の課題

【成果】

子供たちに好評なことはもとより、スタッフとして協力をいただいた地域の人たちからも、「子供たちに気軽に声かけができるようになった。」「地域の子供たちと親しく、身近に感じられるようになれた。」等、交流の場としても良い機会となっている。また、参加児童の保護者からは「家庭や学校の授業では体験できないことができる。」「新しい友だち(大人を含め)ができました。」「子供が教室の様子を家で楽しそうに話してくれ、親子の会話も増えた。」等の感想が聞かれた。

【課題】

今後、この事業を継続していくためには、地域の指導者(実行委員、コーディネーター等)や協力者(ボランティアスタッフ等)の確保が細縦横課題と考える。また、地域の善意で支えられているこの事業を進めるためには、コーディネーターをはじめとするスタッフに、過度の負担がかからないような運営方法や事業展開に配慮が求められる。

(放課後子供教室)

東台小学校放課後子ども教室の取組 (ふじみ野市)

1 事業内容

(1) 活動の概要

コーディネーターを中心に学習・交流・体験を取り入れ、各月毎に目標を設定した活動プログラムを実施している。また、地域性に富んだ活動も行っており、8名のスタッフで取り組んでいる。

【活動日】

毎年5月から3月まで実施。毎週給食のある月曜日に実施。

【時間】

5月～9月 15:00～17:00 (短縮授業等の場合は開始時間が早まる)

10月～3月 15:00～16:30 (短縮授業等の場合は開始時間が早まる)

【実施に当たっての工夫】

受付で最初と最後に名前を確認することで、どの子供が来ているか、また帰り際に当日参加している子供がいるか確認している。

下校の際には必ず保護者のお迎えを実施している。また、保護者が迎えに来られない場合には、友だちの保護者と一緒に帰るなど、安全面を確保している。

欠席の場合には、必ず保護者から連絡をしてもらい、生徒の参加を確認している。

(2) 特徴的な活動内容

月ごとに童謡を決め、時には英語を交えて二部合唱を実施している。

ほうかごだい紙芝居という地域の紙芝居を作成している。紙芝居作成の際には、まず昔話を子どもたちに聞かせてから、絵を描かせている。

(3) 他団体等との連携

森づくり集団「栞」を講師に迎え、自然や昆虫、植物についての学習や、どんぐりや椎の実を使った工作などを行い、普段学校では学ばないような学習・体験活動を行った。また、地域の方を講師に招き、毛糸を使った手編みマフラー作成を行うなど、日常ではあまり体験することのない活動を行った。



「栞」による自然学習

2 事業の成果と今後の課題

異年齢の子供たちが力を合わせ活動する様子が伺え、その活動を通して他人を思いやる心、協調性などが育まれている。また、地域の方が指導員となることで、「地域の子供は地域が育てる」といった気運が高まり、地域の絆が深まるなど、地域の教育力の向上にも繋がっている。また、活動が保護者にも認知されてきており、前年度より登録者数が増加するなど、好評を得ている。

今後の課題として、児童クラブとの連携をどう行っていくのかの検討が必要となっている。

放課後子ども教室の取組(毛呂山町)**1 事業内容**

「子ども教室」は、毛呂山町立東公民館を活用し、月3回程度、土曜日の午前10時から午後3時まで実施した。活動内容について、午前は、学校での勉強の予習・復習・宿題等の学習支援、また、教室の特色ある活動として百ます計算、こども川柳、月1回程度大学の留学生による英会話を行っている。午後は、図工（パステル画・スクラッチ画・静物画）、工作（セロハンステンドグラス・ペットボトル水族館・羽毛を使ったレントゲンめがね・ステンシルクリスマスカード・アイシングクッキー等）、陶芸（絵付けお皿製作）の体験学習を行い、教室の作品は公民館の常設展示場に展示し、多くの公民館利用者に見ていただいている。その他、関東電気保安協会の指導による電気教室や東京電気大学の学生による科学実験（過酸化水素の分解実験・しゃぼん玉実験表面張力・界面活性剤実験）を行った。また体育デーとして月1回ヒップホップダンス教室を行っており、東公民館事業の「ふれあい文化祭」のステージで発表している。ふれあい東公民館「昔のあそび」にも参加し、竹馬・竹細工・ベーゴマ・南京玉すだれ・折紙等を体験した。

子供たちにとって楽しい居場所になるような様々な活動を実施した。



スクラッチ画（工作）



陶芸作品



昔のあそび（竹馬）

2 事業の成果と今後の課題

毎年、コーディネーター等のスタッフの協力により、充実した活動内容で、毛呂山町の特色ある教室の運営を行っている。

保護者、子供のアンケート調査の結果から、教室の学習プログラムにより、学校や家ではできない様々な体験をすることで社会性・自主性・創造性が身に付いた。

他校や異学年の友だちとの交流を通してコミュニケーションが図られた。1年間参加し、落ち着いて活動ができるようになり成長した姿がうかがえた。

今後、「放課後子ども総合プラン」について、運営委員会を中心に、子ども課（学童保育所担当）と連携して、子ども教室と児童クラブの一体型、連携型について検討していく。

(放課後子供教室)

嵐山町放課後子ども教室「スイミー」の取組(嵐山町)

1 事業内容

(1) 実施校

町内3校(菅谷小・志賀小・七郷小) 合同での実施

教室名「嵐山町放課後子ども教室 スイミー」

(2) 実施日時

平日：月曜日 4時～5時

休日等：不定期(月1回程度・主に土曜日)

(3) 実施場所

平日：嵐山町ふれあい交流センター

休日等：町内・町外の各活動場所

(4) 活動内容

○平日の活動

(宿題、工作、オカリナ演奏会、クラフト教室、マジック教室、人形劇鑑賞会 等)

日頃の活動は1時間と短いため、コーディネーターや教育活動サポーターを中心に、宿題や工作・自由遊び等が中心である。ただし、始業式や終業式後の平日を利用して、講師を招いたマジック教室やクラフト教室等を開催し、大変好評である。

○土日等の活動

(川の博物館、群馬県立自然史博物館、さつまいもの苗植え、餅つき 等)

活動時間が長く確保できるため、行政バスを利用しての体験学習、町内老人クラブと連携したさつまいもの苗植えや餅つきなどを開催している。



クラフト教室



川の博物館

2 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

老人クラブなど地域の方々との関わりを通して、異世代・異年齢の交流ができた。子供同士で内容や役割を考えて進められるようになり、学校では体験できないことができて楽しいとの声がある。

(2) 今後の課題

町内の小学校3校を対象に募集しているが、児童数の減少、習い事などの兼ね合いによる参加者数減少の中で、新しい分野や協力者との活動を取り入れていくために、更なる広報活動が必要である。また、コーディネーターやサポーター等の人材確保が大きな課題となっている。

川島町地域子ども教室の取組 (川島町)

1 事業の目的

(1) 事業名

川島町地域子ども教室

(2) 目的

世代間交流を通して地域の教育力を高め、川島町の自然・文化・人の素晴らしさを新たな視点で再発見し、心豊かに、たくましく、自信を持って生きることのできる子供を育むことを目的としている。

2 運営委員会の設置

「川島町地域子ども教室実行委員会」を設置しており、コーディネーター職による運営会議を年間6回程度開催している。(事務局は教育委員会生涯学習課内に設置)

3 取組の経過

平成16年度から文部科学省が推進した「子どもの居場所づくり 地域子ども教室」を、町では18年度から川島町内6箇所の公民館を拠点として「川島町地域子ども教室」を運営してきた。

4 事業内容

(1) 地域子ども教室の事業内容

各学校区に〇〇っ子くらぶという名称でクラブが立ち上げられている。地域のボランティアが指導者となり年間12～13回程度の体験活動を行っているものである。

(2) 広報

町広報で写真を掲載して活動内容を周知している。年度末に地域子ども教室のチラシを町内全戸に配布しており、活動への参加・協力を呼びかけている。

(3) 特色のある活動

夏には畑で収穫した胡瓜やシソを使って川島町の郷土料理「すったて」を作り、冬には収穫した大豆や大根を使ってきなこ餅や辛味餅を作って食べるなど、地産地消をテーマとした活動を行っている。

5 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

各教室とも、有志で集まったボランティアスタッフの協力により、参加児童から好評を得て活動している。学校の協力もあり、平成27年度210名の児童で活動している。

また、「配慮児童名簿」(アレルギー、持病等のある児童をまとめた名簿)の配付や、「ボランティア養成研修会」を開催することで、安全面の徹底も図っている。

(2) 今後の課題

地域子ども教室事業の広報活動に力を入れていき、ボランティアスタッフの増加を目指していきたい。

(放課後子供教室)

南小放課後子ども教室の取組 (吉見町)

1 事業内容

(1) 概要

南小放課後子ども教室は、平成21年9月より開講しており、南公民館を会場に週2回(月・金曜日)放課後から午後5時まで開催している。平成27年度は児童26名が登録し、指導者は6名(各曜日3名)で構成されている。開催日は指導者が学校まで児童を迎えに行き、帰宅時は保護者に児童の迎えをお願いしている。教室が始まると児童は縦割りの班で行動し、軽スポーツ・文化活動や自主学習に取り組んでいる。

(2) レクリエーション・軽スポーツ・文化活動等

基本的にプログラムの前半は、「軽スポーツ」、「季節のおりがみ」、「室内ゲーム」、「かかしづくり」、「彩の国21世紀郷土かるた」などといったバラエティに富んだ、幅広い活動を行っており、異学年間や大人(指導者)との交流を図っている。

(3) 自主学習

プログラムの後半は自主学習の時間としており、児童は、学校から出された宿題などに取り組んでいる。同級生同士で答え合わせをしたり、上級生が下級生の面倒をみたりしながら、和気あいあいとした雰囲気の中で学習が進められ、宿題が終わると各自で読書をするなど自主的に学習を行っている。



指導者が引率して学校から会場へ



自主学習

2 事業の成果と今後の課題

今年度で事業開始から7年目となり、プログラムが充実したことや、「指導者研修会」を取り入れ、指導者が意見交換や指導方法を確認しあうことにより、より充実した指導体制が確立され、運営もスムーズに行えている。

また、開講式終了後に保護者会を開催し、事業の説明と協力依頼を行うことで、事業に対する理解と協力を得られている。

教室は縦割りの班単位で行うため、仲間意識がより明確化され、上級生の子が下級生の面倒をよく見ることで、教室が一体となって活動が進められる。

教室での活動を見守る児童が家庭でよく話題にしており、児童期に必要な親子のコミュニケーションにも役立っている。

課題として、教室のさらなる充実のため、より多くの指導者の確保があげられる。

萩ヶ丘いきいき教室の取組（ときがわ町）

1 事業内容

(1) 概要

平成16年4月から続く事業である。当初から放課後児童対策としての事業であり、主として放課後児童の安全を見守り、保護者の安心に寄与することを目的としている。

平成20年4月に萩ヶ丘小学校の校舎の一部を改修した学童保育所が開所されるまで、萩ヶ丘小学校区での子供の見守りを行う事業は本事業だけであった。

現在は、萩ヶ丘小学校の中で、放課後子供教室推進事業と放課後児童対策事業が併存している。それぞれの事業の差はあるが、学校敷地内にいれば同じ学校の子供であることを理念に、学校（校長）を中心に現場での共同が図られている。

(2) 日常の活動

日常の活動で、校庭での活動をする際には、萩ヶ丘いきいき教室と学童の子供たちは一緒に活動（遊ぶ）する。子供たちが活動する際に、教室や学童の区別がないよう配慮している。



(3) 萩いき野球

当事業の中で、平成25年度より「萩いき野球」のメニューを取り入れた。地域での野球スポーツ少年団が無くなってしまったこと、最近ではボールを投げられない子供がいることを懸念した保護者からの提案で始まった。参加者20名程度の中で、約半数の子供が男女関係なく参加している。



2 事業の成果と今後の課題

10年を超える期間、大きな事故がなく過ごせたことが最大の成果である。今後の課題は児童数の減少である。更に学童との共存のため、児童を分ける結果になっている。また、教育活動推進員の慢性的な人員不足が続くと考えている。

(放課後子供教室)

放課後子ども教室の取組 (横瀬町)

1 事業内容

(1) 日頃の活動の様子

- ① 課業日は、放課後になった学年から入室し、出席確認、学習(宿題含む)や読書、外遊び等を行う。給食のない日は弁当持参を持参する。
- ② 月末に保護者向けに便りを発行し、翌月の行事計画や児童の様子、お知らせ・お願いや写真等を記載し、保護者の理解・協力を得る。
- ③ 長期休業日の実施については、参加申し込みを取り直し、休業中の行事や持ち物約束ごと等を記載した便りの特別号を発行する。

(2) 特色ある行事

①月1回程度実施の行事

作って遊ぼう 講師の指導により、工作をして遊ぶ活動をしている。紙を切ったり折ったり、身近な材料を活用し、不思議なわっか、ロケット風船、うきうきボール、割り箸鉄砲、大きなしゃぼん玉、ジャイカ、ガラスでぺったんこなど、幅広い活動を実施している。また、折り紙教室も実施し、七夕飾り、ハロウィン、クリスマス飾りなど季節にあった作品づくり、また、花ゴマ、ぴよんぴよんカエル、むっくり三角など、遊べる作品作りを実施している。



うきうきボール

軽スポーツ ブーメラン、キンボール、なわとび、ドッジボール、かけっこゲーム等を体育館や校庭で行っている。

②その他のお楽しみ行事

放課後がたっぷり取れる2学期末に、おまんじゅう作りを実施する。地域の講師があんこを作ってきてくださり、家庭科室で教えていただく。7月から菊作り愛好会指導による「菊づくり」、9月には老人クラブ指導による「昔の遊び」も毎年の恒例行事となっている。また、夏休みには「絵本づくり」、「手話」、「点字かるた」、「エコバッグ」、「クッキング」など、地域ボランティアの方々にお世話になりながら豊かな体験活動を実施している。さらに、夏休み中は、中学生・高校生・大学生等のボランティアの協力も定着してきている。

2 事業の成果と今後の課題

- 入室後、学習時間を確保したことにより、学習習慣の定着が図られている。
- 学年を超えての活動をする中で、約束事の徹底や安全で楽しい遊びが展開できている。
- 「学校応援団」とボランティア名簿を共有し、積極的な人材活用が進んでいる。
- ボランティア協力していただいた地域の方からは、「子供たちと関わると元気をもらえてうれしい。」「毎年楽しみにしている。」などの感想があった。また、中学生や学生ボランティアからは、「子供たちをまとめるのは難しいけれど良い経験になった。」という感想があった。

△学校応援団との連携強化により、一層の安全面の確保や行事の充実を図っていきたい。

放課後子供教室の取組 (小鹿野町)

1 事業内容

小鹿野町では平成19年度から町内の4つの全小学校において放課後子供教室を開設している。以下、小鹿野町立小鹿野小学校の取組について紹介する。

(1) 夏休み学習会

夏季休業日中である8月に、小鹿野文化センターを会場に夏休み学習会を実施している。小学校1年生から6年生までの希望者を対象に実施した。参加児童は夏休みの宿題を中心にドリルや問題集などを持ち寄り熱心に学習に取り組んでいる。分からない問題があれば指導者から個別指導を受けることができ、参加した児童たちは充実した学習の時間を過ごすことができた。



夏休み学習会

(2) 土曜日お楽しみ会

小鹿野文化センターを会場として、体験活動を中心に指導者との交流も交えて月に1回実施している。(10月から2月まで計6回実施) 主な活動内容は、「かんたんクッキーづくり」「芋だんごづくり」「繭玉づくり」「こんにゃくづくり」「室内ゲーム」「学習会」などである。小学校1年生から6年生までの希望者を対象にして実施しているため、異年齢・異学年の交流が図られ、縦割り班での活動となるため高学年はリーダーとしてグループをまとめる経験もできた。



土曜日お楽しみ会

毎回、多くの児童が楽しみに参加しているため、応募者多数により抽選により参加者を決定する場合もあり児童たちにとっても好評である。

2 事業の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・高学年の児童は中・低学年のグループリーダーとして、活動を通して責任と役割を果たすことができた。
- ・地域の方の創意工夫に富んだ教育活動を毎回実施いただき、児童は楽しみながら夢中になって活動する中で経験を重ね、学校の授業に加えた知識や技能を身に付けることができた。

(2) 課題

- ・今後も継続して指導していただくことのできる指導者の確保が課題である。

(放課後子供教室)

のびっ子教室の取組 (上里町)

1 事業内容

子供たちが仲良く一緒にのびのびと過ごせる居場所づくりを目的とし、平日の放課後に小学校で体験活動や学習、様々な遊びを通して異年齢交流を図っている。

- (1) 実施校 : 町内3校 (上里東・賀美・七本木)
- (2) 活動期間 : 5月～7月, 9月～11月, 2月～3月
- (3) 活動日 : 上里東・七本木 火・金曜日、賀美小 月・木曜日
- (4) 時間 : 授業終了後から午後5時15分まで
- (5) 活動場所 : 図工室、図書室、生活科室、多目的室、体育館など
- (6) 募集人数 : 上里東 40名、賀美・七本木 20名 ※応募多数の場合は抽選
- (7) 参加費 : 2,300円 (保険料800円、教材費等1,500円)
- (8) 日頃の活動 : 宿題をする「学習タイム」と創作活動やスポーツ活動などをする「のびっ子タイム」に分けて、活動を行っている。
- (9) 特色ある活動 : スチロール工作、絵手紙づくり、七夕飾りづくり、水鉄砲づくり、いじめ防止教室、シャボン玉遊び、バルーンアート等



学習タイム (賀美)



のびっ子タイム スチロール工作 (上里東)



のびっ子タイム バルーンアート (七本木)

2 事業の成果と今後の課題

(1) 事業の成果

開設当初、子供たちは一人一人が個々の活動をしていたが、異年齢での交流活動や集団生活のルールを重視した指導から、集団生活に溶け込み、まわりの友達を気遣いながら活動していく様子が見られた。

子供たちからは「次ののびっ子が楽しみ」「やっと〇〇先生に会えて嬉しい」などの声が聞かれ、保護者からは「いろいろな体験をさせて頂き感謝しております。」「うちは実家も少し離れているので、こういった地域の方々と子供が関わりあえる時間が持てて有難いなあとと思います。」等の声をいただいている。

(2) 今後の課題

今後も子供たちの様々な体験活動を支援していくために、教育活動サポーターや実技指導のできるボランティアをより多く確保することや活動内容の充実等が課題にあげられる。また、現在指導者を養成する連続講座を年6回実施し、人材の養成・確保と資質の向上を図っている。

杉戸第三小学校の取組 (杉戸町)

1 事業内容

(1) わくわく教室

杉戸町の放課後子ども教室は、平成20年度に杉戸第三小学校で開設し、現在は2校で実施している。ここでは、子供たちの安心・安全な活動の場として、PTA役員や地域の方々の参画を得て、勉強や工作、スポーツ、地域住民との交流活動等を実施している。「子供も大人もわくわくする事を沢山やろう」という思いから、「わくわく教室」と愛称をつけた。

(2) 大根の種まき、大根パーティー

季節を感じることができるような教室を行いたいとの考えから、季節ごとに楽しめる教室となっている。今年度は、作物(大根)の種付けから収穫を行うまでのカリキュラムを実施する。作物を栽培する中で、その成長過程を観察し、収穫後は大根パーティーで料理をして食するといった一貫した体験ができるプログラムとなっている。他にも、ハロウィン、クリスマス等の行事を組み入れている。

(3) 放課後児童クラブとの連携

それぞれの授業を終えた後に集まってくる異年齢の子供たちが、宿題や学習課題を終えた後、その日の活動内容に入る。その中で放課後児童クラブに入所している子供たちが参加するため、教室への移動は校内のクラブから教育推進員、サポーター、ボランティアの方々が協力し、送り迎えを行っている。



大根の種まきの様子



ハロウィンお菓子作り

2 事業の成果と今後の課題

8年目を迎え、コーディネーター等を中心に地域の方々の協力で安定した活動が行われている。継続的に参加している子供も多く、子供同士や子供と大人とのつながりもより深められている。前年度と違うカリキュラムを取り入れる工夫により、充実した内容で実施されているため、子供たちは毎回の教室を楽しみにしている。

事業に携わっている地域の指導者や協力者の努力によることから、今後も事業の展開につながる指導者や地域の協力者の確保が必要である。

ウィークエンドサイエンスの取組 (熊谷市)

1 事業内容

本事業は、市内全ての小・中学生の親子を対象とした、体験活動を通して科学的なもの
の見方や考え方を育み、科学の楽しさを伝えるための事業である。年間20回を目安に、
主に土曜日の午前中に市内の小・中学校を会場として行っている。指導者は、熊谷市サイエ
ンスボランティアとして委嘱をした小・中学校の教員及び元教員等が中心である。

(1) 「ちょー寒い!!-196℃の世界を体験しよう!!」(富士見中学校にて)

液体窒素を使って、ボールや風船、キャベツ、バナナ、卵な
どを凍らせ、それらを手で粉々にしてみたり、高い位置から落
としてみたりしながら、物質の変化のおもしろさを体験した。
また、同じ物質でも、温度によって固体・液体・気体に変化す
るおもしろさや、体積が変化するおもしろさを実験を通して参
加者は実感した。さらに、液体窒素の活用方法や空気中の窒素
の割合のなどの説明により、参加者にとって窒素が身近なものとなった。



液体窒素を使った実験の様子

(2) 「にごった水を透明に?!〜水をきれいにする『ろ過』〜」(妻沼東中学校にて)

カゴとビー玉やビーズを使ってろ過についての説明をした後、
泥水やトマトジュース、味噌汁、牛乳など身近なものをろ紙を
使って、ろ過する実験を行った。牛乳がろ過できなかった理由
を考えたり、どうすればろ過できるようになるのかを考えたり
した。また、牛乳にレモン汁を入れて粒子を大きくし、ろ過す
る実験も行った。最後に、竹炭、活性炭等を使った手作りろ過
装置を作り、自宅でも実験を楽しめるようにした。



ろ過実験の様子

(3) 「進め! ポンポン船」(石原小学校にて)

金属を焼鈍^{しょうどん}処理することにより、硬さが低下し扱いや
すくなるという実験をした後、牛乳パックを利用したポ
ンポン船製作及びポンポン船をはしらせる実験を行った。

最後に、ポンポン船が進む原理を考えさせ、ロウソク
の炎の熱でアルミパイプの中の水が熱せられて、体積が
大きくなった水蒸気が後ろの水を押し出す力でポンポン船が動く仕組みを学んだ。



焼鈍実験の様子

2 事業の成果と今後の課題

- 親子体験型のため、子供だけでなく、保護者も科学的な体験や実験に興味をもつこ
とができ親子で楽しめた。また、手に入りやすい材料等を使うことで、「家でも実験してみ
よう。」という声や、「新たなものの見方ができるようになった。」との声があった。さら
に、「理科の学習が楽しみになった。」との感想もあり、リピーターが多い事業である。
- 多くの方に応募していただいているが、会場の都合上抽選となることが多々あった。
しかし、今後も応募人数を上回っても可能な限り受け入れ、多くの子供たちに科学の楽
しさを提供していきたい。

土曜日の教育支援の取組（所沢市）

1 事業内容

(1) 土曜日の活動の様子

保護者の要望により平成18年度より土曜日の活動を実施している。活動時間は、午前9時～12時（学校開放活動が使用していない時間）で体育館を主な活動場所としている。



体育館2階 荷物置場



遊び遊具貸出カード



上履き置き場

(2) 特色ある活動の紹介（長期休業中のプール活動）

長期活動中の活動実施に伴い、平成18年度より学校・PTA支部活動で使用しない日を利用して、プールでの活動を実施している。時間帯は、13時～15時で行っている。実施期間は、例年概ね10日程度である。プール実施に当たり、低学年（1・2年生）と中高学年（3年～6年）に分け、スタッフを増員して安全面の配慮をしている。また、秋草学園の高校生が、毎年10日間で延べ60名ほどのボランティアの協力を得られている。参加児童は、例年、低学年で50名ほど、中高学年で70名ほどである。



長期休業中のプール活動

2 事業の成果と今後の課題

・事業の成果

子供たちは、異年齢の友達との遊びを通して、コミュニケーションのとり方を学び、自分たちで問題を解決できるようになっている。特に、高学年の児童が率先してリーダーシップを取り、縦割りの関係も良好となっている。帰宅時間・約束した時間に対して年齢なりの意識が生まれている。また、所沢小学校「ほうかごところ」は、開設して10年以上の時が経っているため、卒業生の中・高校生がボランティアスタッフとして手伝いに来てくれることも少なくない。

・今後の課題

特別支援学級の子供の参加も徐々に多くなり、見守りのために新たな配慮等が必要であるため、今後も危機管理対応や児童理解についての研修会を開催していきたい、さらに児童の健全育成の充実を図っていく。

(土曜日の教育支援)

土曜日寺子屋の取組 (東松山市)

1 事業内容

土曜日寺子屋は、子供たちが基礎的な学力や基本的な学習習慣を身に付けることができるよう、小学校低学年を対象とした補習学習を土曜日に実施しているものである。

コーディネーター（元教員）が中心となり、地域の大学に通う多くの学生等がボランティアとして連携しながら、子供たちの自主的な学習を支援している。

平成 27 年度は、野本小学校 1・2 学年児童の希望者を対象とし、年間 12 回、土曜日の午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで、野本市民活動センターを会場として実施した。

・活動内容

子供たちは持参した家庭学習用のワークシート等により自主学習（国語・算数）を進め、ボランティアは丸付けや分からない部分の助言など、きめ細かい指導を行う。また、参加することが子供たちの楽しみとなるよう、毎回、最後の 10 分間を「お楽しみタイム」とし、学生ボランティアの創意工夫によるクイズ等を実施している。



学習時間



お楽しみタイム

2 事業の成果と今後の課題

子供たちや保護者からの評判は高く、過去に実施した対象校の一部では、ボランティアを活用した土曜日の補充的な学習サポートを学校主体で開始している。

また、ボランティアの多くは近隣する大学の学生であり、子供と関わる仕事に就きたいと考える学生にとって、子供と交流する良い経験となっている。一方、大学の試験に重なる時期などは学生ボランティアの参加者が少なくなる傾向があり、事前の調整に苦慮する場合があることから、学校応援団とも連携しながら、学生以外の地域ボランティアを本事業につなげていくことが今後の課題である。

〈保護者の感想〉

- ・学校が休みの日に子供が自主的に学習する機会を提供していただけることは、親の立場からすると大変助かる（家だとなかなか勉強しないので）。
- ・大学生のお兄さんやお姉さんと休み時間に遊ぶのをとても楽しいと話している。

〈ボランティアに参加した学生の感想〉

- ・自分の励ましによって、子供たちがとても頑張ってくれる姿を見て感激した。
- ・ボランティアを通じて、教員という仕事のやりがいを見出すことができた。

小学生学習支援事業「がんばル〜ム」の取組（深谷市）

1 事業内容

本事業は、子供たちの学習支援と居場所作りを目的とし、主に算数と国語を中心に個別学習の指導及び相談を行う。学習は、市販のワークを使用し、学習支援は一般公募による「ちいきの先生」が指導を行う。また、各学校独自の活動として、ハーフタイム（休憩時間）の自由遊びや運動、学期末におたのしみ会等を実施し、異世代・異年齢の交流を図っている。

(1) 実施校 市内全19小学校

明戸、幡羅、深谷、桜ヶ丘、大寄、藤沢、上柴東、深谷西、常盤、八基、上柴西、豊里、岡部、榛沢、本郷、岡部西、川本北、川本南、花園



学習の様子



学習の様子



ふっかちゃんとダンス教室

(2) 主な活動場所・実施回数・活動日及び時間

- ・各小学校の図書室・余裕教室 他
- ・各小学校概ね年間30回程度実施
- ・毎週土曜日の午前9:15～11:30（長期休暇、祝日を除く）

(3) 新たな取組

今後の「がんばル〜ム」の活性化に向け、勉強だけでなく、運動も取り入れる目的で、平成27年度から「ふっかちゃんとダンス教室」を18小学校で実施した。参加児童は、大好きなふっかちゃんと一緒にダンスすることができ、楽しんで体を動かし、とても好評だった。また、市スポーツ推進委員の指導による「軽スポーツ教室」、「走り方教室」を6校で行った。来年度は、このような取組を全19校で実施できるよう企画している。

2 事業の成果と今後の課題

完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な休日を過ごすための一つの選択肢として大変重要である。

「がんばル〜ム」を推進していく上で、「ちいきの先生」の確保と人材育成が重要な課題であると考えられる。ちいきの先生の登録者は地域間で希望者数に差があるため、ちいきの先生の少ない地域に周知を促し、充実させるとともに、ちいきの先生の指導力、子供との接し方、保護者との接し方等について研修を重ね、スキルアップしていくことが必要である。

(土曜日の教育支援)

学校土曜塾の取組（蕨市）

1 事業内容

- ◎土曜日の午前中に、小学校で開催する。
- ◎宿題やドリルなどを持参して、自主的に学習する。
- ◎地域の方や大学生が塾長・学習アドバイザー・安全管理員としてスタッフを務める。
- ◎わからないところは、学習アドバイザーの先生が教えてくれる。
- ◎ものづくりなどの体験学習がある。

(1) 活動日：隔週土曜日

(祝祭日・学校行事等を除く)

(2) 時間：午前9時30分から11時30分まで(45分間×2コマ)

(3) 会場：各小学校の一時的余裕教室(図書室・図工室)など

(4) 募集人数：30名/小学校区

※応募多数の場合は抽選。

(5) 参加費：原則として無料 ※保険の加入は必須・実費、体験教室は実費負担あり

(6) 協力者：小学校・PTA・元教員・放課後子ども教室スタッフ・学生ボランティアサークル・教職員をめざす地元大学生など。



土曜塾 活動風景

2 事業の成果と今後の課題

開講して3年を過ぎ、徐々にではあるが参加児童が増えてきている。アンケートの結果より、感謝と有意義な時間を過ごせている声が多いとともに、参加者のリピーター率が8～9割ということからも需要があることがうかがえる。また、この事業は土曜日を開講していることから、地元大学生からのサポートが得られており、参加児童にとってお兄さんお姉さんの存在で親しみがわき、学習に対して積極的に取り組む姿勢が見受けられる。一方、大学生にとっては、地域の方との交流が図れ、今後、地域活動を始めるきっかけになるといったような相乗効果が期待される。

課題としては、上記に記したとおりリピーター率は高いが、定員に満たない小学校区がほとんどである。(27年度は1校区のみ定員に達した。) 今後は、この事業がさらに浸透するためのPR方法と新規参加者の獲得に力を入れる必要がある。しかしながら、現代の子供は忙しく、休日ともなるとスポーツ少年団や習い事をしている場合がほとんどである。そこに学習習慣の定着・自主学習をサポートする当事業の必要性を説いていきたい。

<感想>

- ・ぼくは、いつも土曜日はひまをしていて、ゲームや漫画を見たりしていて、何もすることもなくて土曜塾に行ってよかった。また、つづきたい。(参加児童)
- ・土曜日や日曜日は、宿題をすませて終わりというのが多かったけれど、土曜塾を始めてから、家庭学習や自主勉強もとり組めるようになった。(参加児童)
- ・土曜塾で勉強する事で、月2回土曜日にも机に向かうのが定着してきた。自習が終わると好きな問題をプリントしてやらせていただけるのも楽しみにしている様だ。(保護者)

土曜の教育支援の取組（朝霞市）

1 事業内容

(1) 目的

放課後や週末等に小学校の特別教室等を活用して、子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりの推進を図るため、朝霞市放課後子ども教室推進事業として実施している。

(2) 講座内容の一例

「筆と墨で遊ぼう！」（朝霞第十小学校）

【延べ参加人数 140人 参加率 80.46%】※平成27年12月22日現在

書道に楽しみながら親んでもらえるよう、文字に限らず様々な物を描いたり、消しゴムで落款を作ったり、大きな半紙に体を使って書いたり、筆と墨の可能性を体感してもらっている。

最後は、グループに分かれて大きな作品を完成させる。



教室の様子



昨年度の作品展示

2 事業の成果と今後の課題

本事業については、徐々に開催校を増やし、また今年度からは新たに映画製作の講座を開催する等、参加する子供たちに受け入れやすいカリキュラムを取り入れてきた。市民にも定着しており参加者の保護者や子育てに関わる大人たちからも重要な「学習の場」、また子供たちの新たな「居場所」としての認識も高まっており、申込者数は定員を超えるものが多く、抽選で参加者を決定している。

課題としては、本市では現在土曜日の教育支援を放課後子ども教室として開催しているが、今後は平日の放課後の開催も視野に入れた事業展開を検討していきたい。

土曜日の教育支援の取組 (志木市)

1 事業内容

- ① 子供たちに様々な経験を提供するための企画を実施
- ② 保護者層の参画を引き出すために、大人、親子向けプログラムの実施
- ③ シニア層の経験や力を反映するプログラムの実施
- ④ 活動・イベントによりチラシ・ポスター作成、毎月の通信発行など、さらなる周知を図るため広報活動を積極的に行っている
- ⑤ まちぐるみで「子供」たちを見守り、本事業を継続するために、地域の大人の力(経験・能力)を引き出すため、保護者及び大人をスタッフとして参画できるように促している

(1) 早稲田大学との連携事業(早稲田大学競走部によるランニング教室)

小学1年生から4年生と小学5年生から中学生までの2グループに分けて行い、低学年は鬼ごっこなどのレク感覚を中心に、高学年はタイム計測をしながら走り方のコツを学んだ。

箱根駅伝やオリンピック出場選手を輩出する伝統と実績のある競技団体に指導していただくことで、普段できない貴重な体験ができた。



早稲田大学競走部によるランニング教室

(2) 親子キャッチボール教室(埼玉西武ライオンズ共催/宗岡中学校野球部協力)

小学生の体力や、投げる力が落ちていることから、ライオンズアカデミーと共催し、元プロ野球選手による親子参加形のキャッチボール教室を開き、ボールの取り方、握り方、投げ方などを楽しみながら体験することで子供たちが投げたり走ったりする楽しさを学んだ。



早稲田大学競走部によるランニング教室

(3) サマースクール(習字教室)

毎年、夏休みに開催をするサマースクールは、スタッフや参加者の保護者などの意見を取り入れながら内容を検討し、平成27年度は、夏休みに習字にチャレンジした。

子供たちは、思い思いの字を書き、「書」の美しさを学ぶことができた。

2 事業の成果と今後の課題

宗岡教室では、地域の行事に積極的に参加するなど、学校を地域社会の拠点として位置づけ、理解と定着が進んできている。しかしながら、余裕教室等が少なく、固定された拠点を確保出来ていないことから、備品の運搬や置き場の確保などが課題となっている。今後も引き続き拠点の確保や、運営の支援を行う。

新座っ子ばわーあっぷぐらぶの取組（新座市）

1 事業内容

(1) 事業概要

子供たちが安全で安心して過ごせる居場所の提供を目的として、小学校施設を活用し、「新座っ子ばわーあっぷぐらぶ」を実施している。

「新座っ子ばわーあっぷぐらぶ」は、完全学校週5日制が導入された平成14年度から事業を開始した。子供たちの休日の学習・スポーツ・体験活動の場として実施しており、子供たちの学習活動の機会を充実させるとともに、地域ボランティアを活用することにより、地域教育力の活性化を図ることも目的としている。

市内の全17市立小学校の特別教室及び体育館等を会場として、文化、学習、スポーツ等、様々なジャンルのクラブを各校に1～4クラブ、計38クラブを開設した。登録児童数は826名（平成27年12月現在）。活動期間は、平成27年6月から平成28年3月まで、原則として毎月第1・3土曜日の午前中を活動日とし、年間に10数回の活動が行われた。通常の活動のほかに、活動の成果を生かすため、発表会の開催や検定試験（漢検）の受験等を行ったクラブもあった。実施に当たっては、176名の学習アドバイザー、32名の安全管理員の方々に御協力をいただいた。

(2) 活動の様子

今年度から開設した「栄小学校書道くらぶ」では、指導者が一人一人のために作成したお手本をもとに、子供たちが楽しんで練習に励んでいる。

活動時間中は、指導者が丁寧に指導を行っている。



書道をする様子

2 事業の成果と今後の課題

「新座っ子ばわーあっぷぐらぶ」は事業開始から13年目を迎え、市内小学生の間では定着した感がある。

参加児童を対象としたアンケートでは、「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答した児童が9割を占めており、楽しかったと感じた主な理由は、「普段できない遊びや活動ができるから」であったことから、事業の目的に沿った一定の成果が得られていると捉えている。

各クラブの指導は、地域で活動されている方、ボランティアの方に御協力をいただいているため、引き続き指導者を確保していくこと、そして災害等緊急時の保護者への連絡方法等が課題として挙げられる。

今後も子供たちにとって安全・安心な居場所づくりのため、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していきたい。

土曜日の教育支援の取組（北本市）

1 事業内容

(1) 目的

- ・小学校において土曜日や長期休業日を活用した補習を実施し、児童の基礎学力向上を図るとともに、児童の家庭学習の習慣付けや生活リズムの確立を図る。
- ・中学校においては全国や県、市の学力・学習状況調査の分析結果を踏まえ、各学校の実態に応じたきめ細かな指導を行い、学力向上に努める。

(2) 内容等

年間20回程度を計画する。講師は、教員及び学校もしくは市で募集した補習支援員が当たり、国語・算数・数学・英語等の補習を実施する。

(3) 日頃の活動の様子（特色ある活動例）

- ・小学校で基礎・基本の充実を目的とした「じっくりコース」と学習の発展を目的とした「ぐんぐんコース」を設定し、一人一人の希望や実態に応じた指導をした。「じっくりコース」は、教科書で学習する单元ひとつひとつを題材に丁寧に復習し、「ぐんぐんコース」は、数学検定の問題、全国学力・学習状況調査問題を題材に指導をした。
- ・基礎的な計算力を養う目的で100マス計算（加減乗除）を時間を決めて取り組む。
- ・個に応じた復習プリントを選択し、一人一人の既習内容で不足している単元を補う。
- ・進路選択を控えた中学校3年生を対象に、入試の過去問題から数学・英語の基礎的な内容を復習した。
- ・各自が用意してきた教材（主に教科書や授業で使用している副教材）についての質問を受け、授業で理解しきれなかった内容を解決した。
- ・講師として大学生に依頼し、指導補助をしていただき、一人一人の疑問に答え理解を深めるためきめ細かな指導をした。

2 事業の成果と今後の課題

・児童生徒の感想から抜粋

「やさしく教えてもらったのでよかった」「計算問題ができるようになった」「小数がよくわかった」「土曜日に勉強を頑張ることができてよかった」「得意なところを伸ばして苦手なところを復習できてよかった」

・講師からの感想から抜粋

「復習プリントを活用してじっくり取り組むことができた」「大学生からアドバイスをもらい意欲的に取り組む姿が見られた」「少人数による個別指導のため学力向上が見られた」「算数に興味・関心をもてるようになり、やる気につながってきた」「友だちのがんばりに刺激を受け、集中力が持続した」「既習内容を再度復習することができた」「家庭学習の習慣づけや、生活リズムの確立にも役立った」

- ・各学校とも一人一人の習熟度に合った学習指導にじっくりと取り組む個別指導の機会となった。講師を学校の職員だけでなく、大学生や地域の方々の教育力を結集することにより、きめ細かな指導が可能となり、一人一人の疑問や理解不足の解決を図ることができた。今後は、更に児童生徒一人一人の理解度を把握し「学習に困っている子」や「学習のつまずきの解決」への取組を工夫していきたい。また、地域の教育力を積極的に活用し、学力向上につなげていきたい。



中学校土曜補習の様子

おもしろ遊学館講座の取組（三郷市）

1 事業内容

(1) おもしろ理科実験教室

「不思議を解いて科学を学ぼう」をテーマに、大学教授をはじめ小中学校の先生方や専門家を講師としてお招きし、小学生が体験的な学習を行っている。「風に向かって走るヨット」「発泡入浴剤ロケットを飛ばそう」「ホバークラフトを作ろう」「橋の不思議」など、22の講座を計画している。



橋の不思議

(2) 三郷学 ドリーム教室

「絵本や民話に触れて夢を広げよう」をテーマに、作家やお話ボランティアグループを講師としてお招きし、小学生に読み聞かせなどを行っている。「絵本の世界に入ってみよう」「昔話を工作しよう」「人形劇」など、24の講座を計画している。ドリーム教室は、「日本一の読書のまち三郷」にふさわしく、多くのボランティアグループが参加し、市民総ぐるみで子供たちに夢を与えてくれる講座である。



人形劇

(3) おもしろ算数教室

「算数活動の楽しさを味わおう」をテーマに、大学教授や埼玉大学附属小中学校の先生方などを講師としてお招きし、小学生が算数的活動を体験している。「楽しく図形を学ぼう」「一筆書きクイズ」「昔の算数」「コンパスで遊ぼう」など、13講座を計画している。算数教室は、授業の補習ではなく、算数の興味関心を高め、数学的な考え方を伸ばす目的で行っている講座である。

(4) おもしろ英会話教室

「国際人をめざして英語を話そう」をテーマに、中学校の英語教員とALTを講師としてお招きし、小学校1～2年生を対象に、日常の英会話を学習する。夏季休業中に3回、学年末休業中に2回の講座を計画している。

(5) 中3入試特訓講座

市内の小中学校の先生方を講師として、秋に4回、冬に2会場で3回ずつ、受験生を対象に補習を行っている。秋は、数学と英語の2教科で基礎的な学習を、冬は、国語、数学、英語、理科の4教科で入試問題に挑戦している。

2 事業の成果と今後の課題

『三角形は強い』というのがおもしろかったです。(橋の不思議)「えほんづくりがたのしかった。えほんのつくりかたをもっとしりたい。(絵本)」など、子供たちの感想から、この事業の目的である学習への興味関心を高めている様子が分かる。また、一人で50講座以上も参加するリピーターがいるなど、事業は成果を挙げている。

しかし、講座によっては、定員に達しないものがある。今後は、講座が新鮮さを失わないように、講座の内容や講師の選定など見直していく必要がある。

(土曜日の教育支援)

学力のびのび塾の取組 (坂戸市)

1 事業内容

- (1) 対象：小学4年生
- (2) 期間：平成27年6月～28年3月の原則として土曜日、全21回

会場	支援員数	児童数
三芳野公民館	3(5名登録)	13
中央公民館①	5	20
中央公民館②	5	18
入西地域交流センター①	4	20
入西地域交流センター②	4	19



学習の様子

(3) 学習内容、目的

小学4年生が、3年生までの国語・算数を中心に学習し、わかる喜びを感じ、基礎学力の定着と学習意欲の向上につなげる。また、学習支援員には地域の人材を活用し、支援員にとっても地域への貢献・教える喜びを感じ、活力ある地域づくりの一助とする。

- ①家庭等での自学自習の態度が身につく。
- ②学習の場をつくり、落ち着いた環境で学習できる。



学習の様子

2 事業の成果と今後の課題

(1) 保護者アンケート、参加児童、学習支援員の声

- ・算数が苦手だったが、最近は自分で調べて勉強するようになった。(保護者)
- ・今後、高学年の算数も難しくなるので、他の学年でも実施してほしい。(保護者)
- ・家庭では宿題で手一杯だったので、のびのび塾での復習でつまづきに気付いて良かった。(保護者)
- ・のびのびは優しいし、わかりやすい、勉強楽しい。(参加児童)
- ・学校では体験できない学習ができるところがこの事業の良いところ。(支援員)
- ・魅力ある教室づくり、学校・家庭以外の居心地の良い場所を心掛けている。(支援員)

(2) 今後の課題

児童一人一人に合ったきめ細やかな学習支援を行うとともに、現在市内3か所の会場を拡大するため、学習支援員の人材確保が課題である。事業や支援員募集を今まで以上に広く周知し、教員経験者や教員志望の学生等、多くの人材確保に努める必要がある。

また、公民館や地域交流センターを会場とすることから、地域人材である学習支援員も含め、地域ぐるみでの教育を推進できるよう今後も研究していきたい。

ふじみ野寺子屋事業の取組（ふじみ野市）

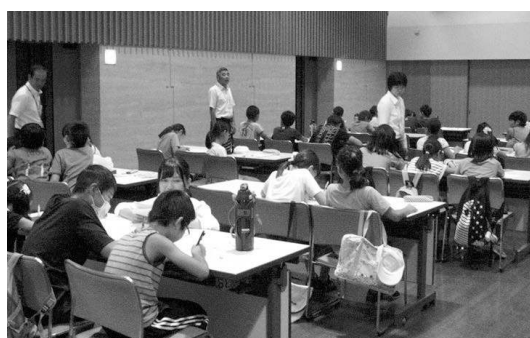
1 事業内容

(1) 事業の目的と特色ある活動

ふじみ野寺子屋事業は、市内の小学5・6年生及び中学3年生を対象として、夏休み及び9月以降の土曜日に充実した学習の機会を提供し、自学自習や基礎学力の向上等を図ることを目的としている。さらに、今年度の特色ある活動として、小学校5・6年生では、地域の人材との交流など通して、郷土ふじみ野市の歴史や文化などを知り、「ふるさと意識」の高揚を図ったり、中学校3年生では、国語、数学、英語の基礎学力向上とともに、生徒の進路相談等に応じるなどの取組を実施した。

(2) 事業の概要と地域に根ざした取組

平成24年度から2会場で、小学校5・6年生を対象として取組を開始した。期間は、夏休み10日間の実施であった。初年度の参加人数は40名で、翌年の平成25年度は80名に増加した。さらに、平成26年度は、4会場に増やし、105名の児童が参加した。そして、今年度は、中学3年生へ対象を広げ実施するとともに、



中学3年生は、夏休み10日間の他、9月から2月の毎月1回の土曜日を含め、年間16回を実施した。参加人数は、小学生118名、中学生25名の合計143名で、年々参加者が増えている状況である。

児童生徒の参加費用については、事故や怪我等に対する保険料のみで、その他、無料である。教材費等必要な経費は、市で予算化している。

地域に根ざした取組として、ふじみ野寺子屋事業の指導体制が挙げられる。各会場責任者として、元教職経験者である教室コーディネーターを各会場に1名ずつ配置し、全体の統括や安全管理を行った。また、地域の大学から教員を目指す大学生や地域から募集して採用した方を学習アドバイザーとして各会場に5名ずつ配置し、児童生徒の学習支援に当たった。中学3年生の指導に対しては、元教職経験者や中学校で指導している市費臨時的任用職員が、各教科の指導や進路相談を行った。

2 事業の成果と今後の課題

実施後の保護者や参加児童生徒を対象としたアンケート調査から、「規則正しく勉強の時間を持つことができ良かった。」、「スタッフの温かい声かけ等、とてもやる気が出た。」、「大学生等に教えてもらうのが新鮮で、とても楽しかった。」、「自分で目標を立て、それを達成し、楽しそうだった。来年も参加させたい。」などの良い意見をたくさん頂いたことから、児童生徒の学習意欲を含めた学力向上に効果があったと言える。今後の課題としては、増加する参加者に対する会場増設等の運営の改善や、より児童生徒に合った内容の精選に努めていくことが挙げられる。

(土曜日の教育支援)

かわせみ合唱団の取組（ときがわ町）

1 事業内容

(1) 概要

この教室は、平成25年1月から活動をはじめ、平成25年度から放課後子供教室推進事業に組み入れ、平成26年度から土曜日の教育支援として実施している。

平成24年当初に、町内小学校教諭が放課後の活動で「合唱をやりたい」という子供と保護者から相談をうけ、校長とも相談し、生涯学習課へ話しを持ってきたことからこの取組は始まった。町内小学校教諭がコーディネーター及び教育推進員を担当し、保護者がサポートする形で体制が整い、町内にある小学校3校全ての4年生から6年生を対象にし、都幾川公民館で実施している。

(2) 日常の活動

年12回程度、学校の授業や活動と調整して実施している。コーディネーター及び教育推進員の都合、土曜日だけの実施としている。

学校の枠を超えて、集まった子供たちは、合唱を楽しんで取り組んでいる。



(3) 成果発表

平成25年度の募集当初より、活動の成果発表の機会として、ときがわ町文化祭発表の部を目指して練習を重ねている。平成27年度は3回目となる出場を果たし、子供たちの意欲向上と、保護者を含めた来場者の楽しみとなっている。



2 事業の成果と今後の課題

ときがわ町としては、放課後子供教室推進事業で初めての文科系の事業である。子供たちの多様な志向への1つの成果である。

現在3年が経ち、毎年10人以上の参加があるが、児童数が減少している現在、今後の参加者の確保に向けた、かわせみ合唱団の認知度向上が課題と考えている。

中学生学力アップ教室の取組（北本市）

1 事業内容

(1) 目的

- ・中学生の学ぶ機会の確保を図り、学力の二極化を防ぐために、中学生の希望者に対して学習支援教室を開催する。
- ・学校以外での学習機会を求める中学生の「学びの意欲」を支援する。
- ・学校の授業だけでは理解度が不足する生徒を支え、全ての子供たちの学力を保障する。
- ・基礎的な内容の理解・定着を目指す。

(2) 内容等

- ・中学生全ての子供たちの「学びたい！わかってほしい！」という意欲をサポートするため、「市営ナイトスクール」を実施している。
- ・全学年を対象に、数学・英語について、それぞれの学年の既習事項を学習する。3年生の実施回数が多いが、1・2年生についても実施し、早期からの学習につまづきの解決を図っている。参加は希望制としている。
- ・会場は、参加しやすいように学校や公民館の両方を活用し、放課後や土曜日の夕方に実施している。
- ・講師は、市内の教員、教員OB、大学生、地域の方々（一般公募）で構成している。
- ・マンツーマンに近い形で、生徒が学習でつまづいているところについて学習支援を行なっている。
- ・教材は、市教委で準備している。

(3) 日頃の活動の様子

- ・土曜日の夕方に公民館を会場として行われるナイトスクールは、市内4校の中学校を2グループに分け2会場で開催している。学校を離れ、他校の生徒と同じ空間で日頃とは異なる環境の中、参加してきている生徒たちは、与えられた課題（既習内容を難易度に幅を持たせて提示）に対して自分自身の理解度に合わせて意欲的に取り組み、課題の解決を図っている。
- ・放課後の学校会場の場合は、公民館で行われる内容と同じであるが、教員の講師の割合が増える。生徒の実態を把握している教員が多い分、積極的に声をかけ充実した指導が出来ている。
- ・個別指導の形をとっているため、生徒から質問が出たり、手の止まっている生徒に講師が声をかけたりして、一人一人の理解度に合わせて課題解決を図っている。
- ・参加生徒を2グループに分け、前半数学ならば後半英語、前半英語ならば後半数学に取り組むようにしている。これにより、英語・数学それぞれの講師が個別指導しやすくしている。

2 事業の成果と今後の課題

・生徒の感想

「受験に向けて、忘れてしまった部分を復習したいと思って参加しています。通常の授業では聞きづらい過去の内容も個別で見られるので本当に助かります。」

「3年生の今、目の前の問題を解くためには過去に学んだどんな内容をどのように使えば解けるのか分かりませんでした。1年生で習った内容と2年生で習った内容をこのように使えば解けるよと教えていただき理解ができました。」

- ・参加生徒一人一人の理解度に合った個別指導をする機会となり、参加生徒の学習意欲に応えることができた。講師に職員や大学生、地域の方々の協力を得ることにより、よりきめ細かな指導が可能となった。参加生徒の疑問や課題解決を図ることができた。今後は、地域の教育力を積極的に活用し、更に多くの講師を確保して生徒一人一人の学習支援を充実させる取組を実施し、学力向上につなげていきたい。



ナイトスクールの様子

(中学生学力アップ教室)

中学生学力アップ教室の取組（上里町）

1 事業内容

(1) 目的

町内の中学生に対して、放課後の学習を支援する環境を整備することにより、学習に不安を感じている中学生の学力を保障し、希望する進路の実現を図る。

(2) 対象生徒（定員40名）

以下の①～③全てに該当するもの

①上里中学校、上里北中学校に在学する中学3年生

②学習塾に通っていない生徒

③意欲はあるが、学習に不安を感じている生徒

(3) 実施場所

上里町中央公民館

(4) 実施日

平成27年7月23日から平成28年2月29日の週2日間

(5) 実施内容

学校の宿題並びに学校での学習に係る予習及び復習を行う。実施教科は、国語・数学・英語とする。学習教材については、各生徒が持参する。

(6) 実施時間

17:00 集合

17:10～17:55 補充学習（1時間目）

17:55～18:05 休憩

18:05～18:50 補充学習（2時間目）

19:00 解散

(7) 指導者

教職経験者、教員を志望する大学生



集中して取り組む様子



個別指導の様子

2 事業の成果と今後の課題

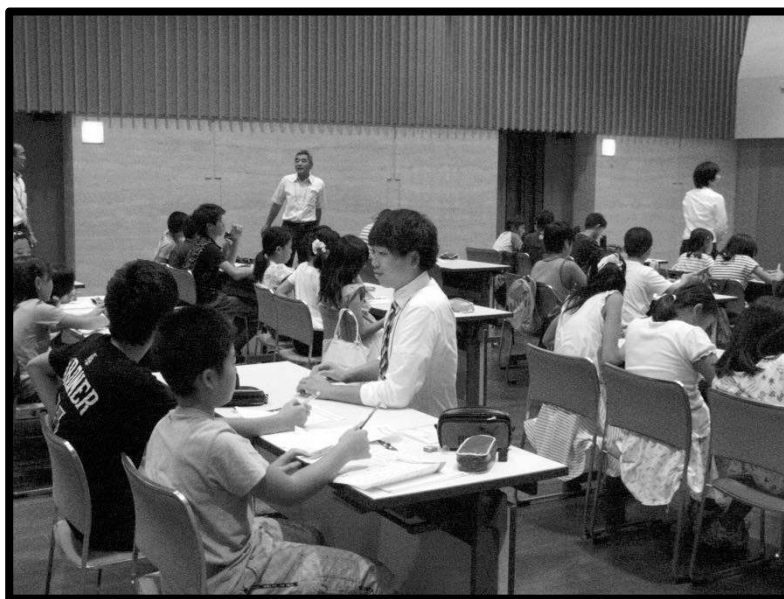
(1) 成果

- ・お互い教え合う姿が見られ、良い雰囲気での学習することができた。それに伴い積極的に質問する生徒が増えた。
- ・勉強が苦手な生徒に対して、個別の指導をすることができた。理解することで、自信を持たせることができた。
- ・学ぶ習慣を身に付けさせることができた。

(2) 課題

- ・指導方法について共通理解を行った。更に指導力を高める工夫が必要である。
- ・質問する生徒が増えると、騒がしくなる状況が生まれた。声の大きさなどを考えさせる必要があった。
- ・コーディネーターを含め指導者は7名であった。1回の実施に4名以上の指導者を確保したかったが、厳しい状況であった。

第6「放課後子供教室推進事業」 の成果と課題



「放課後子供教室推進事業」の成果と課題

1 成果

放課後子供教室推進事業の取組により、実施市町から以下のとおり成果が報告されている。

(1) 子供たちにとっての成果

- 様々な学年同士で学習や遊びを行うことにより、望ましい人間関係を築く場となっている。
- 豊富な体験学習を通して子供たちの心を豊かにしたり、自信を持たせたりしている。
- 地域の大人との交流や異学年の友達との交流を通して、協調性や社会性が育まれている。
- 人とのふれあいの時間の大切さを感じる場となった。
- 学校では体験できない雰囲気を楽しみながら、積極的にのびのびと活動しており、成長した姿が見受けられた。
- 地域とのつながりが深くなり、学校、地域で挨拶ができるようになった。

<子供たちの声>

「地域の人や、いろいろな子と仲良くなれてうれしい」

「たくさんの遊びが体験でき、毎回の活動が楽しみ」

「ゆっくり、丁寧に教えてもらい、苦手だった教科が好きになった」

「優しい先生にいつも励まされ、褒められ自信がついた」

(2) 保護者にとっての成果

- 地域の方々と触れあいながら活動できる場は、今はなかなか無いので、人間性・社会性を広げる良い機会になった。
- 保護者がスタッフに相談をしたり、学校外でも挨拶をしたりと地域でコミュニケーションが図られるようになった。

<保護者の声>

「子供が安心して放課後を過ごすことができる」

「学校から帰ると遊ぶ場所が少ないので、安心できる遊び場があって良かったです」

「毎回工夫を凝らした内容を考えていただき、感謝している」

「ゲームばかりしている子供が、囲碁や郷土カルタの話をしてくれるようになった」

「宿題をする習慣が身に付いた」

「子供が教室の様子を家で楽しそうに話してくれて、親子の会話も増えた」

(3) 指導者や地域にとっての成果

- 自分の経験が活かされ、やりがいを感じるとともに地域コミュニティづくりにつながっている。
- 様々な団体が関わることで大人同士の交流が生まれ、地域の教育力向上を図ることができた。
- 「地域の子供は地域が育てる」という意識が高まり、地域の絆が深まるなど教育力の向上につながった。

<指導者や地域の方の声>

- 「学校の外で子供たちが声を掛けてくれてうれしい」
- 「大人同士も知り合いが増えて楽しい」
- 「子供たちの成長と笑顔にパワーをもらっている」
- 「地域の子供たちと親しくなり、身近に感じられるようになった」
- 「生きがいを感じながら地域づくりに貢献できる」

放課後子供教室推進事業に参加された多くの地域の方々がやりがいを感じるとともに、地域の教育力向上につながっている。また、異年齢集団の活動により、子供に思いやりの気持ちや自主性が身に付いている。

2 課題

放課後子供教室推進事業の実施に当たり、実施市町から以下のとおり課題が報告されている。

- 新たな指導者の育成（コーディネーター等の人材の確保）
- 高学年の児童も多く参加できるような企画・運営
- 「学校応援団」や「放課後児童クラブ」との連携
- 開催日数や活動場所の確保
- 広報活動の充実
- 緊急時の連絡体制・下校時の安全管理

これらの課題に対応する取組として、まず、人材の確保・育成については、県主催による「コーディネーター研修」等を実施し、活動の中核を担う人材の育成・資質の向上を図る。

また、活動内容の充実等については、市町村の担当者会議や地区別実践発表会の開催、実践事例集の配布を通じた優れた活動事例の情報提供や、補助金の交付による財政支援などにより、市町村の取組を支援していく。

今後とも、子供たちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するため、市町村や関係部局と連携を図りながら放課後子供教室の推進に努めていく。

第7 地域人材を活用した 特色ある「学校応援団」 活動の推進のための 研究委嘱について



第7 地域人材を活用した特色ある学校
「学校応援団」活動の推進のための研究委嘱について

「地域人材を活用した特色ある『学校応援団』活動の推進」のための 研究委嘱について

平成24・25年度の2年間にわたる「『学校応援団』活動の活性化のための研究」により、組織体制の整備や活動内容の充実に向けた方策等について、一定の成果を得ることができた。このことを踏まえ、平成26年度からは、各学校における特色ある「学校応援団」活動を推進すべく、地域人材の活用に焦点をあてた研究を進めてきた。今年度は、草加市、小川町、美里町、小鹿野町、越谷市の5市町教育委員会に研究を委嘱した。

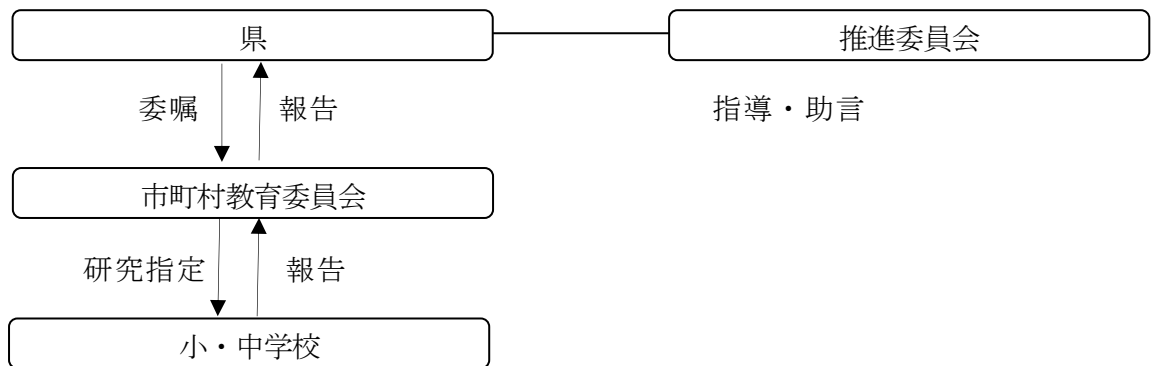
1 趣 旨

少子化、核家族化、都市化、情報化などの社会の急激な変化に伴い、子供を取り巻く環境が大きく変化している現在、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働きかけることによって、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進することが求められている。そこで、学校・家庭・地域が連携した取組を進める方策や運用上の課題などについて、実践を通して調査・研究するため、県内の市町村教育委員会に研究を委嘱する。

2 平成27年度研究テーマ

地域人材を活用した特色ある「学校応援団」活動の推進

3 事業の実施体制



4 研究内容

市町村教育委員会・学校は、「2 平成27年度研究テーマ」に基づいた独自の研究テーマを設定する。また、次の〈研究内容例〉【人材】【組織体制づくり】【連携】の中から研究内容を選定し、実践研究を進めることとする。

〈研究内容例〉

【人材】

- ◇ サポート登録制を活用した人材確保に関する実践研究
- ◇ 企業OBを活用した学習支援に関する実践研究
- ◇ 中学校区での人材の共有など地域ネットワークの活用に関する実践研究

第7 地域人材を活用した特色ある学校応援団活動の推進のための研究論(1)

【組織体制づくり】

- ◇ 小中連携による学校応援団の体制づくりに関する実践研究
- ◇ 教育活動に地域の方が参画する組織体制づくりに関する実践研究

【連携】

- ◇ 放課後子供教室との連携に関する実践研究

5 委嘱期間

本事業の委嘱期間は、委嘱を受けた日から平成28年2月末日までとする。

6 委嘱手続

- (1) 委嘱を受けようとする市町村教育委員会は、別添様式による事業計画書を県に提出するものとする。
- (2) 県は、(1)により提出された事業計画書の内容を検討し、本事業の趣旨を踏まえた適切な計画であると認めた場合、市町村教育委員会に対して研究を委嘱する。

7 報告等

委嘱を受けた市町村教育委員会・学校は、次のとおり研究内容等について報告・発表するものとする。

- (1) 学校・家庭・地域連携推進委員会（年2回）に委員として出席し、研究計画の報告（第1回）、研究結果報告（第2回）を行う。（市町村教育委員会代表者1名）
- (2) 研究指定校における研究の実践及び学校・家庭・地域連携実践発表会における発表内容等については、市町村教育委員会の指導助言により進める。

また、研究の推進にあたっては、市町村教育委員会及び研究指定校は、県教育局指導主事の訪問等を受けることができる。

- (3) 研究指定校は、研究内容に関して視察を受ける。
- (4) 学校・家庭・地域連携実践発表会で研究内容を発表する。
- (5) 年度末に発刊する実践事例集に掲載する「実践事例」をまとめ、提出する。
- (6) 「実績報告書」を県に提出する。（「実績報告書」は、(5)の「実践事例」の提出をもって替えることとする。）

第8 地域人材を活用した 特色ある「学校応援団」 活動の推進のための 研究実践事例



研究テーマ 家庭・地域とともに、子供たちを育てよう
～地域に根ざした「学校応援団」活動の推進～

1 研究のねらい

学校応援団活動は平成19年の開始より、学校が保護者・地域と一体となり、取組を進めてきた。しかし、活動を進めていく中で、学校応援団・学校応援コーディネーターの過度の負担や、活動の停滞等、取り組んでいく中での課題が明確に表れてきた。そこで、本校では、「できる人が、できる時に、できることを、できる範囲で」と「継続できる活動を！ 無理なく、しかし、大きな効果の出る活動を！」を2本柱とし、研究テーマに向けた学校応援団の再構築を行うこととした。

2 学校応援団の概要

(1) 組織構成

本校の学校応援団は、「安全見守り部」「学習支援部」「環境部」の3つの部から構成されている。学校応援コーディネーターと、学校側の教頭・教務主任を中心とした組織になっている。

(2) 活動内容

- 「安全見守り部」・・・登下校指導、校外学習引率、あいさつ運動等
- 「学習支援部」・・・家庭科、総合的な学習の時間、外国語活動（獨協大学生）、学校ファーム（5年米作り・3年枝豆作り）、読み聞かせ等
- 「環境部」・・・側溝清掃、樹木剪定、メダカの飼育、読み聞かせ等



3 研究の内容

(1) 学校応援団の周知・啓発に向けて

- ・本校PTA会員は自動的に応援団に登録

保護者が教育活動に関わりやすい雰囲気を作るため、また、学校応援団を身近なものとして感じていただくことをねらいとし、全保護者を登録することにした。

- ・「学校応援団だより」「学校ホームページ」での啓発

内容・募集依頼等を掲載し作成した。地域・保護者へ配布し、より多くの方への啓発を行った。保護者の中でも、専門的な支援ができる方々の募集も合わせて行った。配布したものは、ホームページに載せ、いつでも閲覧できるようになっている。

- ・「学校応援団会議」の実施

学校応援団活動をより多くの方に知ってもらえるよう、保護者・地域へも参加を呼びかけ、実施した。学校応援団の取組全体について伝えた。

(2) 学校応援コーディネーターの負担軽減に向けて

- ・花南メール（本校PTAで契約しているメール配信サービス）の活用
メールはIDがあれば、誰でも送信が可能であり、教頭・教務主任・学校応援コーディネーター、PTA会長とで分担して送信を行うようにした。また、事前にメールのフォーマットを作成しておき、少しの操作でメール送信ができるようにした。
- ・学校応援コーディネーターとの打合せ時間の工夫
朝のあいさつ運動後、読み聞かせの打合せ後を活用し打合せを行った。学校応援団活動全体についての打合せだけで集まることのないようにした。

(3) 学校応援団の積極的な活用に向けて

- ・儀礼の簡素化
あいさつは短く、すぐに授業へ入ることができるようにした。接待等は行わず、現地集合・現地解散を原則とした。
- ・活動内容の明確化
授業における学校応援団の活動内容（支援内容）は、教師の指導内容を繰り返すことを原則とし、事前打合せの削減・学校応援団の活動内容の明確化を図った。

(4) 学校応援団のために学校ができること

- ・「地域の方に感謝する会」の実施
感謝の意を表すため、3学期に実施している。給食（草加市から年間100食分の補助が出る。）、集会でのお礼状・歌のプレゼント等を中心としている。
- ・「朝会」への招待
音楽朝会を中心に、あいさつ運動後の学校応援団を朝会へ招待している。
- ・PTA行事・地域の行事への教員の参加
PTA主催のバザーや子供向けの行事、また、地域の運動会等に、積極的に教員が参加している。



4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

学校応援団活動が円滑に進み、「できる人が、できる時に、できることを、できる範囲で」「継続できる活動を！ 無理なく、しかし、大きな効果の出る活動を！」の2つを大きな柱のもと、地域に根ざした「学校応援団」活動の具現化が図れている。

(2) 学校応援コーディネーターさんから

コーディネーターの仕事は大変かと思っていたが、学校応援団の連絡体制等が整い、基本的な流れがしっかりとできているので、無理なく取り組んでいる。学校応援団の方々に無理なくと伝えているので、自分も無理なく、できる範囲で取り組んでいる。今では、慣れてきたこともあり、他の活動を考える余裕もできている。

(3) 課題

学校応援団について、さらに幅広い活動に取り組めるよう、人材の確保を継続して行う必要がある。学校応援団について、さらに理解をしていただけるよう、今後の啓発も欠かせない。

1 研究のねらい

教育活動に地域の皆様が参画する組織体制づくりを図る実践研究を4つの視点で展開した。①応援団の意見を取り入れる取組・②教育効果をあげるための取組・③達成感と感謝の気持ちを表す取組・④保護者・地域と連携した取組についてまとめる。

2 学校応援団の概要

(1) 学校応援団組織について

応援団員の多くが同校の卒業生であり、大変協力的である。安全支援・読書活動支援・学習支援・環境整備支援の4つの活動を中心に支援をいただいている。

(2) 年間活動内容について

総会をスタートに、上記4つの内容について支援をいただいている。本校応援団は、平成24年度の見直しをきっかけに活動の中心に「米作り」を据えた。この取組は、時期や支援の内容が明確であり、年間を通じた活動ができ、大変効果的であった。



3 研究内容

(1) 応援団の意見を取り入れる取組

① 多様な窓口の編成

応援団を組織化し、一覧の組織図にまとめた。学校窓口を教頭を位置付け、各学年と関係主任を担当職員とし、学校全体に係わる体制にした。

② 活動の明確化

活動予定表を参考に応援団との対応時期と担当を明確にしてきた。各学年必ず1回は応援団と活動する計画を立てて実施したことにより、応援団と職員の間が大変身近になった。活動後は担当職員と応援団員で情報交換を行っている。ある振り返りでは「児童から聞きに来てくれるのが良かった。」と意見があった。

(2) 教育効果をあげるための取組

① 教育活動への位置付けの明確化

時間・ねらいのない教育活動はない。ねらいをもたせ、教育効果を振り返ることは、校長の示す『聞いたことは忘れる・見たことは思い出す・体験したことは理解する。気付いたことは身に付く』にも基づいている。

② 育てたい資質の明確化

生活科で育てたい資質も参考に提示して教職員の共通理解を図っている。安全性・公共性・主体性・社会性・感性・表現力の6つである。自分に合ったねらいをもち、達成したことを自覚する活動を目指している。

③ 代掻きによる実体験

農耕に土作りは欠かせないという職員と応援団の考えにより実施している。

(3) 達成感と感謝の気持ちを表す取組

①八和田米を食べる会

児童や地域の方と炊きたての御飯をよそって食べた。その際、高学年はおかずを自分で作る、低学年は保護者と一緒に作るなどして感謝の気持ちを表した。

②お米の地域配付

収穫したお米を分けて地域の施設に配付した。保育園・学童・老人養護施設へ児童が届けて、交流を図ることができた。米を入れる袋には、児童から募集したキャラクターで作ったラベルを貼り、ブランド化を図った。来校者や協力者にお礼としてさし上げているが、皆さんに喜んでいただけるだけでなく、学校の教育活動を知っていただくことに大変役立っている。



(4) 保護者・地域と連携した取組

①保護者と家庭学習の共通行動

本校では、保護者の一人一役教育支援活動に取り組んでいる。今年度からは、家庭学習の共同化を図るため、学校より「家庭学習のしおり」「年間学習予定」を配付したり、「夏休みの生活表」を見直したりした。学級活動(2)で「ねらいを達成しよう」と学習し、毎週、振り返りを行うようにもした。合わせて、懇談会で保護者にも話し共通理解を図った。このようにして「目標を絶対に達成させる」経験を積み重ねている。

②地域との連携

保育園が隣接し学童も近いことから、学期1回の情報交換会を実施している。中学校区連絡協議会も長く続けられていて、児童生徒の健全育成の面から共通理解・共通行動をとることができるようにしている。民生児童委員との話し合いも定例化している。このように互いに顔の見える組織づくりが、よりよい接続や連携する関係をつくっていると思われる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 応援団の意見を取り入れることで窓口が複数化し、職員全体の取組になっている。
- イ 担当者が交渉することで、支援内容が明確になり教育効果が上がった。
- ウ 達成感と感謝の気持ちを表すことで、交流を深め、その活動を通し児童の自主性が育まれてきた。
- エ 保護者・地域との連携により学校・家庭・地域の教育力が向上してきた。

(2) 課題

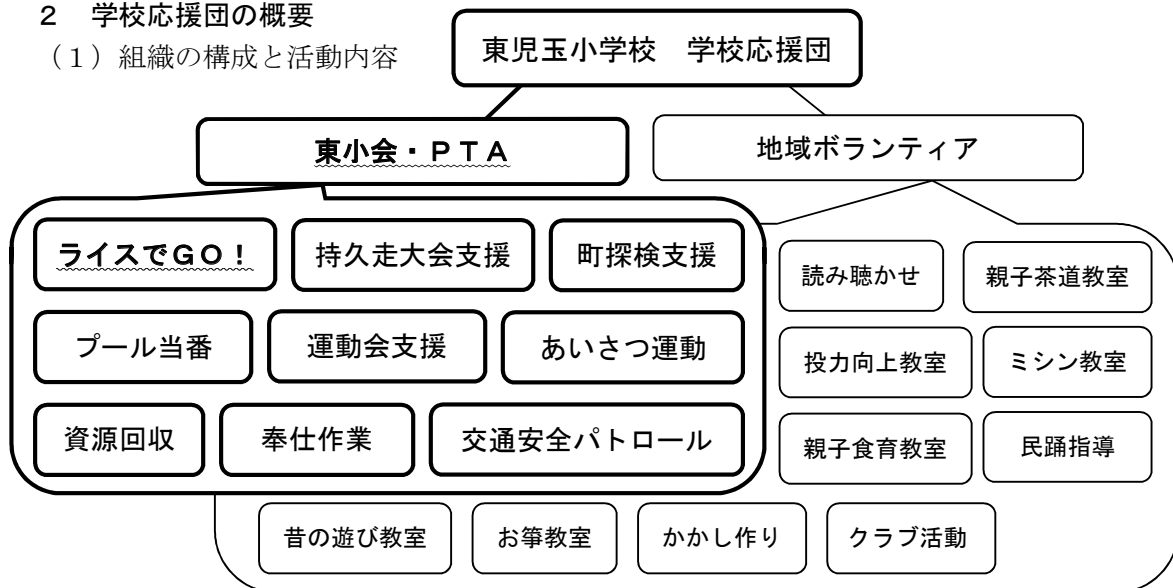
- ア 応援団との共通理解を更に深めていくために、年間を見通した効率の良い会議を計画したい。
- イ 教育課程への位置付けを明確にし、ねらい達成にあった支援とするように配慮した双方向の関係づくりを一層深めるようにしたい。

1 研究のねらい

東児玉小学校応援団は、学校・家庭・地域が一体となって児童の育成に取り組み、本校の活性化を図り、家庭や地域の教育力の向上、児童の学習意欲の向上等に多くの成果を残してきた。その応援団活動の中心が歴代のPTA正副会長により構成される「東小会」という組織であり、昭和43年の設立以来、本校学校応援団として活躍している。構成員は、町役場職員や農家、近隣地域に勤務されている方等も多く、それらの方々が「学校を応援する」という高い意識の下、地域の特色を生かした様々な体験活動に取り組んでおり、多くの地域ボランティアの方がそれぞれの体験活動についてよく理解し、進んで活動している。このように地域の学校に対する期待は、ますます高まっており、職員がそれに答えるため、協力いただく事業の活動内容を理解し、さらに計画的に進めていく必要がある。以上のことから、「学校・家庭・地域との絆を深める学校づくり」を推進することをねらいとして研究を進めることとした。

2 学校応援団の概要

(1) 組織の構成と活動内容



(2) 本校の特色ある活動

本校の特色というべき活動になっているのが、5年生の総合的な学習の時間で行っている米作り体験活動「ライスでGO!」である。

平成12年から始まった総合的な学習の時間内で行われる体験活動で、粃まきから稲刈り、収穫祭までを東小会が中心となり支援をいただき、それに加え保護者、地域の方々の協力を得ながら行っている。

3 研究内容

地域の特色を生かした様々な取組の中から特に米作り体験活動「ライスでGO!」の取組について紹介する。

(1) 粃まき 5月には、古代米(赤米・黒米・緑米)の粃まき体験を行った。児童は、

粃まき機のハンドルを回し、上手に苗箱に粃まきを行うことができました。その際、「水を含んだ苗箱は、重くなるので慎重に扱うんだよ」等の声をかけてもらい、張り切って活動していた。

- (2) 田植え 6月に、餅米と古代米の苗を手で植えた。その後、小昼飯（こじゅうはん）という休憩時間に、おまんじゅうを食べ、お茶を飲みながら休憩し、東小会の人と楽しそうに話をしていた。



- (3) 稲の観察 夏休み中には、児童が交代で稲の観察を行った。株の本数と稲の高さを毎日記録した。児童は、稲の成長の様子を体験的に学ぶことができた。
- (4) かかし作り 9月には、2年生が生活科の学習で、かかし作りを行った。老人会の方、保護者の方の協力で、立派なかかしができた。
- (5) 稲刈り 10月には、稲刈りを行った。児童が一人一人稲刈り用の鎌を持ち、真剣な様子で稲を刈っていた。刈った稲を麻紐で結び、今ではほとんど見かけなくなった「はんで」という稲を干す台にかけた。東小会の方や保護者の方の協力で、短時間で安全に作業を終えることができた。

- (6) 収穫祭 11月に収穫祭を行った。収穫祭では、東小会の方、保護者の方の他、農業女性アドバイザーの方など約60名と職員10名が児童と一緒に餅つきを行い、その後、きな粉餅とあんころ餅を食べながら今年の米の収穫を関係者全員で祝った。



- (7) 餅米の販売 天候不順により、今年度収穫した餅米は例年より少なめであったが、収穫祭や食育教室で使用する分を除き、1kgあたり400円で5年生の家庭に販売した。毎年好評で、今年度も160kg程の購入希望があった。そこで得た収入は、次年度の「ライスでGO!」の活動資金としている。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

「ライスでGO!」や様々な取組を通して、学校と地域の方との絆を深めることができた。

ア それぞれの活動の計画・準備・指導等を通して連携の強化を図ることができた。

イ 多くの体験活動によって成長した児童の姿を見せることができ、保護者に学校の教育活動を理解してもらうことができた。

ウ 東小会の方々が、更に地域の人を学校に結びつけてくれ、学校を支える輪が徐々にではあるが、広がりつつある。

(2) 課題

ア 学校応援団、地域人材との連絡調整を行い、様々な行事への協力者を確保していくことが必要である。

イ 学校が多くの活動を抱えているため、効率化・職員の負担軽減を図りつつ、取組をよりよいものにしてしながら継続できるようにしていくことが必要である。

ウ 開かれた学校づくりを推進するため、さらに地域の声を生かした教育活動を行っていくことが必要である。

1 研究のねらい

本校の学校応援団は準備期間を経て、平成20年度より本格的な活動を始めて、現在71名の方々に登録していただいている。

しかし、応援団活動に携わっていただいていた方が高齢等を理由に退団される傾向にあり、新たな人材確保等が課題となっている。常に見直しを図り応援団員の確保と、組織の充実に努めていきたい。

2 学校応援団の概要

(1) 地域の特色を活かした応援団組織の構成

- ・学習応援団、安全応援団、いきいき応援団

(2) 活動の充実を目指した諸会議の実施

- ・コーディネーター会議、安全応援団会議、いきいき応援団会議

(3) 地域の教育力を活かす人材の確保

- ・人材発掘、人材募集

3 研究内容

(1) 地域の教育力を活かした応援団活動の実践

ア 学習応援団

ゲストティーチャー：稲作体験・書き初め指導・手話等

学習ボランティア：郷土料理・山や川の自然等

読み聞かせ：月曜日の朝隔週、全学年対象



田植え

イ 安全応援団

見守り隊：自宅周辺での見守り

パトロール隊：自宅周辺でのパトロール

子供110番の家：子供の緊急避難場所と犯罪の抑止力



登校指導

ウ いきいき応援団

いきいき教室：火曜日の6校時、1年生対象

(2) 応援団活動充実のために諸会議の実施

ア コーディネーター会議

毎月1回、4名のコーディネーターが集まり、応援団員の見直しをしたり、学校の様子を話し合ったり、充実した応援団活動になる会議をもっている。



コーディネーター会議

また、コーディネーターの皆さんには、3つの応援団の代表者としても活躍していただいている。

イ 安全応援団会議

スクールガードリーダーや駐在さんも出席する安全応援団会議を年に一度、行っている。今年度は夏休み前に行い、駐在さんからは「子供に対する声かけ事案」のお話をいただいたり、参加者全員で地域の様子を話し合ったりして、安全や防犯への意識を高めた。

ウ いきいき応援団会議

年度初めに一度、いきいき教室指導者の方が集まり、年間の予定を立てたり、情報交換を行ったりしている。今年度の指導者は13人で、年間一人2～3回担当していただいている。内容は、あんどん作りや繭玉作り等、楽しみながら地域文化を継承するよう努めている。

(3) 学校応援団の人材確保と組織づくり

ア ホームページで常時募集

ホームページで広く学校応援団の紹介をするとともに、年間を通じて応援団員の募集をしている。

イ 三田川小いきいき教室ボランティア募集

地域に募集文書を回覧し広く指導者を募るとともに、対象である一年生の保護者にも指導者として参加いただくよう、入学式当日校長から新入生の保護者に呼びかけている。

ウ 学校応援団へのご協力のお礼並びに継続のお願いについて

年度末には、応援団員一人一人にお礼の文書を配布し、学校としての感謝の気持ちを伝えるとともに、次年度も引き続き学校応援団への協力をお願いしている。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

ア 地域の教育力を学校教育に活かすことで、学校と地域との連携意識が高まり、開かれた学校教育を推進することにつながっている。

イ 応援団会議を開催することにより、組織的・計画的に活動することができるとともに、教職員と地域住民との連携が深まっている。

ウ 学校応援団員を募ったり、お願いしたりすることにより、組織や活動の充実を図り継続的な活動を推進することができている。

エ コーディネーターの声

子供たちや先生方にあたたかく迎えられて、気持ちよく活動することができた。学校応援団が充実するにつれて、より地域に開かれた学校になっている。学校と地域のパイプ役として、子供たちが気持ちよく学習できるよう、今後も活動していきたい。

(2) 課題

ア 毎年見直しを図り、組織の充実と活動内容の充実を図っていきたい。

イ 地域の人材を発掘し、応援団の後継者を確保していきたい。

ウ 保護者の応援団への参加も引き続きお願いしていきたい。

研究テーマ 自校と地域の実態に応じて学校応援団を活用した『地域とともに歩む』教育の推進

1 研究のねらい

本校では、「輝く自分 誇れる学校」の学校経営方針を教育活動に具現化するにあたり、人とのふれあいや体験活動を充実させて、児童の自己有用感や社会性を高めていくことを目指している。今年度創立130周年を迎える伝統校のよさを生かして、学校・家庭・地域が一体となって、特色ある教育活動を推進し、家庭・地域の教育力の向上や学校の活性化を図ることで、地域と共に歩む学校づくりを推進している。

2 学校応援団の概要

(1) 事業概要

学期	主 な 事 業	
1 学期 夏季休業中	学校応援団の募集及び登録の確認 第1回学校応援団推進会議（年間計画の作成）（5月） 「ボランティアと学校職員との意見交流会」	◆学習ボランティア 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間等での体験学習の支援
2 学期	第2回学校応援団推進会議（実施状況報告）（10月） 「感謝の会」	◆安全ボランティア 登下校時の通学路での安全指導
3 学期	第3回学校応援団推進会議 （今年度の反省・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認）（3月）	◆環境ボランティア 施設設備の清掃及び環境整備

(2) 主な活動内容

①外国語活動

担任と協働した学習指導、教材の準備等を行う。

②体験活動

「国語科」や「総合的な学習の時間」等の年間指導計画に基づき、読み聞かせ、地域の環境学習、バケツ稲栽培、サツマイモ栽培、味噌づくり等の学習活動や体験活動の指導を行う。

③トイレ清掃

経年劣化が目立つトイレの清掃、トイレ環境整備の資料作成・提案を行う。

④図書室整備

図書支援員と協働した貸し出し・返却の支援、掲示物の作成や本の修理を行う。

⑤校庭整備・行事等への協力

樹木の剪定や除草活動等の力仕事のサポート、バザーの設営・販売の協力等を行う。

⑥登下校の安全指導

通学路で児童の安全指導を行う。

⑦近隣の高校との連携（県立越谷北高校）

高校生が児童の陸上大会の練習、書初め展の練習の指導補助を行う。

3 研究内容

- (1) ニーズのマッチング（外国語活動・読み聞かせボランティア・安全ボランティア）
外国語活動の支援は、ボランティアの方が native speaker（ネイティブスピーカー）

役を務め、外国語活動の時間に担任と協働して学習指導にあたっている。英語に堪能な保護者の方がいたことから生まれた活動だが、「ICTを活用しながらも、より生の英語に触れられる授業がしたい」という教員の願いと、「子供たちに体験的に英語を学ばせたい」という保護者の願いがマッチして、今日まで続いている。

また、読み聞かせボランティアは、本校の子供たちが、より自然に本に親しめる環境づくりを推進したいと考えていたところ、地域から「子供たちに本の楽しさを伝える活動をさせてほしい」という申し出があったことから始まった。不定期でスタートした読み聞かせは、現在、年間指導計画が作成されるまでになっている。

さらに、安全ボランティアは、本校の通学路の実態から、子供の安全確保が課題となっていた事情に理解を示してくださる自治会長や学校評議員より、学校から地域にボランティアを募る機会を設けてもらったことが始まりで、子供の安全を守るという趣旨に賛同する地域の方が集まって、現在のボランティア体制ができあがった。

(2) 家庭・地域との連携（学校応援団推進会議・意見交換会）

活動を継続的に進めるためには、ボランティアの方が無理なく活動できることと、学校とボランティアの方の相互に、「協力してもらえてよかった・協力してよかった」という喜びが必要である。こうした連携を図るために、本校では年間3回「学校応援団推進会議」を開催している。

今年度は特に、コーディネーターから「先生方と応援団の間のコミュニケーションを高めてはどうか」という提案があり、夏季休業中に別途、「学校応援団と職員の意見交換会」を開催した。普段様々な活動をしているが、職員と顔を合わせる機会が少なかったボランティアの方からは、「子供たちから名前を聞いていた担任の先生が分かってよかった」と安心してもらった。

また、授業や読み聞かせで支援していた多く機会が多いボランティアの方からは、「普段は打合せの時間を確保することが難しく、教員と話したくても話せなかったので、この会を開いてもらえてよかった」という意見もいただいた。



4 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

「子供たちの学習意欲が向上したこと、思いやりや感謝の心が育成されたこと、教育計画における体験活動の充実化が図られたこと、学校と地域の一体感が広がったこと」があげられる。これらは、各組織のボランティアの方が、それぞれの特性を生かして具体的な支援ができていることを物語っているが、学校もボランティアの方も相互に「活動してもらえてよかった・活動してよかった」と思える関係を築けていることが、大きな成果である。今後も、こうした意識を共有していくことができるように、学校が核となって、相互の協力体制を築いていくことが大切である。

(2) 課題

課題としては①連絡・調整の時間確保②ボランティアの高齢化や固定化の解消③各ボランティア組織のメンバーの増員があげられる。課題を解決するために、ボランティア組織の中には新メンバーへの引き継ぎをしているところがある。

学校は、今後も自治会に協力をお願いすることや、保護者や地域へ各ボランティアの活動の実践、学校と保護者・地域の方が、相互によかったと思える協力関係を築けていることを広報していくことに取り組んでいきたい。

平成27年度
「学校応援団」「放課後子供教室」
実践事例集
埼玉県教育委員会

平成28年3月発行

編集 埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6975

生きる力を育てきずな絆を深める埼玉教育